

第4章 対象事業実施区域およびその周囲の概況

4-1. 自然的状況

(1) 気象の状況

対象事業実施区域周辺地域は、滋賀県の気候区分(滋賀県自然保護財団「滋賀県の自然」1979)によると、湖東南気候区に属している。本気候区の年平均気温は13～14℃であり、年間降水量は1,500～1,600mmと滋賀県内では最も少なく、瀬戸内型の気候である。

対象事業実施区域周辺における既存の気象観測地点としては、西北西 約6.0kmに彦根地方気象台東近江地域気象観測局があり、平成29年の気象の状況は表4-1-1に示すとおりである。

また東近江地域気象観測局における平成20年(2008年)～平成29年(2017年)における風配の状況は表4-1-2および図4-1-2、図4-1-3に示すとおりであり、冬季は北西の風が、夏季は南東の風が優占している。

表4-1-1 月別気象表(平成29年)

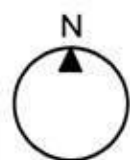
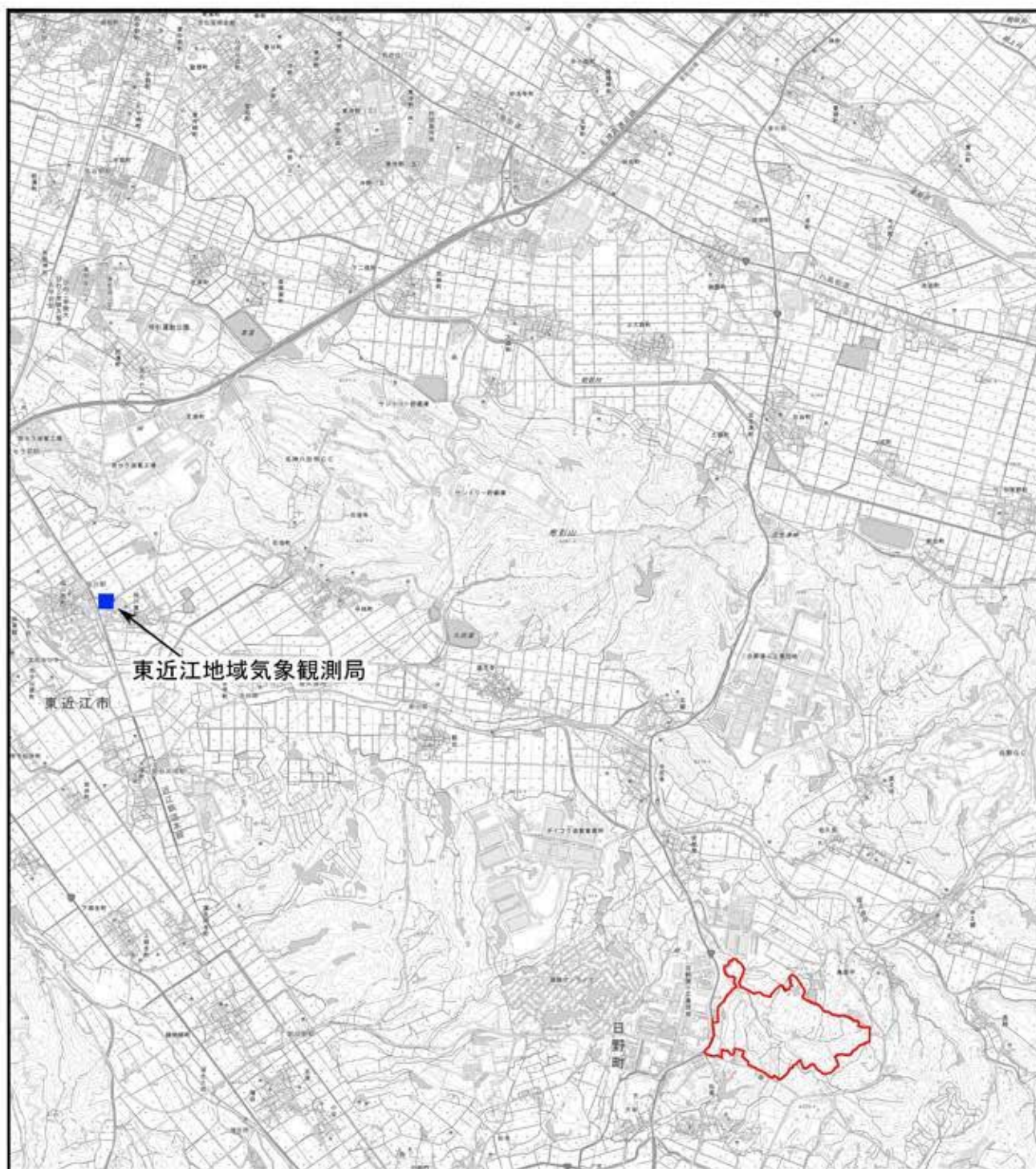
	風向・風速		気温					降水量			日照時間 (時間)
	平均風速 (m/s)	最多風向 (16方位)	平均気温 (℃)	日最高気温の 平均(℃)	日最低気温の 平均(℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	降水量の 合計(mm)	日降水量の 最大(mm)	10分間降水量 の最大(mm)	
1月	1.9	北西	2.9	7.4	-1.0	13.2	-5.4	132.0	28.0	1.5	122.0
2月	2.0	北西	3.1	7.4	-0.8	13.1	-3.5	92.0	18.5	2.0	95.7
3月	2.0	北西	6.3	12.1	1.0	19.0	-3.3	87.0	36.5	2.0	162.2
4月	2.0	東南東	12.9	19.0	6.9	27.3	-0.3	96.0	20.0	3.0	185.2
5月	1.5	東南東	18.8	25.5	12.9	31.2	6.5	67.5	35.0	2.5	231.7
6月	1.8	北北西	20.6	26.4	15.4	30.9	9.5	142.5	52.5	12.5	215.6
7月	1.3	南東	26.8	32.1	23.2	34.9	19.5	127.5	25.0	14.5	166.5
8月	1.7	南東	26.8	32.1	22.9	35.7	18.5	146.0	57.5	10.5	191.3
9月	1.8	東南東	21.7	27.1	16.8	30.7	12.0	112.5	32.0	8.0	169.5
10月	1.7	北北西	16.5	20.3	13.1	29.1	5.7	532.5	217.5	5.5	91.0
11月	1.5	東南東	9.5	15.3	4.4	21.5	-0.2	53.5	14.5	1.0	159.5
12月	1.9	西	4.0	9.2	-0.1	14.1	-3.2	44.5	21.0	1.5	143.7

出典：「過去の気象データダウンロード」(気象庁ホームページ)

表4-1-2 風配の表(平成20年～平成29年)

	calm	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	全方位
～ 0.2	7.8																	7.8
0.3 ～ 0.4		0.2	0.2	0.3	0.4	0.7	1.0	1.0	0.9	0.6	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	6.8
0.5 ～ 0.9		0.7	0.7	0.7	0.9	2.5	4.8	3.8	2.2	1.2	0.6	0.5	0.5	0.5	0.7	1.0	1.0	22.4
1.0 ～ 1.9		2.1	1.5	0.6	0.5	2.0	5.6	2.9	2.1	1.5	0.8	0.6	1.0	1.3	1.6	2.6	3.0	29.8
2.0 ～ 2.9		1.8	1.2	0.1	0.0	0.1	0.2	1.2	1.1	0.6	0.2	0.2	0.8	1.2	1.0	2.4	2.8	14.9
3.0 ～ 3.9		0.9	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	1.3	0.3	0.1	0.0	0.1	0.3	0.8	0.6	2.0	2.5	9.5
4.0 ～ 5.9		0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	1.9	3.1	7.8
6.0 ～		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.6	1.2
全階級	7.8	6.1	4.2	1.6	1.9	5.3	12.0	11.5	6.8	3.9	1.9	1.6	2.8	4.3	4.7	10.5	13.2	100.0

出典：「過去の気象データダウンロード」(気象庁ホームページ)



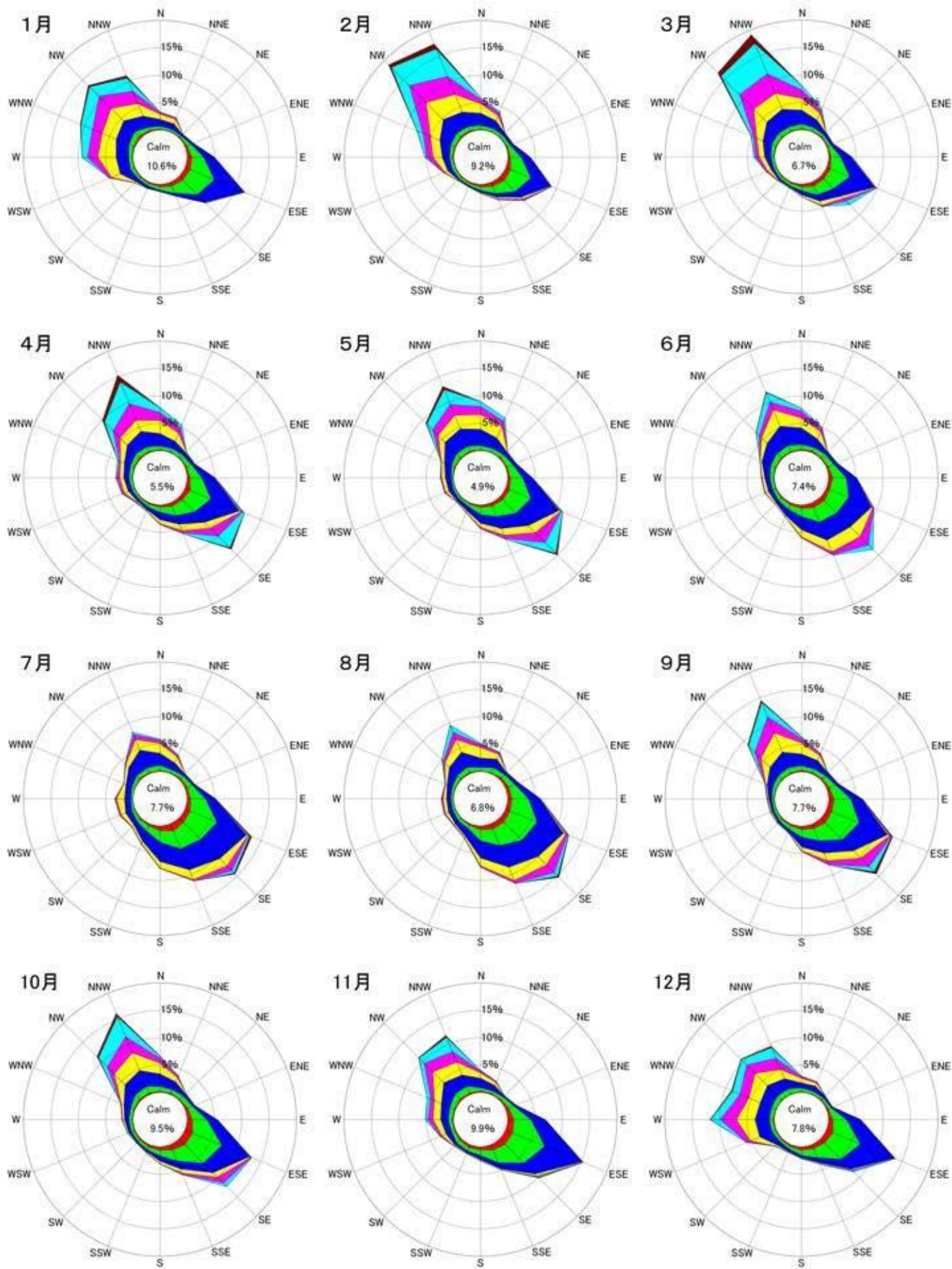
1 : 50,000

1,000m 0 1,000 2,000



対象事業実施区域

図 4 - 1 - 1 気象調査地点位置図



Calm : 0.2m/s以下

0.3~0.4m/s

0.5~0.9m/s

1.0~1.9m/s

2.0~2.9m/s

3.0~3.9m/s

4.0~5.9m/s

6.0m/s~

図4-1-2 東近江地域気象観測局における月別の風配
(2008年~2017年)

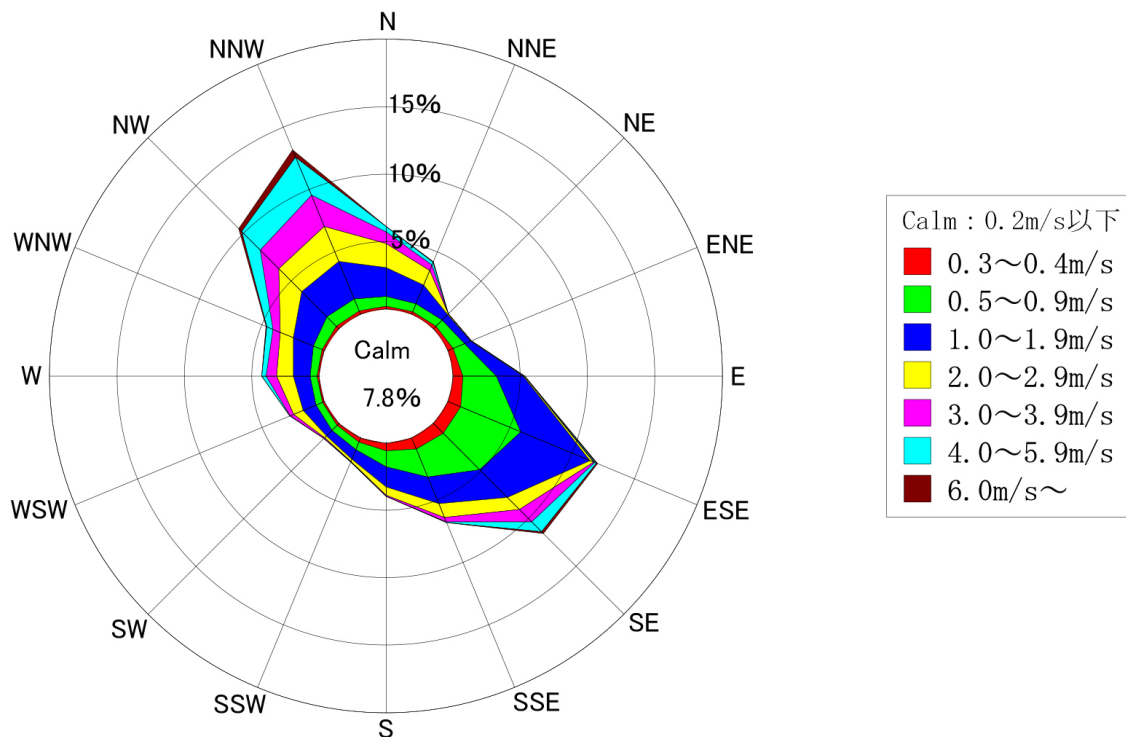


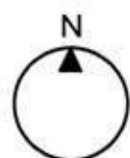
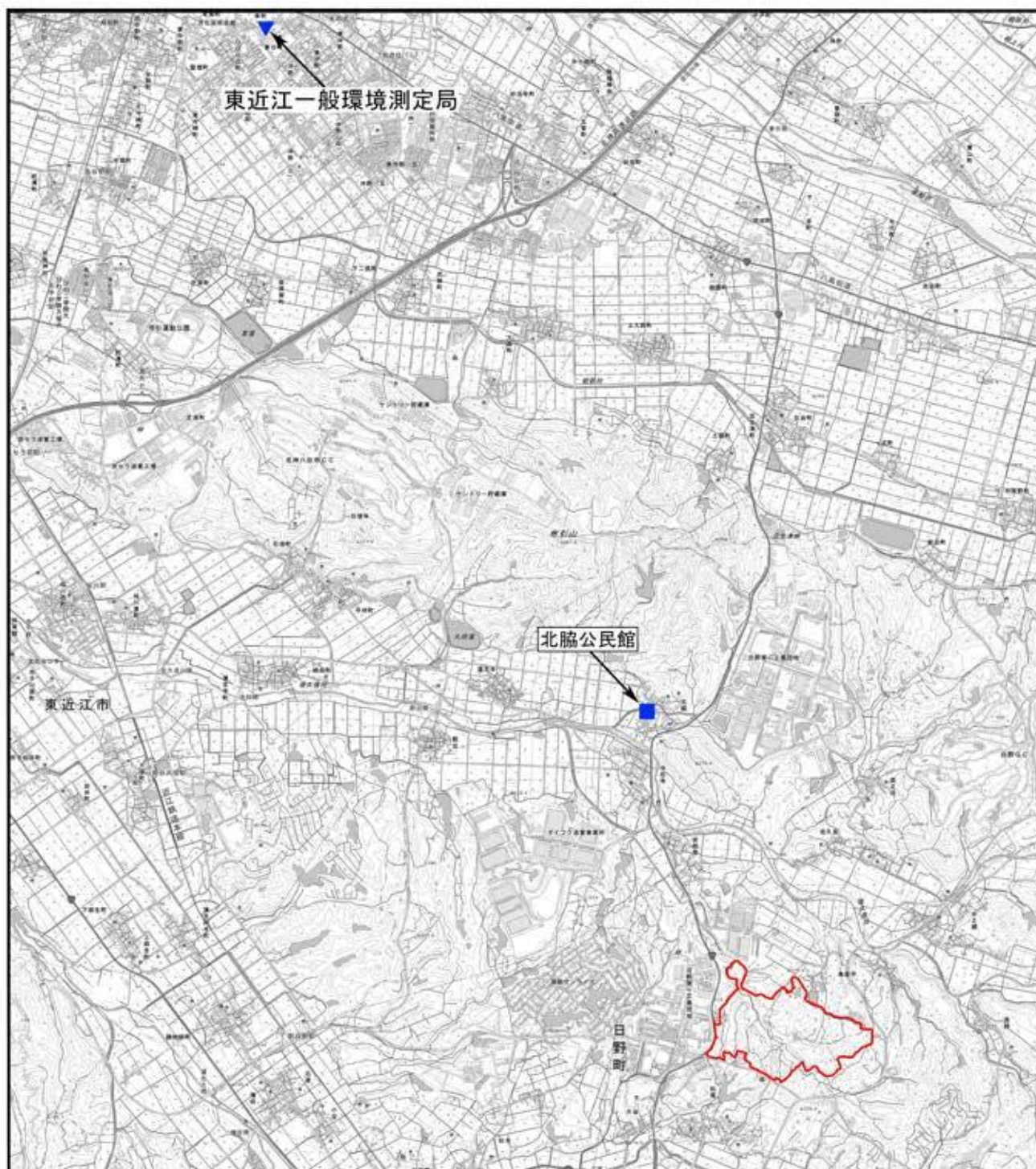
図 4 - 1 - 3 東近江地域気象観測局における年間の風配の状況(2008年～2017年)

出典：「過去の気象データダウンロード」(気象庁ホームページ)

(2) 大気質の状況

対象事業実施区域周辺における既存の大気汚染常時監視測定局としては、北北西 約8.5 kmに東近江一般環境測定局があり、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、窒素酸化物、炭化水素、微小粒子状物質について通年の測定が実施されている。また有害大気汚染物質についても測定が行われている。

対象事業実施区域の北 約2.2kmの北脇公民館では、近藤産業株式会社の日野工業団地開発事業および中部清掃組合の中部清掃組合ごみ処理施設整備事業の環境影響評価で四季に各一週間の現地調査が実施されている。



1 : 50,000

1,000m 0 1,000 2,000

図 4 - 1 - 4

大気質調査地点位置図



対象事業実施区域

凡 例



滋賀県大気汚染常時監視測定局



既存資料（近藤産業株式会社「日野工業団地開発事業に係る環境影響評価書」（1993）、中部清掃組合「中部清掃組合ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価書」（2005））調査地点

① 二酸化硫黄の状況

東近江局における二酸化硫黄の年間値を表 4-1-3 に、月変動および年間値の推移を図 4-1-5 に示す。

これによると、二酸化硫黄濃度の季節変化はほとんど無く、経年的には近年はほぼ横ばいで推移している。

年平均値は0.001～0.004ppm、1時間値の最大値は0.008～0.025ppmであり、短期的評価で環境基準を満足している。また日平均値の年間2%除外値は0.002～0.007ppmであり、長期的評価でも環境基準を満足している。

また北脇公民館における観測値は東近江局と比べてやや高くなっている。

② 浮遊粒子状物質の状況

東近江局における浮遊粒子状物質の年間値を表 4-1-4 に、月変動および年間値の推移を図 4-1-6 に示す。

これによると、浮遊粒子状物質濃度の季節変化は春から夏にかけてやや高く、冬場に低くなる傾向が見られ、経年的には近年は概ね横ばいで推移している。

年平均値は0.015～0.030mg/m³、1時間値の最大値は0.071～0.334mg/m³であり、短期的評価では近年は環境基準を満足している。また日平均値の年間2%除外値は0.035～0.069mg/m³であり、長期的評価で環境基準を満足している。

また北脇公民館における観測値は東近江局と概ね同程度となっている。

③ 二酸化窒素の状況

東近江局における二酸化窒素の年間値を表 4-1-5 に、月変動および年間値の推移を図 4-1-7 に示す。

これによると、二酸化窒素濃度の季節変化は夏に低く、秋から冬場に高くなる傾向が見られ、経年的には若干低下傾向が見られる。

年平均値は0.008～0.013ppm、日平均値の年間98%値は0.021～0.027ppmであり、長期的評価で環境基準を満足している。

また1時間値の最大値は0.042～0.079ppmであり、中央公害対策審議会による指針を満足している。

また北脇公民館における観測値は東近江局と概ね同程度となっている。

表 4 - 1 - 3 二酸化硫黄の測定結果

	有効測定 日数	測定時間	年平均値	1時間値が 0.1ppmを超えた 時間数とその割合		日平均値が 0.04ppmを超えた 日数とその割合		1時間値の 最高値	日平均値の 2%除外値	日平均値が 0.04ppmを 超えた日が 2日以上連続 したことの 有無	環境基準の 長期的評価に よる日平均値 が0.04ppmを 超えた日数
	(日)	(時間)	(ppm)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(ppm)	(ppm)	(有×無○)	(日)
平成19年度	364	8,687	0.004	0	0.0	0	0.0	0.025	0.006	○	0
平成20年度	363	8,672	0.004	0	0.0	0	0.0	0.014	0.006	○	0
平成21年度	360	8,620	0.003	0	0.0	0	0.0	0.018	0.007	○	0
平成22年度	361	8,609	0.001	0	0.0	0	0.0	0.012	0.002	○	0
平成23年度	364	8,695	0.001	0	0.0	0	0.0	0.013	0.002	○	0
平成24年度	362	8,662	0.001	0	0.0	0	0.0	0.009	0.002	○	0
平成25年度	361	8,636	0.001	0	0.0	0	0.0	0.021	0.003	○	0
平成26年度	353	8,444	0.001	0	0.0	0	0.0	0.009	0.002	○	0
平成27年度	345	8,263	0.001	0	0.0	0	0.0	0.008	0.002	○	0
平成28年度	343	8,181	0.001	0	0.0	0	0.0	0.011	0.002	○	0
平成29年度	361	8,649	0.001	0	0.0	0	0.0	0.007	0.002	○	0
平成30年度	363	8,667	0.001	0	0.0	0	0.0	0.008	0.002	○	0
令和元年度	364	8,690	0.001	0	0.0	0	0.0	0.009	0.002	○	0

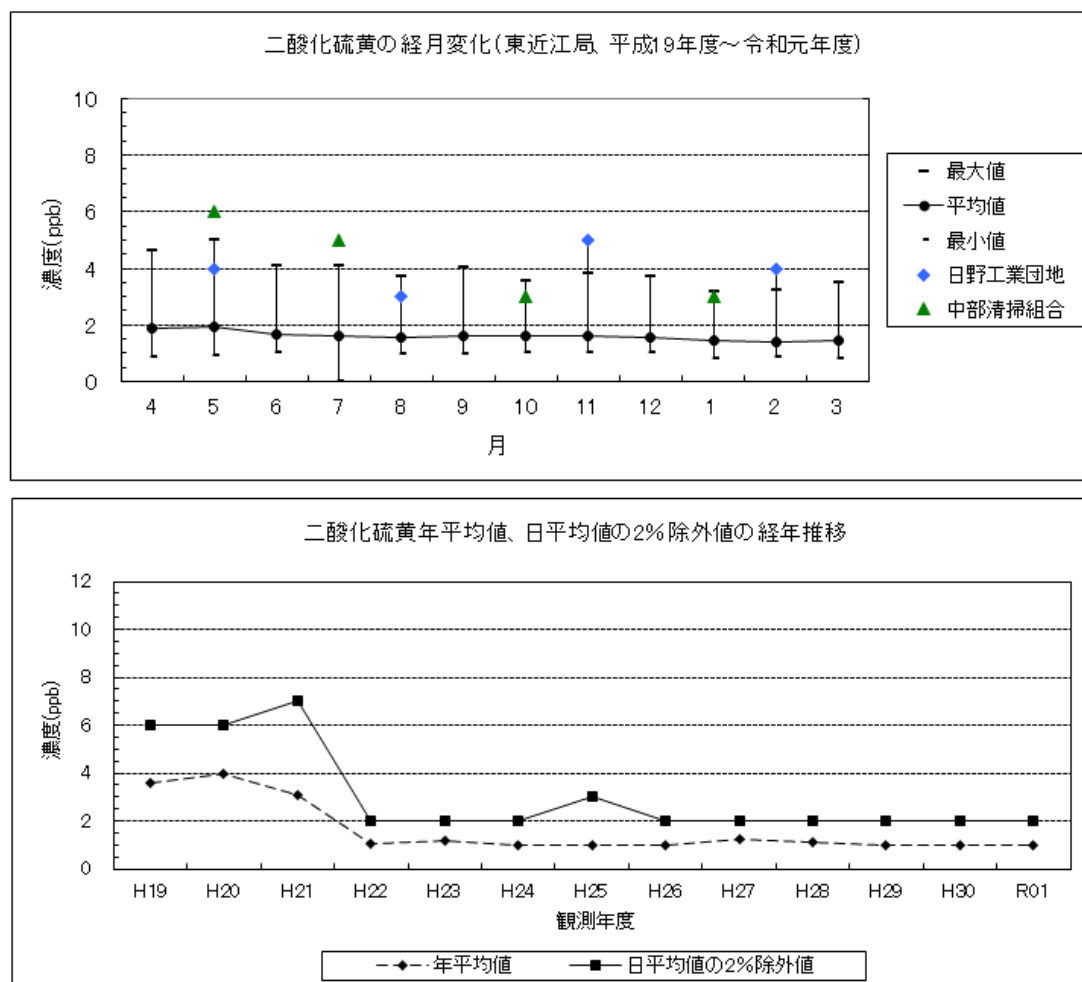


図 4 - 1 - 5 二酸化硫黄濃度の月変動、年間値の推移

出典：「大気常時監視（自動測定局）調査結果（年間値・月間値・経年変化）」（滋賀県ホームページ）

表 4 - 1 - 4 浮遊粒子状物質の測定結果

	有効測定 日数	測定時間	年平均値	1時間値が 0.20mg/m ³ を超えた 時間数とその割合		日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた 日数とその割合		1時間値の 最高値	日平均値の 2%除外値	日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日が 2日以上連続 したことの 有無	環境基準の 長期的評価に おける日平均値 が0.10mg/m ³ を 超えた日数
	(日)	(時間)	(mg/m ³)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(mg/m ³)	(mg/m ³)	(有×無○)	(日)
平成19年度	344	8,236	0.029	11	0.1	2	0.6	0.244	0.069	○	0
平成20年度	363	8,671	0.030	1	0.0	0	0.0	0.215	0.060	○	0
平成21年度	360	8,631	0.026	6	0.1	0	0.0	0.334	0.054	○	0
平成22年度	359	8,606	0.020	0	0.0	0	0.0	0.101	0.048	○	0
平成23年度	364	8,691	0.015	0	0.0	0	0.0	0.118	0.037	○	0
平成24年度	363	8,661	0.015	0	0.0	0	0.0	0.097	0.041	○	0
平成25年度	360	8,628	0.017	0	0.0	0	0.0	0.083	0.046	○	0
平成26年度	360	8,604	0.017	0	0.0	0	0.0	0.078	0.041	○	0
平成27年度	364	8,675	0.020	0	0.0	0	0.0	0.088	0.045	○	0
平成28年度	361	8,634	0.019	0	0.0	0	0.0	0.074	0.035	○	0
平成29年度	362	8,656	0.017	0	0.0	0	0.0	0.068	0.036	○	0
平成30年度	363	8,664	0.018	0	0.0	0	0.0	0.079	0.037	○	0
令和元年度	364	8,697	0.016	0	0.0	0	0.0	0.069	0.037	○	0

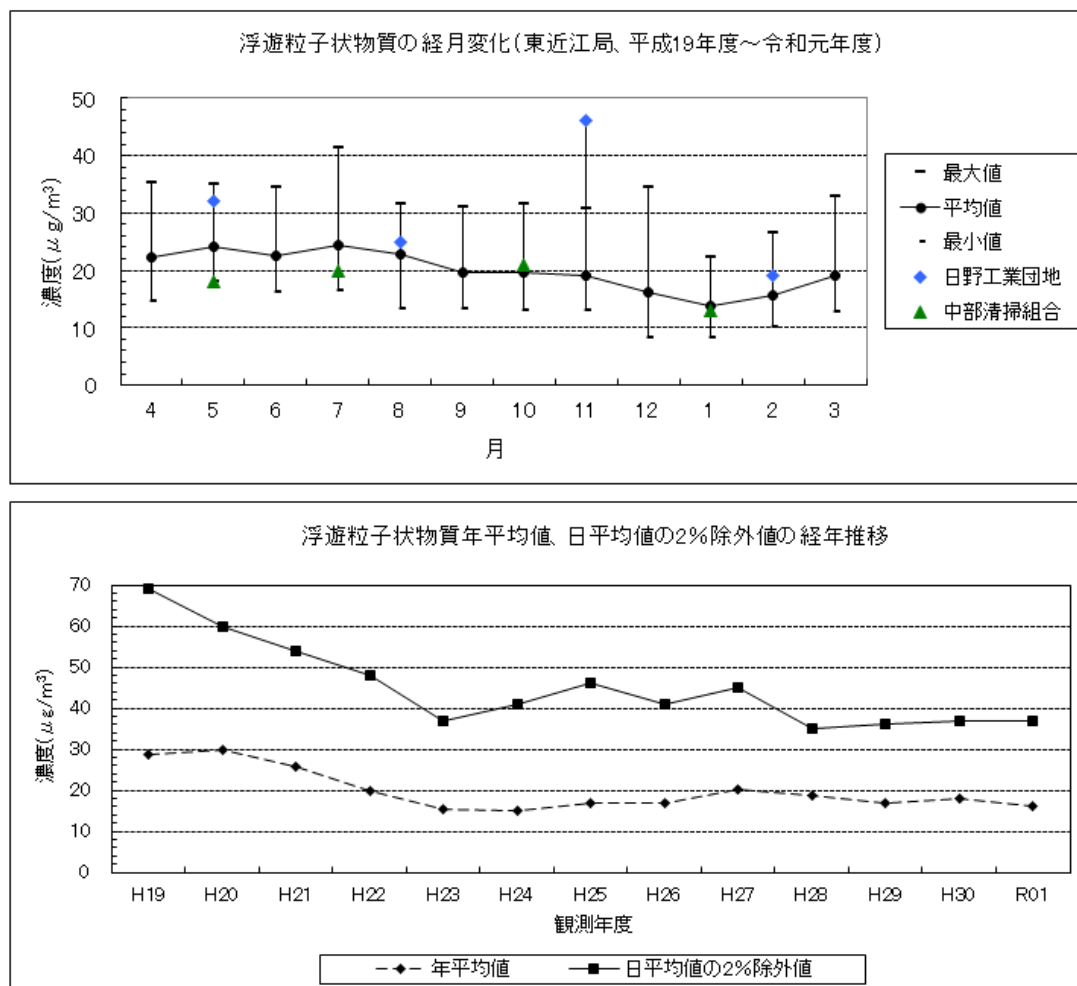


図 4 - 1 - 6 浮遊粒子状物質濃度の月変動、年間値の推移

出典：「大気常時監視（自動測定局）調査結果（年間値・月間値・経年変化）」（滋賀県ホームページ）

表 4－1－5 二酸化窒素の測定結果

	有効 測定 日数	測定 時間	年 平均値	1時間値 の最高値	1時間値が 0.2ppmを 超えた時間数 とその割合		1時間値が 0.1ppm以上 0.2ppm以下の 時間数とその割合		日平均値が 0.06ppmを 超えた日数と その割合		日平均値が 0.04ppm以上 0.06ppm以下の 日数とその割合		日平均値の 年間98%値	98%値的評価 による日平均値 が0.06ppmを 超えた日数
	(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(%)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(ppm)	(日)
平成19年度	364	8,691	0.013	0.052	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.027	0
平成20年度	363	8,669	0.011	0.079	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.025	0
平成21年度	360	8,618	0.010	0.049	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.024	0
平成22年度	347	8,270	0.011	0.051	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.027	0
平成23年度	354	8,466	0.011	0.043	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.025	0
平成24年度	352	8,459	0.010	0.046	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.023	0
平成25年度	360	8,635	0.010	0.050	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.025	0
平成26年度	362	8,645	0.009	0.048	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.024	0
平成27年度	363	8,670	0.009	0.042	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.021	0
平成28年度	363	8,659	0.008	0.052	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.022	0
平成29年度	363	8,663	0.008	0.041	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.021	0
平成30年度	363	8,666	0.007	0.037	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.019	0
令和元年度	364	8,685	0.006	0.034	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.018	0

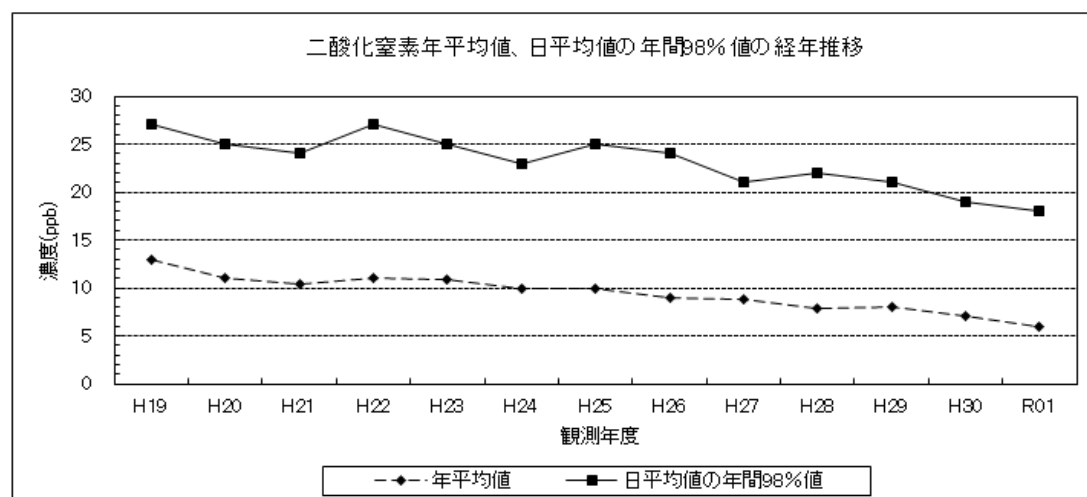
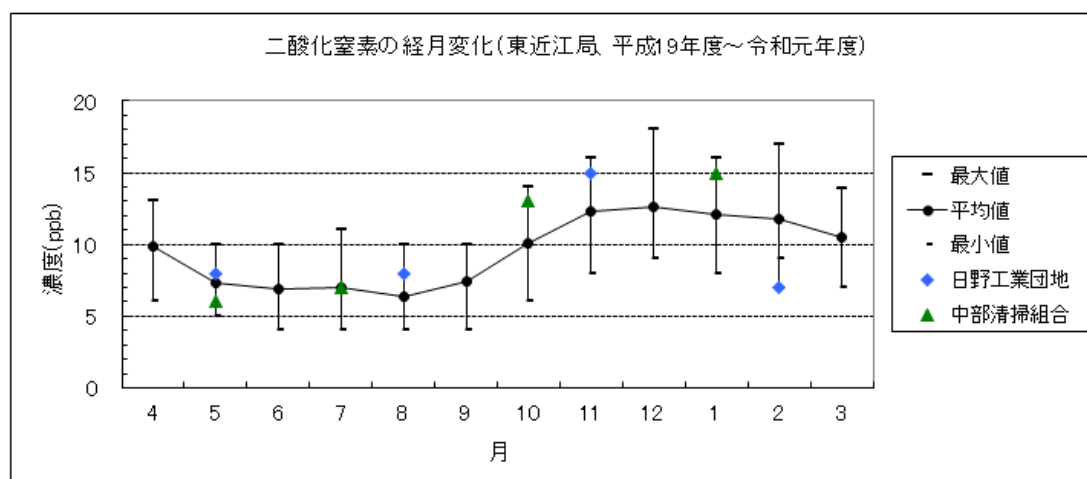


図 4－1－7 二酸化窒素濃度の月変動、年間値の推移

出典：「大気常時監視（自動測定局）調査結果（年間値・月間値・経年変化）」（滋賀県ホームページ）

④ 光化学オキシダントの状況

東近江局における光化学オキシダントの年間値を表 4-1-6 に、月変動および年間値の推移を図 4-1-8 に示す。

これによると、光化学オキシダント濃度の季節変化は春に高く、冬場に低くなる傾向が見られ、経年的には概ね横ばいで推移している。

昼間の 1 時間値の年平均値は 0.032～0.041ppm、最大値は 0.095～0.131ppm であり、環境基準を超過した時間は 304～820 時間となっている。

また北脇公民館における観測値は東近江局と概ね同程度となっている。

⑤ 非メタン炭化水素の状況

東近江局における非メタン炭化水素の年間値を表 4-1-7 に、月変動および年間値の推移を図 4-1-9 に示す。

これによると、非メタン炭化水素濃度の季節変化は春に低く、秋に高くなる傾向が見られ、経年的にはやや低下傾向が見られる。

年平均値は 0.11～0.15ppmC、6 時～9 時 3 時間平均値の最高値は 0.32～0.49ppmC であり、光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針を満足していない。

また北脇公民館における観測値は東近江局と概ね同程度となっている。

⑥ 微少粒子状物質の状況

東近江局における微小粒子状物質の測定は平成 24 年度から通年で実施されており、年平均値は 12.3～15.5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、日平均値の年間 98% 値は 26.5～39.6 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ である。また日平均値の最高値は 40.1～59.5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、環境基準を達成していない。

表 4－1－6 光化学オキシダントの測定結果

	昼間測定 日数	昼間測定 時間	昼間の 1時間値の 年平均値	昼間の1時間値が 0.06ppmを超えた 日数と時間数		日平均値が 0.04ppmを超えた 日数とその割合		昼間の 1時間値の 最高値	昼間の 日最高 1時間値の 年平均値
	(日)	(時間)	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)
平成19年度	366	5,410	0.035	93	452	1	2	0.122	0.051
平成20年度	365	5,320	0.035	87	498	1	2	0.131	0.051
平成21年度	365	5,404	0.041	129	820	2	3	0.129	0.056
平成22年度	365	5,381	0.040	116	737	0	0	0.119	0.056
平成23年度	366	5,409	0.032	66	304	0	0	0.103	0.045
平成24年度	360	5,297	0.036	81	446	0	0	0.107	0.050
平成25年度	365	5,374	0.038	102	584	1	2	0.125	0.052
平成26年度	365	5,391	0.036	74	469	0	0	0.106	0.049
平成27年度	366	5,413	0.036	78	462	0	0	0.104	0.050
平成28年度	361	5,328	0.036	59	335	0	0	0.095	0.048
平成29年度	365	5,393	0.037	73	456	0	0	0.107	0.050
平成30年度	365	5,400	0.035	56	355	0	0	0.108	0.048
令和元年度	366	5,414	0.036	72	383	1	1	0.120	0.048

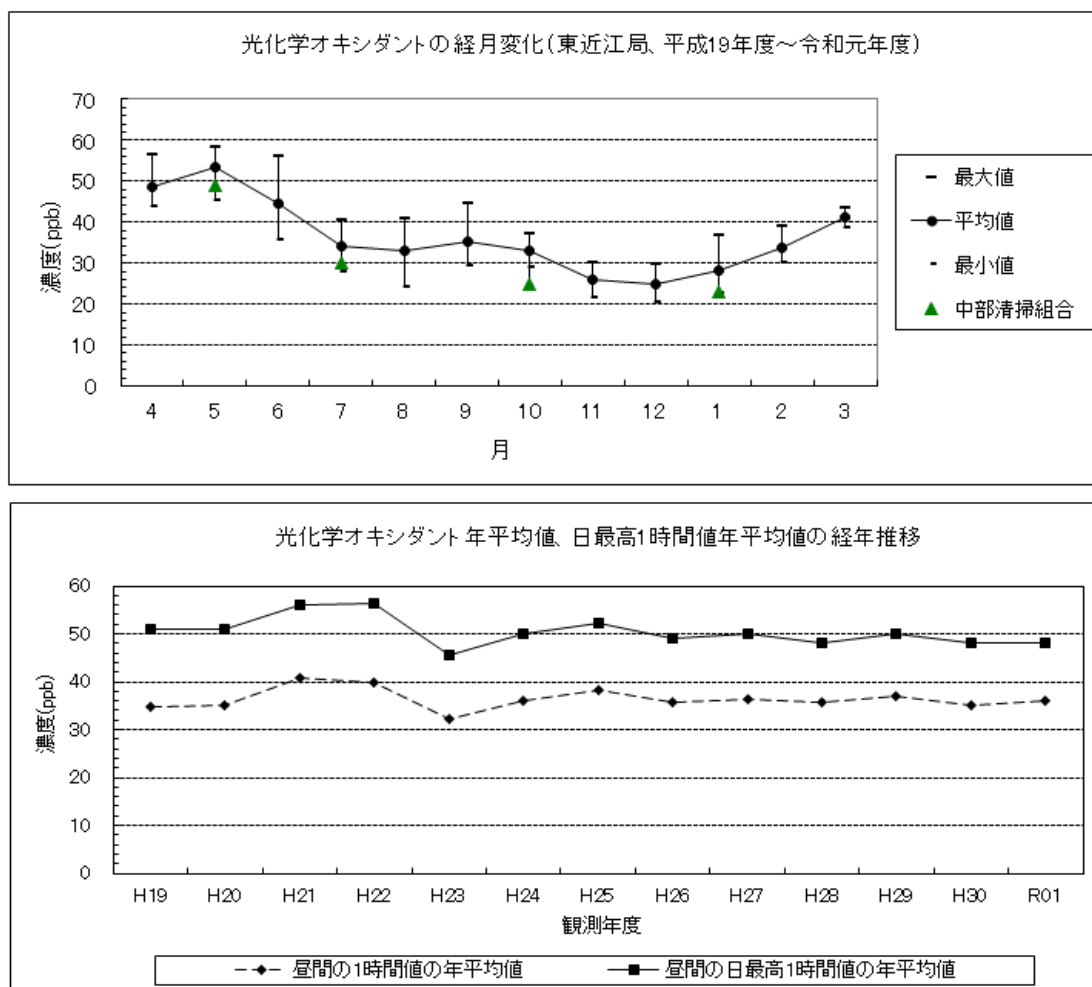


図 4－1－8 光化学オキシダント濃度の月変動、年間値の推移

出典：「大気常時監視（自動測定局）調査結果（年間値・月間値・経年変化）」（滋賀県ホームページ）

表 4 - 1 - 7 非メタン炭化水素の測定結果

	測定時間	年平均値	6～9時における年平均値	6～9時の測定日数	6～9時3時間平均値		6～9時3時間平均値が0.20ppmCを超えた日数とその割合		6～9時3時間平均値が0.31ppmCを超えた日数とその割合	
	(時間)	(ppmC)	(ppmC)	(日)	最高値	最低値	(日)	(%)	(日)	(%)
					(ppmC)	(ppmC)				
平成19年度	7,410	0.15	0.17	324	0.49	0.03	92	28.4	18	5.6
平成20年度	8,291	0.14	0.16	364	0.45	0.01	93	25.5	21	5.8
平成21年度	8,316	0.13	0.14	361	0.46	0.02	60	16.6	8	2.2
平成22年度	7,981	0.12	0.13	336	0.34	0.04	38	11.3	5	1.5
平成23年度	8,493	0.13	0.14	360	0.41	0.04	49	13.6	7	1.9
平成24年度	6,946	0.12	0.14	294	0.35	0.02	31	10.5	1	0.3
平成25年度	8,345	0.12	0.14	348	0.37	0.04	41	11.8	4	1.1
平成26年度	8,527	0.11	0.13	348	0.36	0.04	24	6.9	1	0.3
平成27年度	8,664	0.11	0.12	364	0.32	0.05	27	7.4	2	0.5
平成28年度	8,594	0.11	0.12	362	0.48	0.05	32	8.8	6	1.7
平成29年度	8,642	0.10	0.12	363	0.42	0.04	26	7.2	3	0.8
平成30年度	8,297	0.09	0.11	350	0.34	0.03	18	5.1	1	0.0
令和元年度	8,666	0.11	0.13	365	1.76	0.04	35	9.6	7	1.9

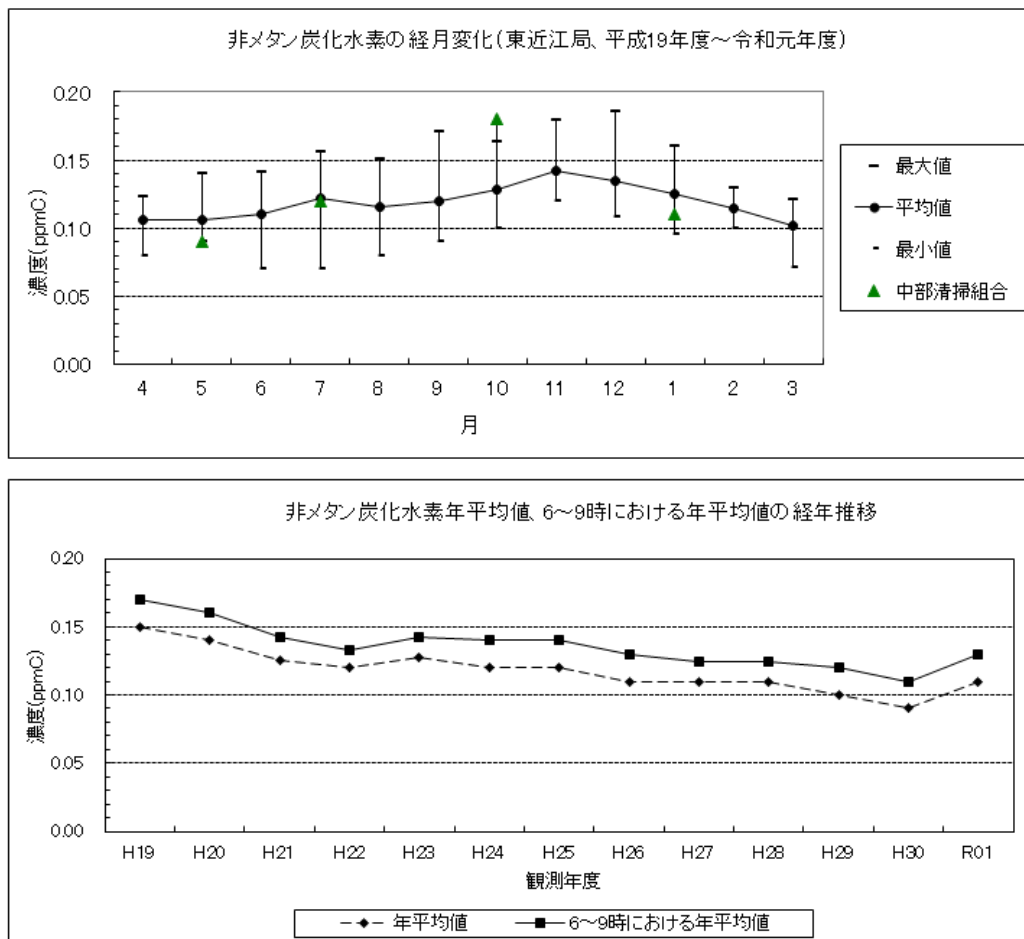


図 4 - 1 - 9 非メタン炭化水素濃度の月変動、年間値の推移

出典：「大気常時監視（自動測定局）調査結果（年間値・月間値・経年変化）」（滋賀県ホームページ）

(3) 騒音の状況

対象事業実施区域周辺における道路沿道での公共機関による騒音の測定結果を表4-1-8および図4-1-10に示す。なお、対象事業実施区域周辺では道路沿道以外での公共機関による騒音の測定は実施されていない。

対象事業実施区域が隣接する国道307号沿道では、2016年度に日野町が面的評価方式および点的评价方式に基づく自動車騒音の調査を実施しており、これによると対象事業実施区域近傍で昼夜ともに環境基準を達成している戸数の割合は87.7%となっている。また点的评价方式の結果によるといずれの地点でも昼間、夜間ともに環境基準を満足していない。

表4-1-8 自動車騒音の測定結果

報告年度	評価区間番号	路線名	評価区間		評価区間全体				幹線交通を担う道路に近接する空間					
			開始点住所	終了点住所	評価対象戸数(戸)	昼夜とも基準値以下割合(%)	昼のみ基準値以下割合(%)	夜のみ基準値以下割合(%)	昼夜とも基準値超過割合(%)	評価対象戸数(戸)	昼夜とも基準値以下割合(%)	昼のみ基準値以下割合(%)	夜のみ基準値以下割合(%)	昼夜とも基準値超過割合(%)
2016	2010-10620-1	一般国道307号	日野町大字北脇	日野町大字北脇	16	81.3	0.0	0.0	18.8	3	0.0	0.0	0.0	100.0
2016	2010-10620-2	一般国道307号	日野町大字北脇	日野町大字松尾	57	87.7	12.3	0.0	0.0	12	58.3	41.7	0.0	0.0
2016	2010-10630-1	一般国道307号	日野町大字松尾	日野町大字日田	98	95.9	4.1	0.0	0.0	23	82.6	17.4	0.0	0.0

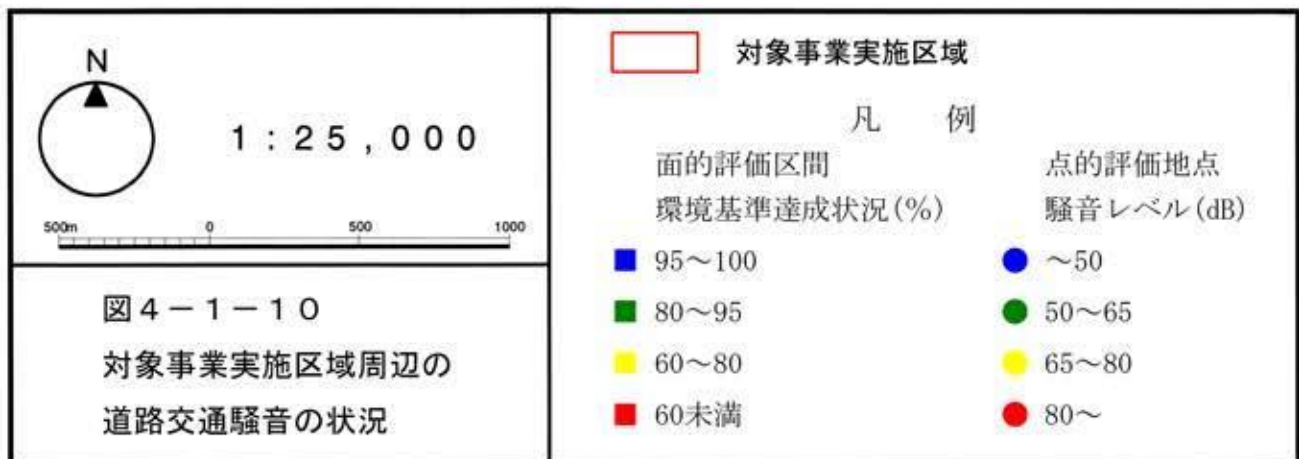
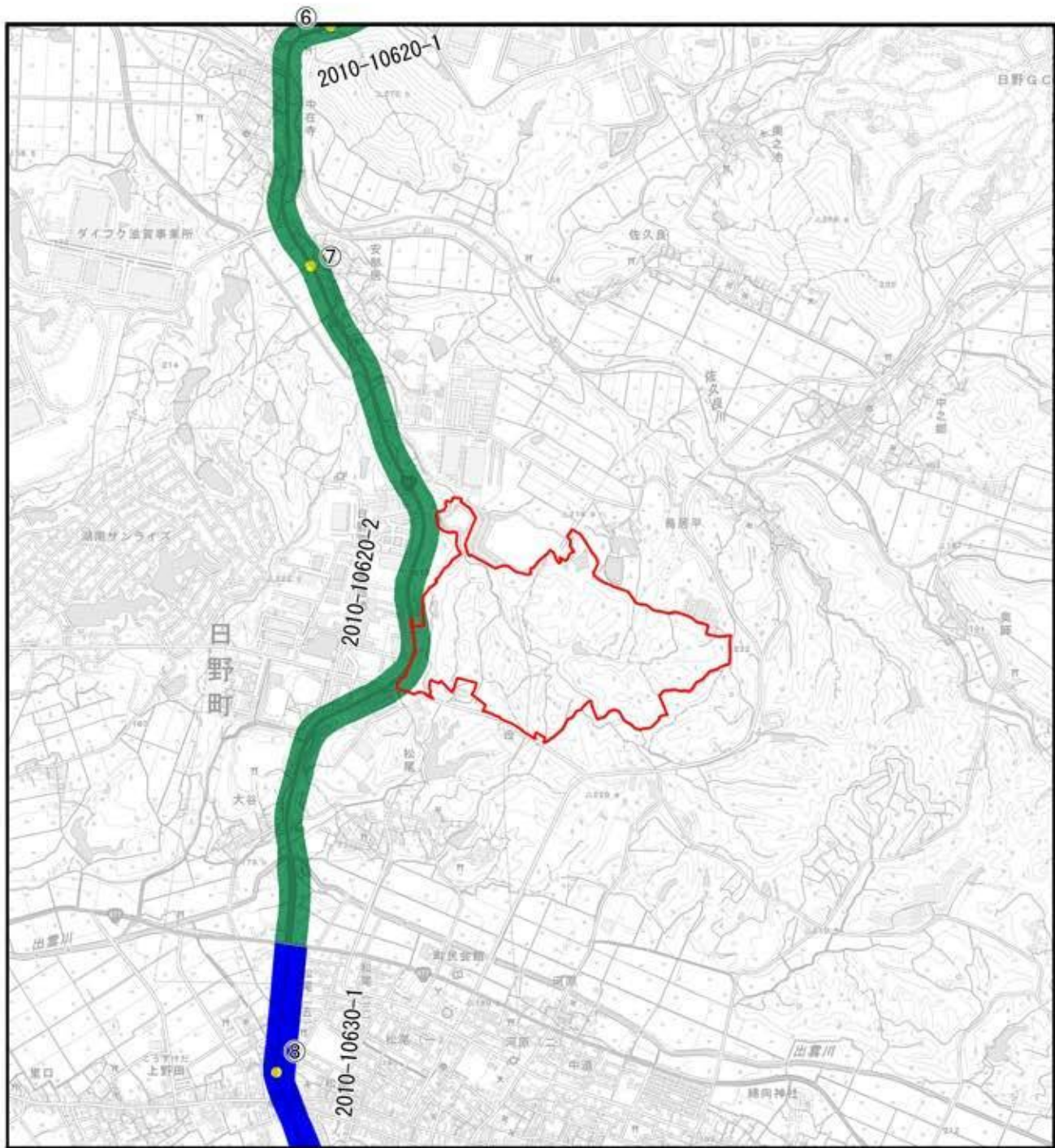
報告年度	騒音測定地点番号	路線名	測定地点	測定年月日		測定位置			環境基準 類型	騒音レベル (Leq)(dB)	
				開始	終了	車道端 距離 (m)	道路敷地 境界距離 (m)	地上 高さ (m)		昼間	夜間
2016	6	一般国道307号	日野町大字北脇	2017年3月1日	2017年3月2日	2.2	1.0	1.2	B	75	70
2016	7	一般国道307号	日野町大字安部居	2017年2月28日	2017年3月1日	6.7	0.5	1.2	B	70	66
2016	8	一般国道307号	日野町大字上野田	2017年2月28日	2017年3月1日	3.6	0.2	1.2	B	69	66

出典：「環境GIS（自動車騒音の常時監視結果）」（環境省ホームページ）

(4) 振動の状況

対象事業実施区域周辺では公共機関による振動の測定は実施されていない。

対象事業実施区域の北北西 約0.1kmの安部居地先国道307号道路端では、近藤産業株式会社の日野工業団地開発事業の環境影響評価で春季と秋季に各一日24時間の現地調査が実施されており、振動レベル(L₁₀値)は昼間が32～42デシベル、夜間が30未満～39デシベルとなっている。



出典：国立研究開発法人 国立環境研究所 自動車騒音の常時監視結果

(5) 水象の状況

対象事業実施区域周辺における主な河川およびため池を図4-1-11に示す。

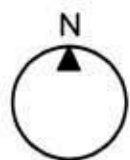
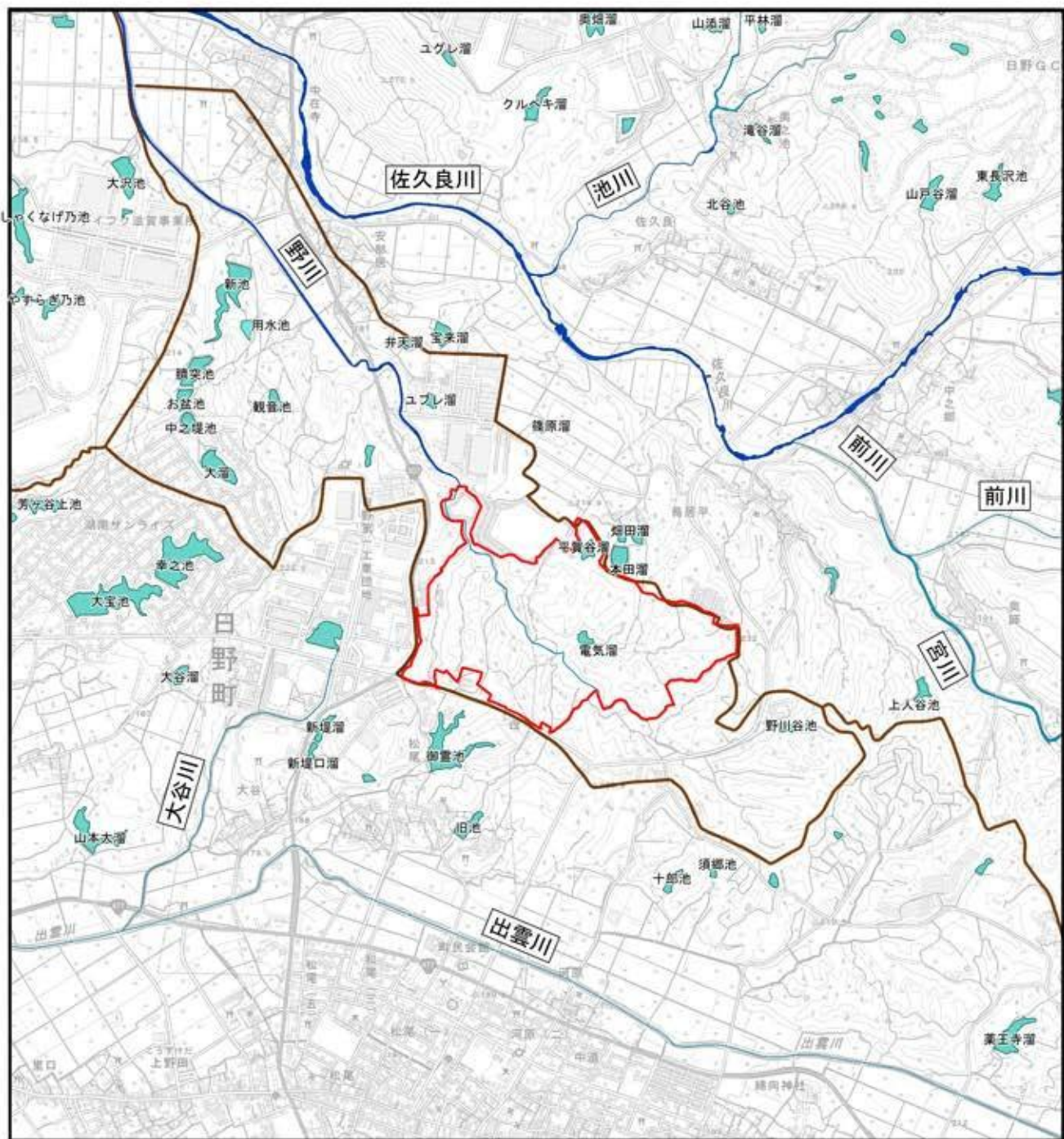
対象事業実施区域内の北側には佐久良川が東から西へ流れており、対象事業実施区域からの雨水は野川を流下して佐久良川へ排水される。滋賀県「河川・港湾調書」（令和2年7月）によると、佐久良川は鈴鹿山系竜王山に源を発し、東近江市宮井町地先で日野川に流入する一級河川であり、流路延長は15.82kmとなっている。また野川は対象事業実施区域直下から日野町中在寺地先の佐久良川合流点までは一級河川、対象事業実施区域内については普通河川、対象事業実施区域よりも上流については土地改良水路であり、流路延長は4.22kmとなっている。

(6) 水質の状況

対象事業実施区域周辺における既存の水質調査地点を図4-1-12に示す。

日野町では、日野川、佐久良川等の主要な河川の10箇所水質調査が行われており、対象事業実施区域からの排水先では野川、蓮花寺頭首工、佐久良川の3箇所がある。

野川、佐久良川には環境基準の類型は当てはめられていないが、以下に述べる各水質項目の状況から、野川についてはB類型、佐久良川についてはA類型に相当する程度の水質であると考えられる。



1 : 25 , 000

500m 0 500 1000

図 4 - 1 - 11

対象事業実施区域周辺の
主要河川、池沼

対象事業実施区域

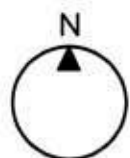
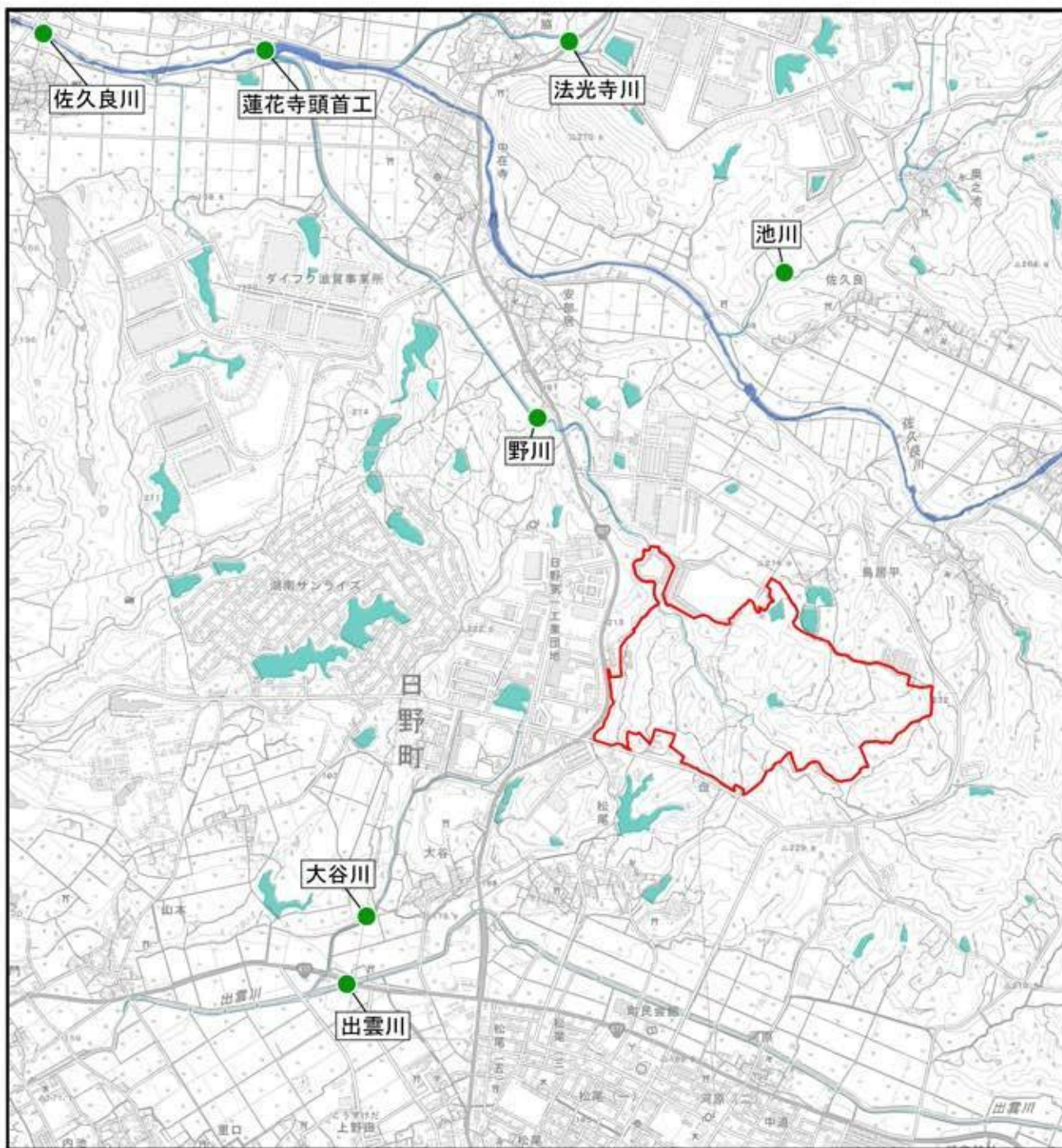
一級河川

普通河川

ため池

流域界

出典：国土交通省ホームページ「主要水系調査成果閲覧システム」、滋賀県東近江土木事務所資料



1 : 25 , 000

500m 0 500 1000



対象事業実施区域



： 水質調査地点

図 4 - 1 - 12

既存資料の水質調査地点位置図

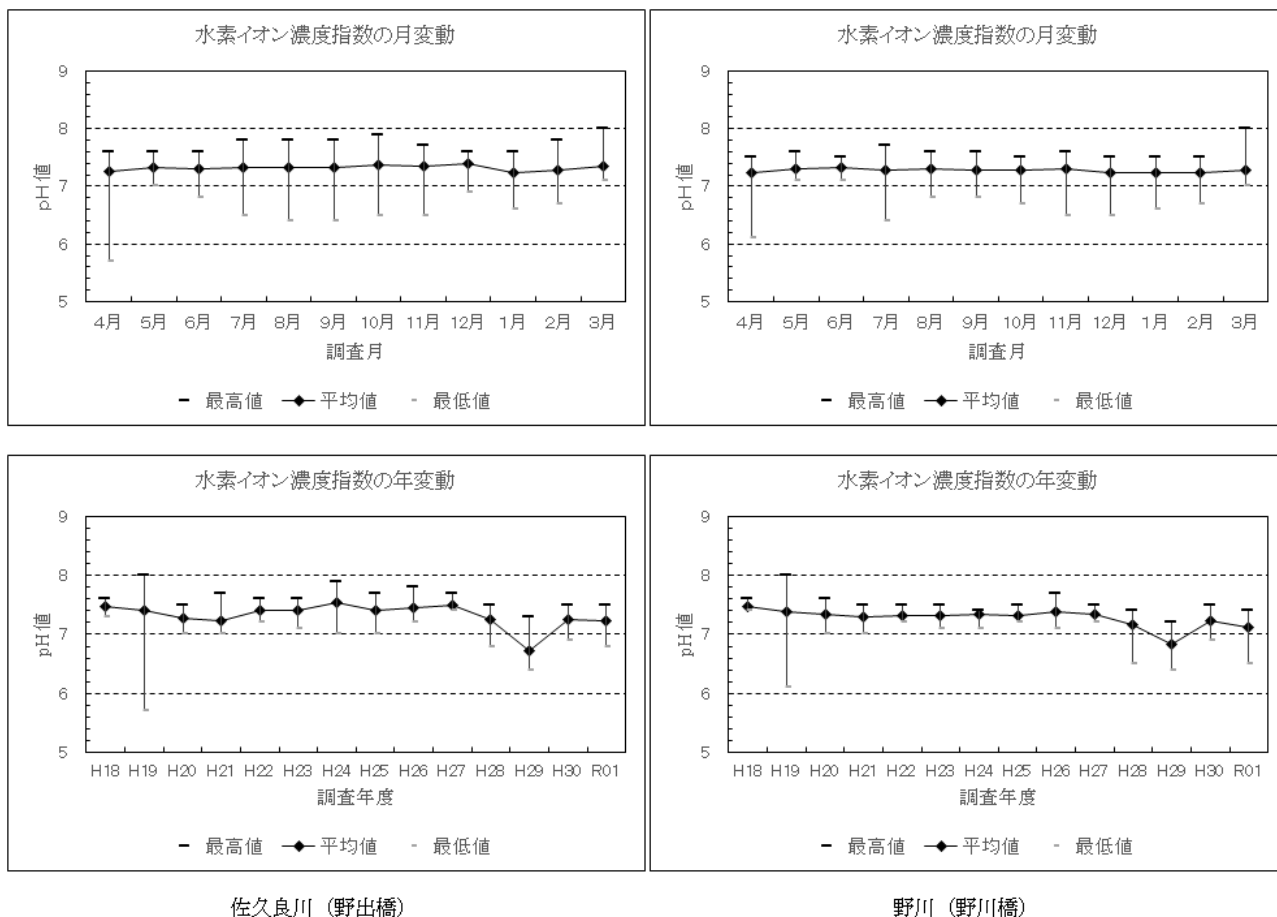
出典：滋賀県日野町ホームページ「日野町の水環境」

① 水素イオン濃度指数 (pH) の状況

対象事業実施区域周辺河川における水素イオン濃度指数の経月変化、経年変化を図 4-1-13 に示す。

これによると、水素イオン濃度指数の季節変化はほとんど見られず、経年的にも概ね横ばいで推移している。

測定値の範囲は佐久良川が5.7～8.0、野川が6.1～8.0で、最低値が突出して低い測定年度もあるが、佐久良川、野川ともに環境基準のAA類型の基準を概ね満足している。



出典：日野町「各年度河川調査結果」

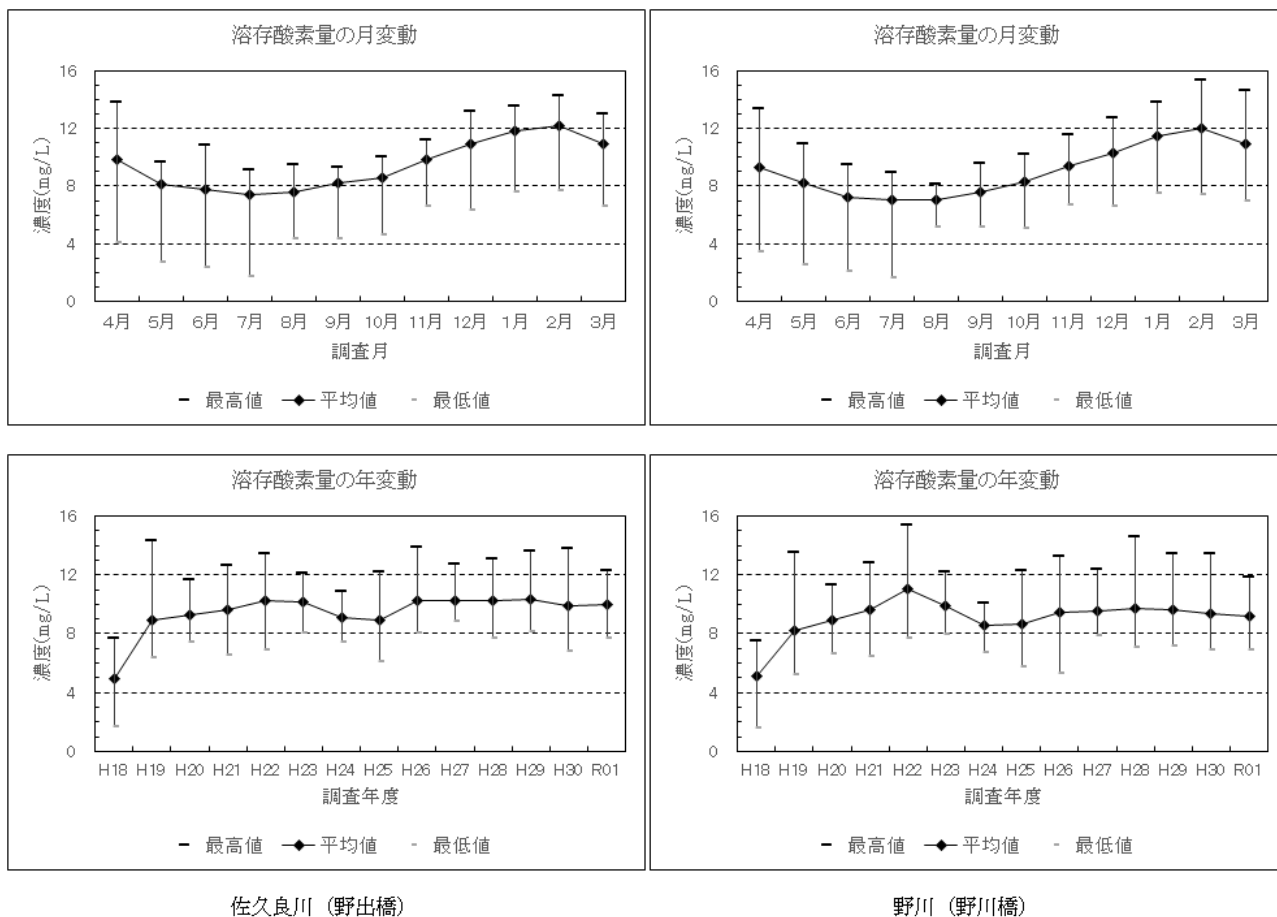
図 4-1-13 野川、佐久良川における水質の経月変化、経年変化 (pH)

② 溶存酸素量(DO)の状況

対象事業実施区域周辺河川における溶存酸素量の経月変化、経年変化を図４－１－１４に示す。

これによると、溶存酸素量は夏場に少なく冬場に多くなっており、経年的には平成20年度以降は概ね横ばいであり、濃度的にも水温に対応した飽和度になっていると考えられる。

測定値の最低値は平成20年度以降では佐久良川が6.1mg/L、野川が5.3mg/Lで、佐久良川、野川ともに環境基準のB類型の基準を満足している。



出典：日野町「各年度河川調査結果」

図４－１－１４ 野川、佐久良川における水質の経月変化、経年変化(DO)

③ 生物化学的酸素消費量(BOD)の状況

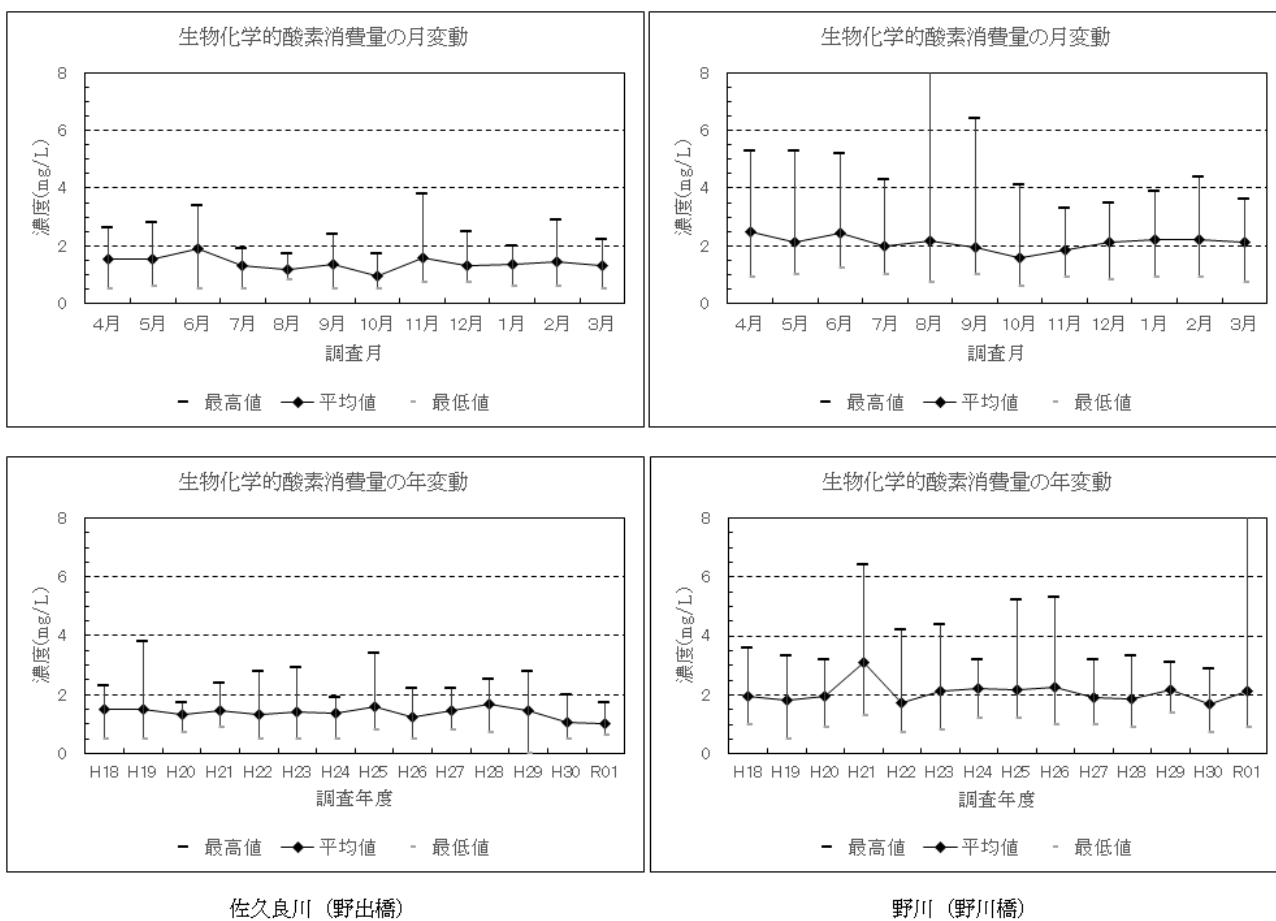
対象事業実施区域周辺河川における生物化学的酸素消費量の年間75%値を表4-1-9に、経月変化、経年変化を図4-1-15に示す。

これによると、生物化学的酸素消費量の季節変動はほとんど見られず、経年的にも横ばいで推移していると考えられる。

測定値の年間75%値は、佐久良川が1.4～2.0mg/L、野川が1.8～3.9mg/Lで、佐久良川については環境基準のA類型を満足しており、野川については平成21年度を除いて環境基準のB類型を満足している。

表4-1-9 BOD年間75%値の表

	調査年度													
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01
野川 (野川橋)	2.2	2.1	2.0	3.9	1.8	2.4	2.6	2.9	2.3	2.2	2.4	2.6	2.1	1.9
佐久良川 (野出橋)	2.0	1.7	1.6	1.7	1.6	1.8	1.6	1.6	1.4	1.7	2.0	1.7	1.3	1.2



出典：日野町「各年度河川調査結果」

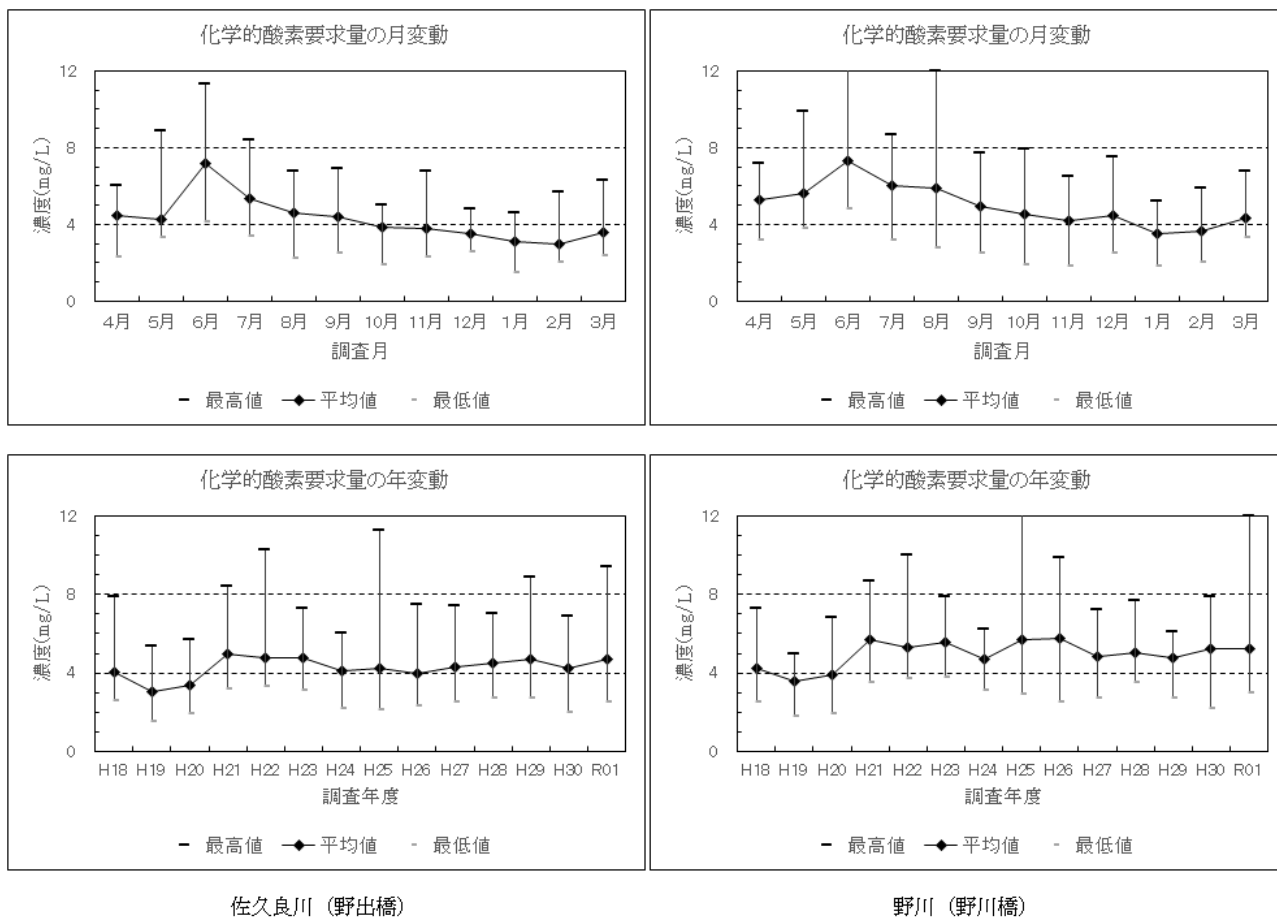
図4-1-15 野川、佐久良川における水質の経月変化、経年変化(BOD)

④ 化学的酸素要求量 (CODMn) の状況

対象事業実施区域周辺河川における化学的酸素要求量の経月変化、経年変化を

図 4-1-16 に示す。

これによると、化学的酸素要求量は 6 月頃に高く、秋から冬にかけて低下している。これは流域に広く分布する水田耕作の影響と考えられる。経年的には概ね横ばいで推移していると考えられる。



出典：日野町「各年度河川調査結果」

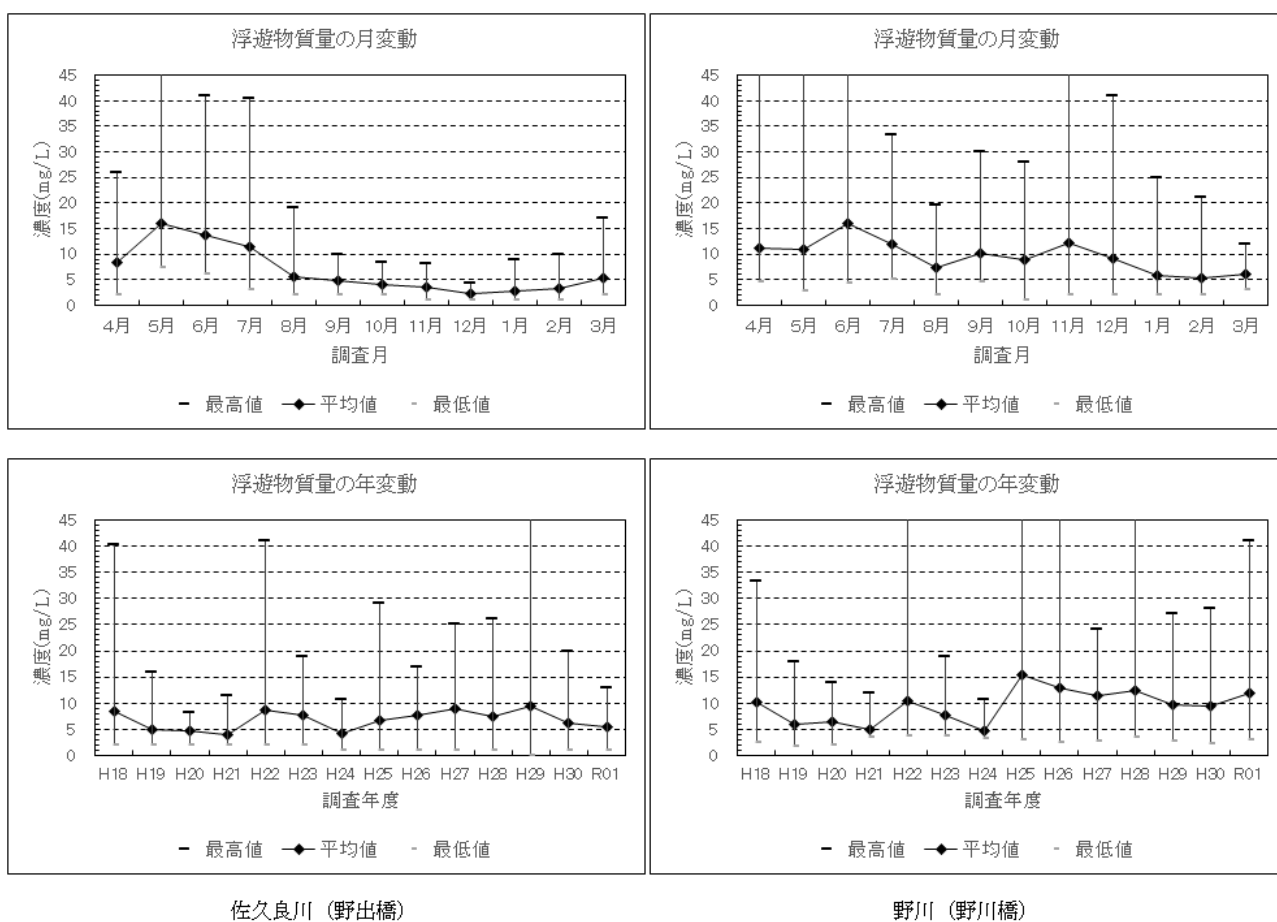
図 4-1-16 野川、佐久良川における水質の経月変化、経年変化 (CODMn)

⑤ 浮遊物質量(SS)の状況

対象事業実施区域周辺河川における浮遊物質量の経月変化、経年変化を図4-1-17に示す。

これによると、浮遊物質量も化学的酸素要求量と同様、6月頃に高く、冬場に低くなっており、水田耕作の影響を受けていると考えられる。経年的には測定年度による変動が大きいものの概ね横ばいで推移していると考えられる。

測定値の最大値は佐久良川が41.0mg/Lであるが、多くの年で環境基準のAA～B類型の基準を満足している。野川では最大値が57.0mg/Lで環境基準のC類型の基準を満足していない年も見られる。



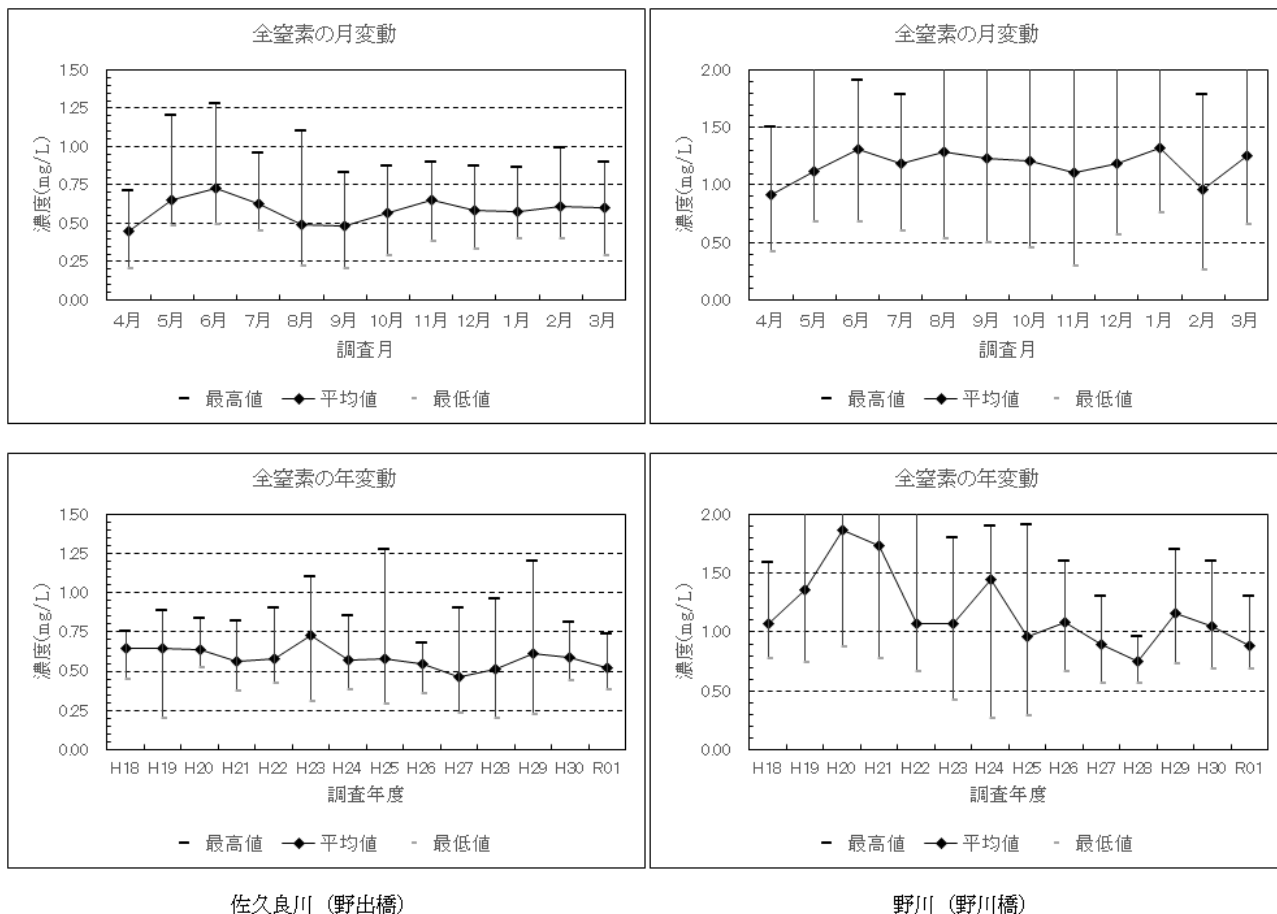
出典：日野町「各年度河川調査結果」

図4-1-17 野川、佐久良川における水質の経月変化、経年変化(SS)

⑥ 全窒素(T-N)の状況

対象事業実施区域周辺河川における全窒素の経月変化、経年変化を図4-1-18に示す。

これによると、全窒素には明瞭な季節変動は見られない。経年的には佐久良川、野川ともに若干減少傾向が見られる。



佐久良川 (野出橋)

野川 (野川橋)

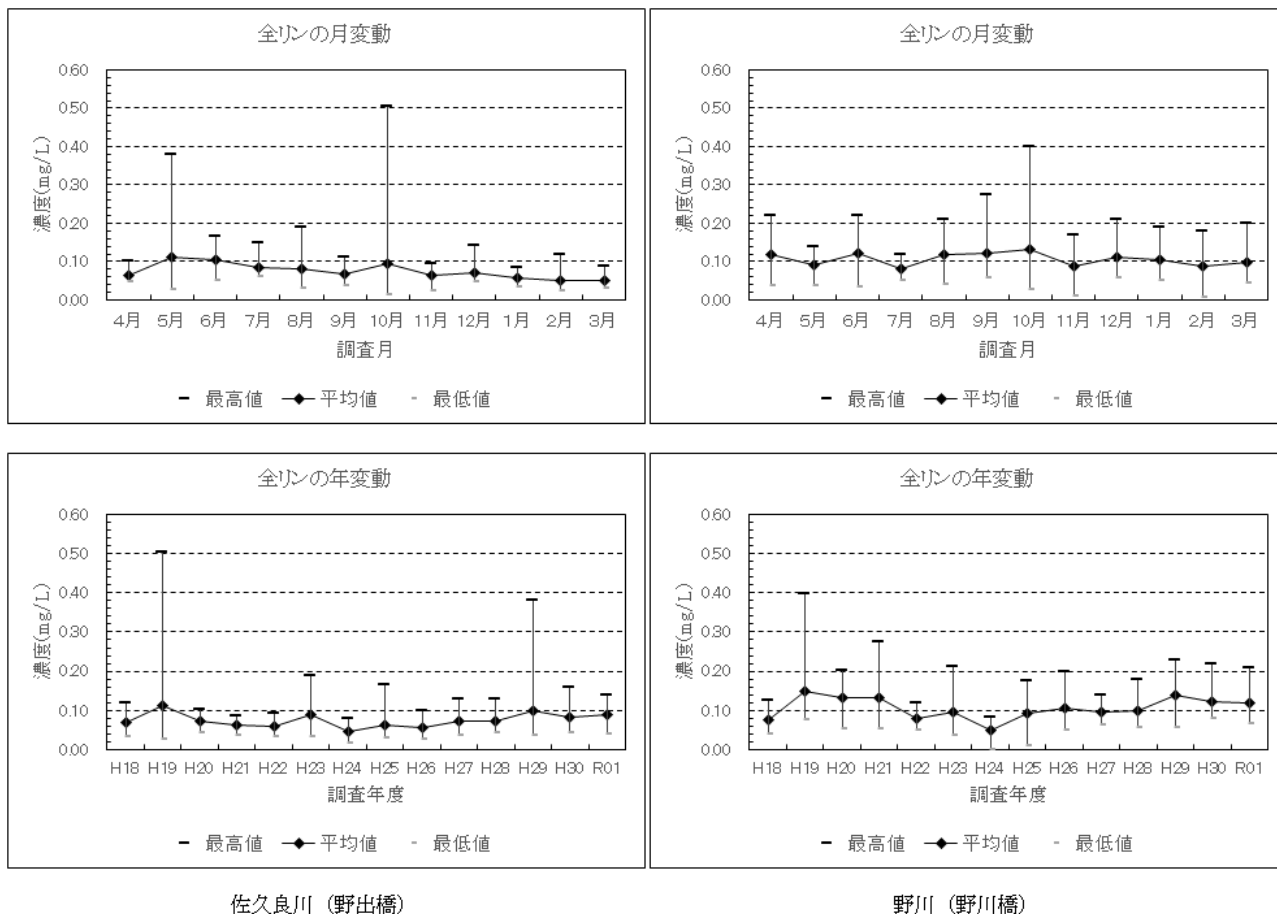
出典：日野町「各年度河川調査結果」

図4-1-18 野川、佐久良川における水質の経月変化、経年変化(T-N)

⑦ 全リン(T-P)の状況

対象事業実施区域周辺河川における全リンの経月変化、経年変化を図4-1-19に示す。

これによると、全リンも明瞭な季節変動は見られない。経年的には佐久良川、野川ともに概ね横ばいで推移していると考えられる。



出典：日野町「各年度河川調査結果」

図4-1-19 野川、佐久良川における水質の経月変化、経年変化(T-P)

(7) 水底の底質の状況

対象事業実施区域周辺では公共機関による水底の底質の調査は実施されていない。

近藤産業株式会社「日野工業団地開発事業に係る環境影響評価書」(平成5年)によると、佐久良川および佐久良川に流入する法光寺川、池川で底質の調査が行われており、底質中の重金属類の含有量は、一般的な土壌の定常的な元素組成と比較して正常な範囲であるとされている。

(8) 土壌の状況

対象事業実施区域およびその周辺の土壌の状況を図4-1-20に示す。

これによると、対象事業実施区域付近の丘陵地の土壌は、残積性未熟土壌となっている。

農地土壌としては、対象事業実施区域の北側の段丘地に細粒褐色低地土の常万統、北西側の野川沿いに細粒灰色低地土の鴨島統が分布している。

(9) 地盤の状況

対象事業実施区域およびその周辺の地すべり地形の状況を図4-1-21に示す。これによると、対象事業実施区域内に地すべり地形は分布していないが、対象事業実施区域北側の丸山の北東側に滑落崖と移動体が存在している。

環境省 水・大気環境局「平成28年度 全国の地盤低下地域の概況」（平成30年3月）によると、対象事業実施区域およびその周辺は対象地点に含まれておらず、工業用水法、建築物用地下水の採取の規制に関する法律および条例等に基づく規制の対象範囲に含まれていない。

(10) 地形の状況

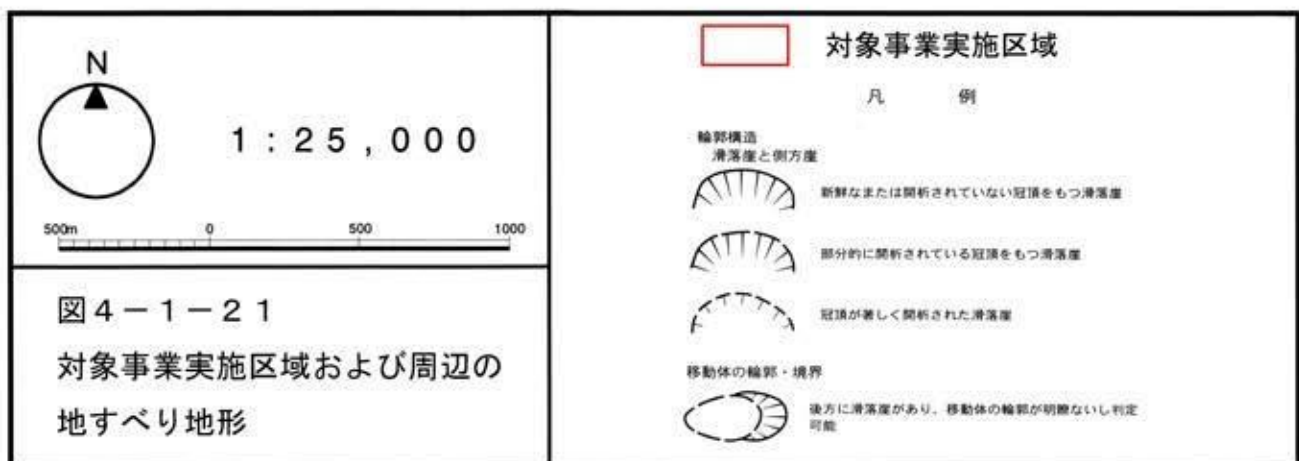
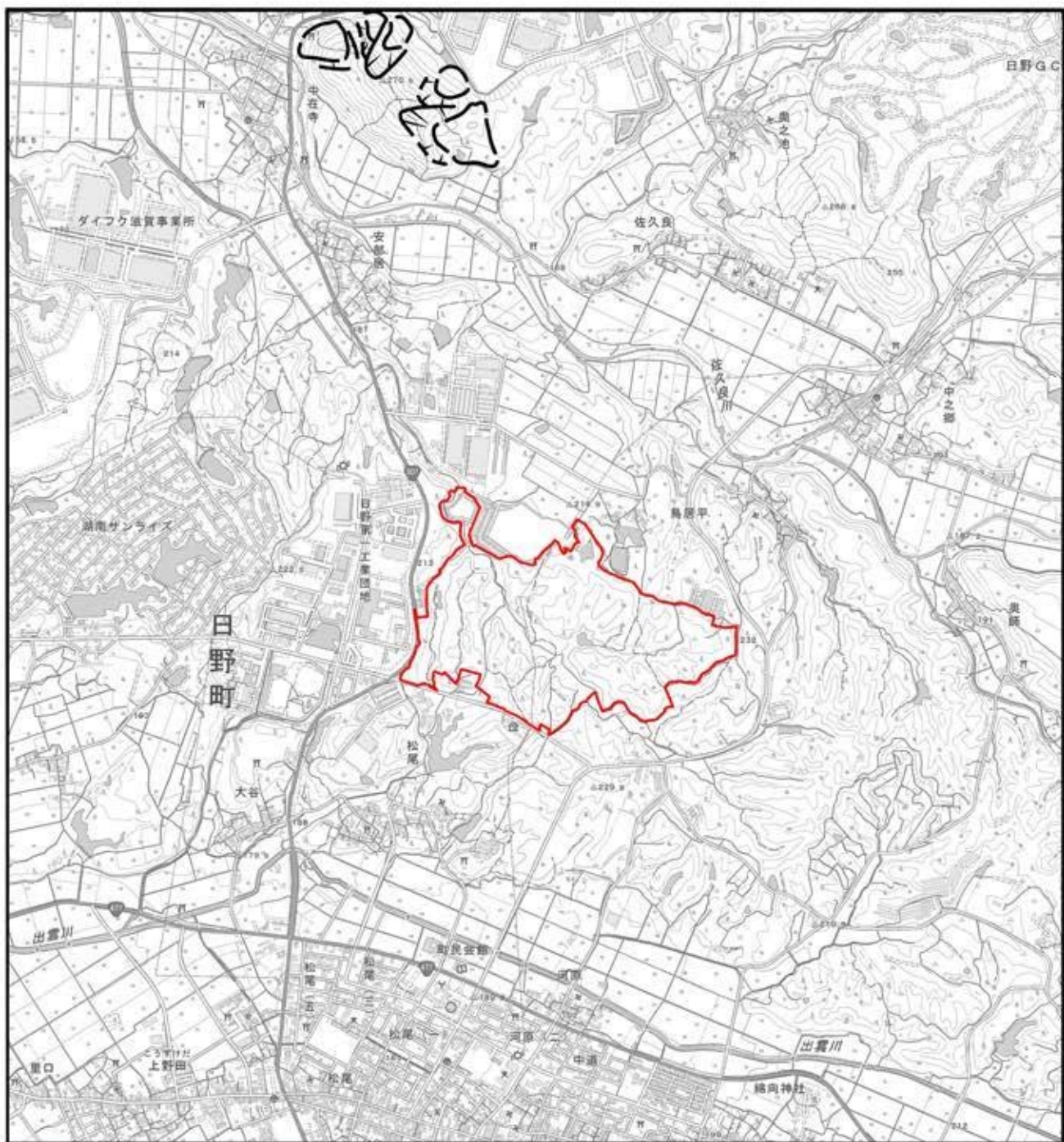
対象事業実施区域およびその周辺の地形の状況を図4-1-22に示す。

これによると、対象事業実施区域およびその周辺は湖東丘陵の日野丘陵と谷底平野および中位段丘、高位段丘に属している。丘陵地は造成が容易なため、対象事業実施区域の周辺には人工改変地が多く見られる。また対象事業実施区域の北側と南側には低位段丘が広がっている。

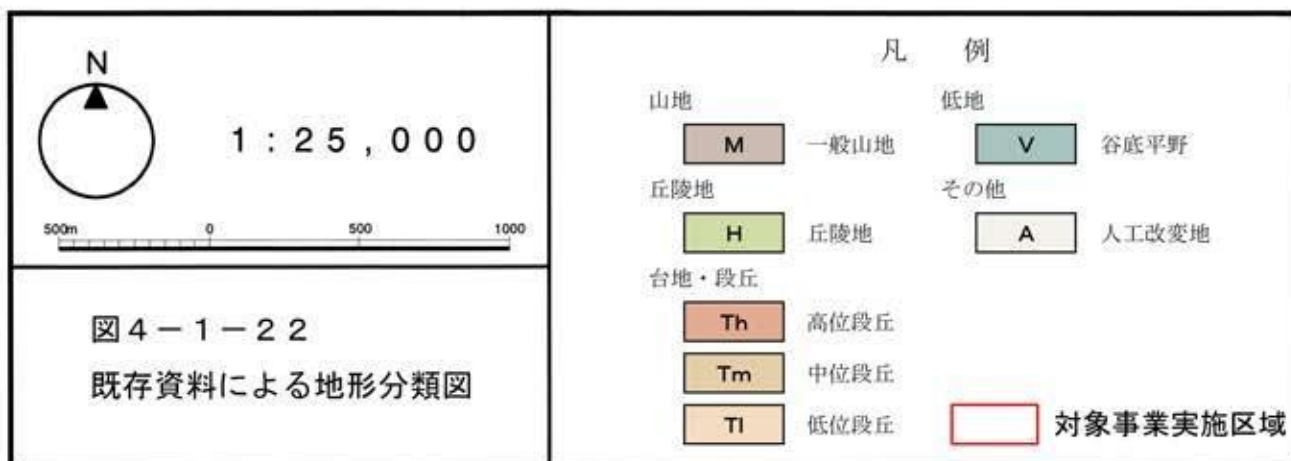
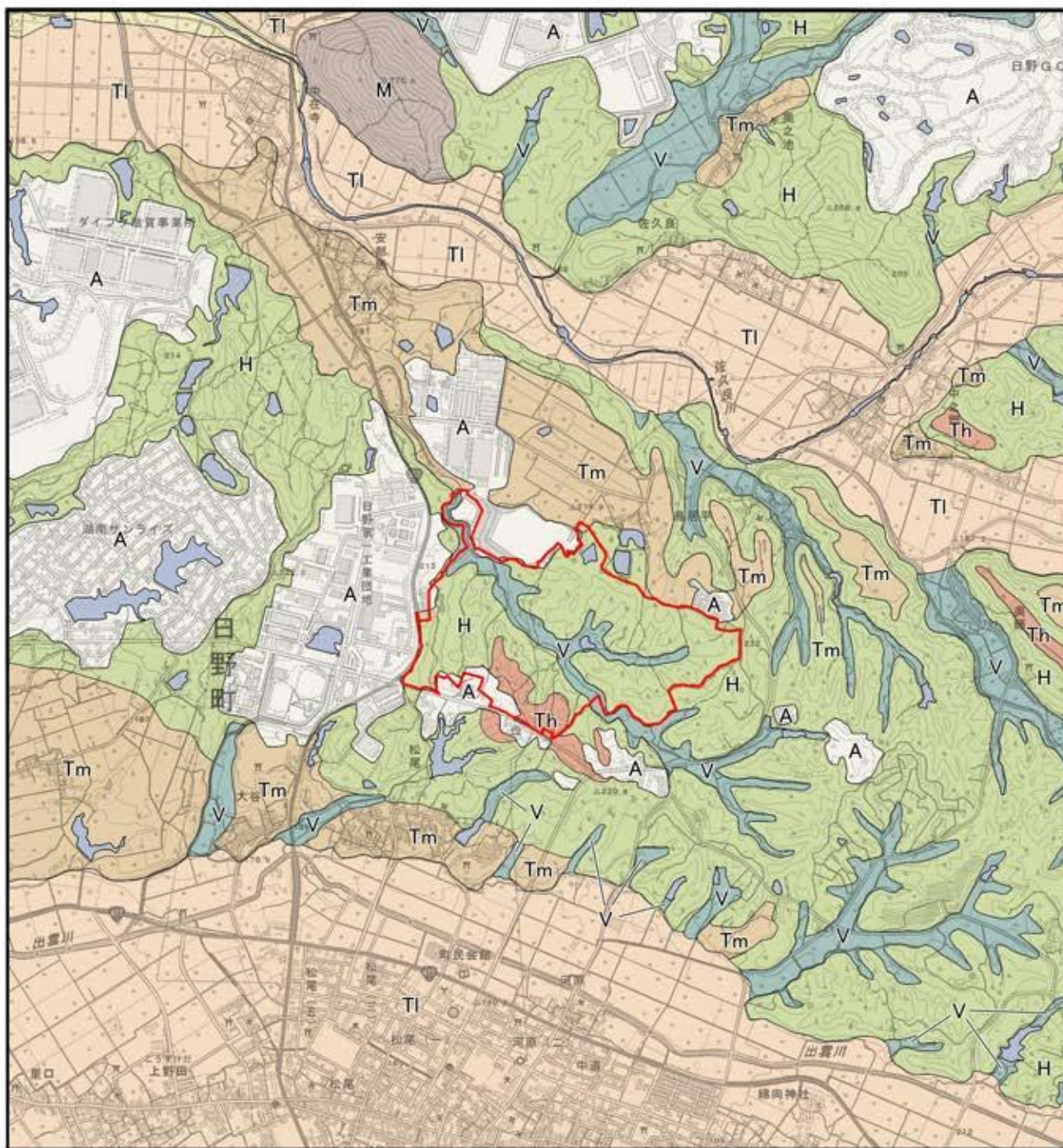
(11) 地質の状況

対象事業実施区域およびその周辺の表層地質の状況を図4-1-23に示す。

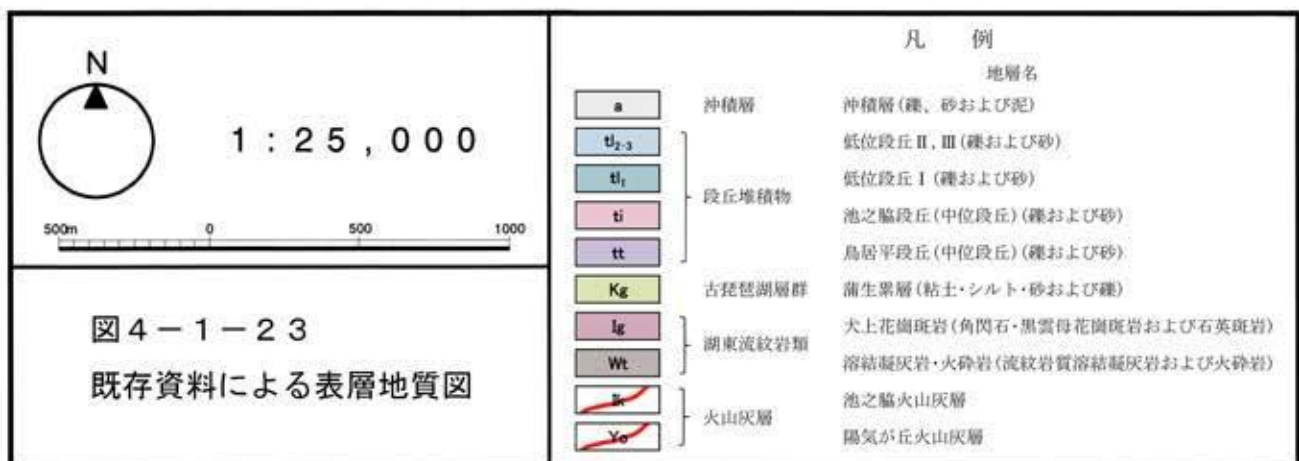
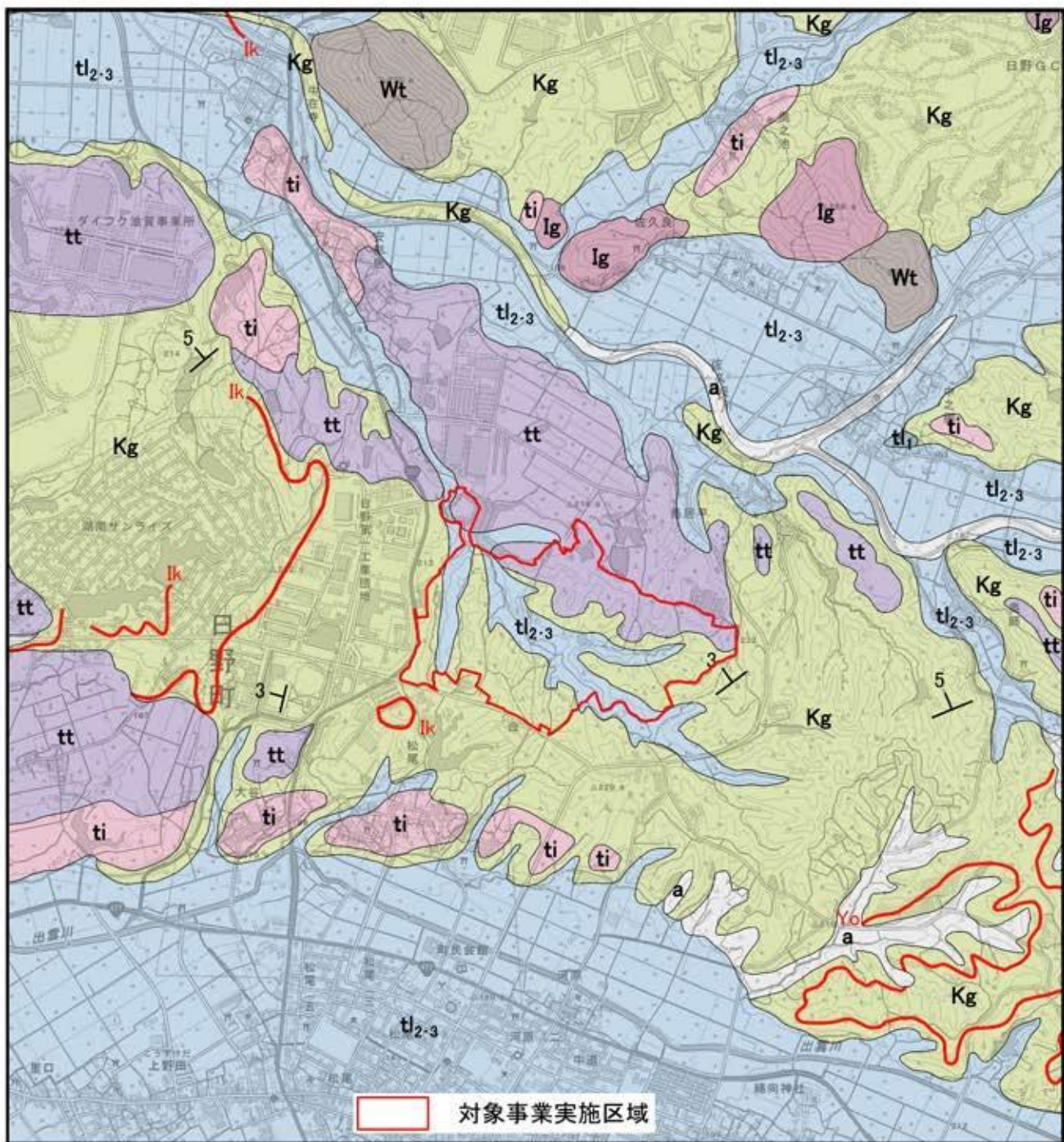
これによると、対象事業実施区域および周辺の地質は、丘陵地が主に新生代新第三紀鮮新世から第四紀更新世の古琵琶湖層群蒲生累層で構成され、段丘については段丘堆積物で構成されている。対象事業実施区域の北に存在する丸山は中生代白亜紀の湖東流紋岩類で形成されている。



出典: 防災科学技術研究所 研究資料 第259号



出典：滋賀県 土地分類基本調査「近江八幡 地形分類図」(1982)、「御在所山 地形分類図」(1989)に一部加筆修正



出典：滋賀県日野町「近江日野の歴史 第1巻 付図 日野町地質図」(2005)

(12) 陸生動物の状況

日野町「近江日野の歴史 第1巻 自然・古代編」(2005)、株式会社日野第二工業立地センター「日野第二工業団地造成事業 環境影響評価書」(1986)、近藤産業株式会社「日野工業団地開発事業に係る環境影響評価書」(1993)、春日観光株式会社「パインバレーゴルフクラブ造成工事 環境影響評価書」(1996)、中部清掃組合「中部清掃組合ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価書」(2005)、他の資料(以下、生物既存調査資料等という)によると、哺乳類については7目14科29種、鳥類については17目45科136種、両生類については2目8科20種、爬虫類については2目8科14種、昆虫類については22目323科2,073種の生息が対象事業実施区域を含む日野町とその周辺で確認されている。

このうち表4-1-10の基準には、哺乳類では表4-1-11に示す5目7科9種が、鳥類では表4-1-12に示す16目38科97種が、両生類では表4-1-13に示す2目7科18種が、爬虫類では表4-1-14に示す2目6科9種が、昆虫類では表4-1-15に示す8目49科102種が該当する。

注目すべき生息地としては図4-1-24に示すイヌワシ・クマタカの保護および生息環境保全ゾーンがあるが、対象事業実施区域は該当しない。

表4-1-10 注目すべき陸生動物の基準

1. 滋賀県「滋賀県で大切にすべき野生生物(2020年版)」(2021)に記載されている種
2. 「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」(平成19年3月29日施行)に基づく指定希少野生動植物
3. 山岸他「近畿地区鳥類レッドデータブック」(2002)に記載されている種
4. 環境省「環境省レッドリスト2020の公表について」(2020)に記載されている哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類
5. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1993)において国内希少野生動植物種と規定された種
6. 国・県指定の天然記念物

表4-1-11 注目すべき哺乳類

目 和名	科 和名	和名	注目すべき種の選定基準				
			滋賀県RDB2020	滋賀県いきもの条例	環境省レッドリスト2020	種の保存法	文化財保護法
モグラ目	トガリネズミ科	ホンシュウジネズミ	要注目種				
	モグラ科	ミズラモグラ	絶滅危惧種		準絶滅危惧(NT)		
サル目	オナガザル科	ホンダザル	要注目種				
ネズミ目	リス科	ムササビ	希少種				
	ネズミ科	スミスネズミ	その他重要種				
		ハタネズミ	希少種				
		ホンシュウカヤネズミ	希少種				
ネコ目	クマ科	ツキノワグマ	希少種				
ウシ目	ウシ科	カモシカ	絶滅危惧種				特別天然記念物(国)
5目	7科	9種	9種	0種	1種	0種	1種

表 4 - 1 - 1 2 注目すべき鳥類

(1/2)

目名	科名	和名	渡り 区分	注目すべき種の選定基準				
				滋賀県RDE2020	滋賀県生き物条例	近畿版RDE	環境省レッドリスト2020	種の保存法 文化財保護法
キジ目	キジ科	ヤマドリ	留鳥	その他重要種				
カモ目	カモ科	オシドリ	留鳥	希少種		準絶滅危惧	情報不足 (DD)	
		マガモ	冬鳥			準絶滅危惧		
		ミコアイサ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧		
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥	希少種				
ハト目	ハト科	アオバト	留鳥	希少種		特に危険なし		
ペリカン目	サギ科	ゴイサギ	留鳥	希少種				
		ササゴイ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧		
		アマサギ	夏鳥	要注目種				
		チュウサギ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧	準絶滅危惧 (NT)	
		コサギ	留鳥	要注目種				
ツル目	クイナ科	バン	留鳥	希少種				
カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	夏鳥	希少種		絶滅危惧		
		ホトギス	夏鳥	希少種		準絶滅危惧		
		ツツドリ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧		
		カッコウ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧		
ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	夏鳥	絶滅危惧増大種		絶滅危惧	準絶滅危惧 (NT)	
アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	旅鳥			特に危険なし (要注目)		
		アマツバメ	旅鳥			特に危険なし		
チドリ目	チドリ科	タゲリ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧		
		ケリ	留鳥				情報不足 (DD)	
		イカルチドリ	留鳥	希少種		準絶滅危惧		
		コチドリ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧		
	シギ科	ヤマシギ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧		
		アオシギ	冬鳥	希少種		絶滅危惧		
		タシギ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧		
		チュウシャクシギ	旅鳥	希少種		準絶滅危惧		
		クサシギ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧		
		インシギ	留鳥	希少種		絶滅危惧		
		ミサゴ	留鳥	希少種		絶滅危惧	準絶滅危惧 (NT)	
		ハチクマ	夏鳥	絶滅危惧増大種		絶滅危惧	準絶滅危惧 (NT)	
		ハイロチュウヒ	冬鳥	希少種		絶滅危惧		
		ツミ	留鳥	希少種		準絶滅危惧		
		ハイタカ	留鳥	希少種		特に危険なし (要注目)	準絶滅危惧 (NT)	
タカ目	タカ科	オオタカ	留鳥	希少種		準絶滅危惧	準絶滅危惧 (NT)	
		サシバ	夏鳥	希少種		絶滅危惧	絶滅危惧II類 (VU)	
		ノスリ	留鳥	希少種		準絶滅危惧		
		イヌワシ	留鳥	絶滅危惧種		危惧的絶滅危惧	絶滅危惧IB類 (EN)	国内希少野生動植物種
		クマタカ	留鳥	絶滅危惧種		絶滅危惧	絶滅危惧IB類 (EN)	国内希少野生動植物種
		オオコノハズク	留鳥	絶滅危惧種	指定希少野生動植物種	絶滅危惧		
		コノハズク	夏鳥	絶滅危惧種	指定希少野生動植物種	絶滅危惧		
		フクロウ	留鳥	希少種		準絶滅危惧		
フクロウ目	フクロウ科	アオバズク	夏鳥	希少種		準絶滅危惧		
		アカショウビン	夏鳥	希少種		絶滅危惧		
		カワセミ	留鳥	希少種		準絶滅危惧		
		ヤマセミ	留鳥	絶滅危惧種	指定希少野生動植物種	準絶滅危惧		
ブッポウソウ目	カワセミ科	ブッポウソウ	夏鳥	絶滅危惧種	指定希少野生動植物種	危惧的絶滅危惧	絶滅危惧IB類 (EN)	
	キツツキ科	オオアカゲラ	留鳥	希少種		準絶滅危惧		
		アカゲラ	留鳥			準絶滅危惧		
		アオゲラ	留鳥			準絶滅危惧		
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧		
		コチョウゲンボウ	冬鳥	希少種		絶滅危惧		
		ハヤブサ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧	絶滅危惧II類 (VU)	国内希少野生動植物種
スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧	絶滅危惧II類 (VU)	
	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧		
	クワイタダキ科	クワイタダキ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧		
	シジュウカラ科	コガラ	留鳥			特に危険なし		
	ツバメ科	コシアカツバメ	夏鳥	その他重要種				
	ウグイス科	ヤブサメ	夏鳥	希少種				
	ムシクイ科	メボロムシクイ	旅鳥	希少種		準絶滅危惧		
		エゾムシクイ	旅鳥			準絶滅危惧		
		センダイムシクイ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧		
	ヨシキリ科	オオヨシキリ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧		
	セッカ科	セッカ	留鳥	希少種		特に危険なし		

表 4 - 1 - 1 2 注目すべき鳥類

(2/2)

目名	科名	和名	渡り 区分	注目すべき種の選定基準					
				滋賀県RDB2020	滋賀県生き物条例	近畿版RDB	環境省レッドリスト2020	種の保存法	文化財保護法
	レンジャク科	キレンジャク	冬鳥	希少種		特に危険なし			
		ヒレンジャク	冬鳥	希少種		特に危険なし(要注目)			
	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	留鳥	希少種		準絶滅危惧			
	ミソザイ科	ミソザイ	留鳥	希少種		準絶滅危惧			
	ムクドリ科	コムクドリ	旅鳥	希少種		準絶滅危惧			
	カワガラス科	カワガラス	留鳥	希少種		準絶滅危惧			
	ヒタキ科	マミジロ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧			
		トラツグミ	留鳥	希少種		絶滅危惧			
		クロツグミ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧			
		アカハラ	旅鳥			特に危険なし			
		コマドリ	旅鳥	絶滅危惧増大種		準絶滅危惧			
		コルリ	夏鳥	絶滅危惧増大種		準絶滅危惧			
		ルリビタキ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧			
		ノビタキ	旅鳥			準絶滅危惧			
		コサメビタキ	夏鳥	希少種		特に危険なし			
		キビタキ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧			
		オオルリ	夏鳥	希少種		準絶滅危惧			
	イワヒバリ科	イワヒバリ	冬鳥	希少種		特に危険なし			
		カヤクグリ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧			
	スズメ科	ニュウナイスズメ	冬鳥	希少種		特に危険なし			
	セキレイ科	ハクセキレイ	冬鳥			特に危険なし			
		ビンズイ	冬鳥			特に危険なし(要注目)			
		タビバリ	冬鳥	希少種					
	アトリ科	ハギマシロ	冬鳥	希少種		特に危険なし			
		ベニマシロ	冬鳥	希少種		特に危険なし			
		オオマシロ	冬鳥	希少種		特に危険なし			
		イスカ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧			
		ウソ	冬鳥	希少種		特に危険なし			
		シメ	冬鳥			特に危険なし			
	ホオジロ科	ホオアカ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧			
		ミヤマホオジロ	冬鳥			準絶滅危惧			
		アオジ	冬鳥			準絶滅危惧			
		クロジ	冬鳥	希少種		準絶滅危惧			
16 目	38 科	97 種		82 種	4 種	87 種	14 種	3 種	1 種

表 4 - 1 - 1 3 注目すべき両生類

目 和名	科 和名	和名	注目すべき種の選定基準				
			滋賀県RDB2020	滋賀県いきもの条例	環境省レッドリスト2020	種の保存法	文化財保護法
有尾目	サンショウウオ科	ヤマトサンショウウオ	希少種		絶滅危惧II類(VU)		
		マホロバサンショウウオ	希少種		絶滅危惧II類(VU)		
		ヒダサンショウウオ	希少種		準絶滅危惧(NT)		
		ハコネサンショウウオ	希少種				
	オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	絶滅危惧種		絶滅危惧II類(VU)		特別天然記念物(国)
	イモリ科	アカハライモリ	要注目種		準絶滅危惧(NT)		
無尾目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	希少種				
		アズマヒキガエル	希少種				
	アカガエル科	タゴガエル	要注目種				
		ニホンアカガエル	要注目種				
		ヤマアカガエル	希少種				
		トノサマガエル	要注目種				
		ナゴヤダルマガエル	絶滅危惧種	指定希少野生動植物種	準絶滅危惧(NT)		
		ツチガエル	要注目種		絶滅危惧IB類(EN)		
	ヌマガエル科	ヌマガエル	要注目種				
	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	要注目種				
		モリアオガエル	要注目種				
		カジカガエル	要注目種				
2 目	7 科	18 種	18 種	1 種	7 種	0 種	1 種

表 4 - 1 - 1 4 注目すべき爬虫類

目 和名	科 和名	和名	注目すべき種の選定基準				
			滋賀県RDB2020	滋賀県いきもの条例	環境省レッドリスト2020	種の保存法	文化財保護法
カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	希少種		準絶滅危惧 (NT)		
	スッポン科	ニホンスッポン	要注目種		情報不足 (DD)		
有鱗目	トカゲ科	ニホントカゲ	要注目種				
	タカチホヘビ科	タカチホヘビ	要注目種				
	ナミヘビ科	ジムグリ	要注目種				
		シロマダラ	要注目種				
		ヒバカリ	要注目種				
		ヤマカガシ	要注目種				
	クサリヘビ科	ニホンマムシ	要注目種				
2目	6科	9種	9種	0種	2種	0種	0種

表 4 - 1 - 1 5 注目すべき昆虫類

(1/2)

目名	科名	和名	注目すべき種の選定基準				
			滋賀県RDB2020	滋賀県生き物条例	環境省レッドリスト2020	種の保存法	文化財保護法
トンボ目	イトトンボ科	アオイトトンボ	その他重要種		準絶滅危惧 (NT)		
		モートンイトトンボ	希少種				
		オオイトトンボ	絶滅危機増大種				
	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	絶滅危機増大種		準絶滅危惧 (NT)		
		アオヤンマ	絶滅危機増大種				
		ルリボシヤンマ	要注目種		準絶滅危惧 (NT)		
		カトリヤンマ	希少種				
	サナエトンボ科	ミヤマサナエ	その他重要種	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧II類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)
		キヒロサナエ	その他重要種				
		アオサナエ	その他重要種				
		ホシサナエ	その他重要種				
		メガネサナエ	希少種				
		タベサナエ	希少種				
		フタスジサナエ	希少種				
コサナエ		その他重要種					
オグマサナエ	希少種	準絶滅危惧 (NT)					
エゾトンボ科	トラフトンボ	要注目種					
	エゾトンボ	希少種					
トンボ科	ヨツボシトンボ	要注目種					
	ハッチョウトンボ	要注目種					
	コノシメトンボ	分布上重要種					
	キトンボ	希少種					
	ナツアカネ	その他重要種					
	マイコアカネ	希少種					
	ヒメアカネ	その他重要種					
	ミヤマアカネ	希少種					
バッタ目	ツユムシ科	ヘリグロツユムシ	要注目種				
	キリギリス科	コバネササキリ	希少種				
		ハタケノウマオイ	要注目種				
	マツムシ科	カヤコオロギ	分布上重要種				
カメムシ目	ゲンバイウンカ科	ハウチワウンカ	要注目種		絶滅危惧II類 (VU)		
	セミ科	ハルゼミ	その他重要種				
	ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ	分布上重要種		準絶滅危惧 (NT)		
	アメンボ科	エサキアメンボ	希少種		準絶滅危惧 (NT)		
	イトアメンボ科	イトアメンボ	要注目種		絶滅危惧II類 (VU)		
	タイコウチ科	ミズカマキリ	希少種				
		ヒメミズカマキリ	希少種				
		ミズムシ科(昆)	ナガミズムシ	絶滅危惧種		準絶滅危惧 (NT)	
		ミヤクミズムシ	希少種		準絶滅危惧 (NT)		
アミメカゲロウ目	ツノトンボ科	オオツノトンボ	要注目種				
トビケラ目	アシエダトビケラ科	ビワアシエダトビケラ	絶滅危機増大種		準絶滅危惧 (NT)		

表4-1-15 注目すべき昆虫類

(2/2)

目名	科名	和名	注目すべき種の選定基準				
			滋賀県RDB2020	滋賀県生き物条例	環境省レッドリスト2020	種の保存法	文化財保護法
チョウ目	イラガ科	アオイイラガ	要注目種				
	シジミチョウ科	ウラナミアカシジミ名義タイプ亜種	絶滅危機増大種				
		キマダラルリツバメ	絶滅危機増大種		準絶滅危惧(NI)		
	タテハチョウ科	ウラギンシジミ	絶滅危機増大種		絶滅危惧II類(VU)		
		オオウラギンシジミ	絶滅種		絶滅危惧IA類(CR)		
		クモガタシジミ	希少種				
		オオムラサキ	絶滅危機増大種		準絶滅危惧(NI)		
	アゲハチョウ科	ギフチョウ	絶滅危惧種		絶滅危惧II類(VU)		
	シロチョウ科	ツマグロキチョウ	絶滅危惧種		絶滅危惧IB類(EN)		
	ツタガ科	ムナカタミズメイガ			準絶滅危惧(NI)		
	マドガ科	マドガ	要注目種				
	ヤガ科	ウスイロキシタバ	絶滅危機増大種				
		カギモンハナオイアツバ	要注目種		準絶滅危惧(NI)		
	ジャノメチョウ科	オオヒカゲ	分布上重要種				
		ウラナミジャノメ本土亜種	絶滅危機増大種				
コウチュウ目	オサムシ科	コキベリアオサムシ	要注目種				
		アオヘリアオサムシ			絶滅危惧IA類(CR)		
		タナカツヤハネオサムシ			情報不足(DD)		
		オオヒラタツクリオサムシ			絶滅危惧IA類(CR)		
	ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ	希少種		準絶滅危惧(NI)		
		ゲンゴロウ	絶滅種		絶滅危惧II類(VU)		
		マルガタゲンゴロウ	絶滅危惧種		絶滅危惧II類(VU)		
		シマゲンゴロウ	その他重要種		準絶滅危惧(NI)		
		オオイデモンジシマゲンゴロウ	絶滅危機増大種		絶滅危惧IB類(EN)		
		キベリクロヒメゲンゴロウ	絶滅危機増大種		準絶滅危惧(NI)		
		ルイスツバゲンゴロウ	絶滅危機増大種		絶滅危惧II類(VU)		
	ミズスマシ科	オオミズスマシ	希少種		準絶滅危惧(NI)		
		コミズスマシ	希少種		絶滅危惧IB類(EN)		
		ミズスマシ	希少種		絶滅危惧II類(VU)		
	コガシラミズムシ科	マダラコガシラミズムシ	希少種		絶滅危惧II類(VU)		
	ヒゲトオサムシ科	エグリオサムシ	要注目種				
	ダルマガムシ科	ミヤタケダルマガムシ	要注目種				
	ガムシ科	タマガムシ	希少種				
		スジヒラタガムシ			準絶滅危惧(NI)		
		コガムシ			情報不足(DD)		
		ガムシ	希少種		準絶滅危惧(NI)		
		シジミガムシ			絶滅危惧IB類(EN)		
	シデムシ科	ヤマトモンシデムシ			準絶滅危惧(NI)		
	ムネアカセンテコガネ科	ムネアカセンテコガネ	分布上重要種				
	センテコガネ科	オオセンテコガネ	分布上重要種				
	クワガタムシ科	オオクワガタ	絶滅危機増大種		絶滅危惧II類(VU)		
	コガネムシ科	クロツバマグソコガネ	分布上重要種				
		ミヤマダイコクコガネ	分布上重要種				
		チドリムネミゾマグソコガネ	分布上重要種				
		シラホシハナムグリ	要注目種				
	タマシ科	タマシ	分布上重要種				
	ホタル科	ヘイケボタル	要注目種				
		ヒメボタル	要注目種				
	ナガクチキムシ科	ミスジナガクチキムシ	要注目種				
	アカハネムシ科	ヘリハネムシ	要注目種				
	カミキリムシ科	クスベニカミキリ	分布上重要種				
		フタコブシリハナカミキリ	要注目種				
ハチ目	コマユバチ科	ウマノオバチ	希少種		準絶滅危惧(NI)		
	アリ科	トゲアリ			絶滅危惧II類(VU)		
		ヒメホソアシナガバチ	希少種				
	スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ			情報不足(DD)		
		モンズズメバチ			情報不足(DD)		
		チャイロスズメバチ	希少種				
		アケボノベッコウ			情報不足(DD)		
	ミツバチ科	クロマルハナバチ	希少種		準絶滅危惧(NI)		
	ハキリバチ科	クズハキリバチ			情報不足(DD)		
8目	49科	102種	89種	0種	50種	0種	0種

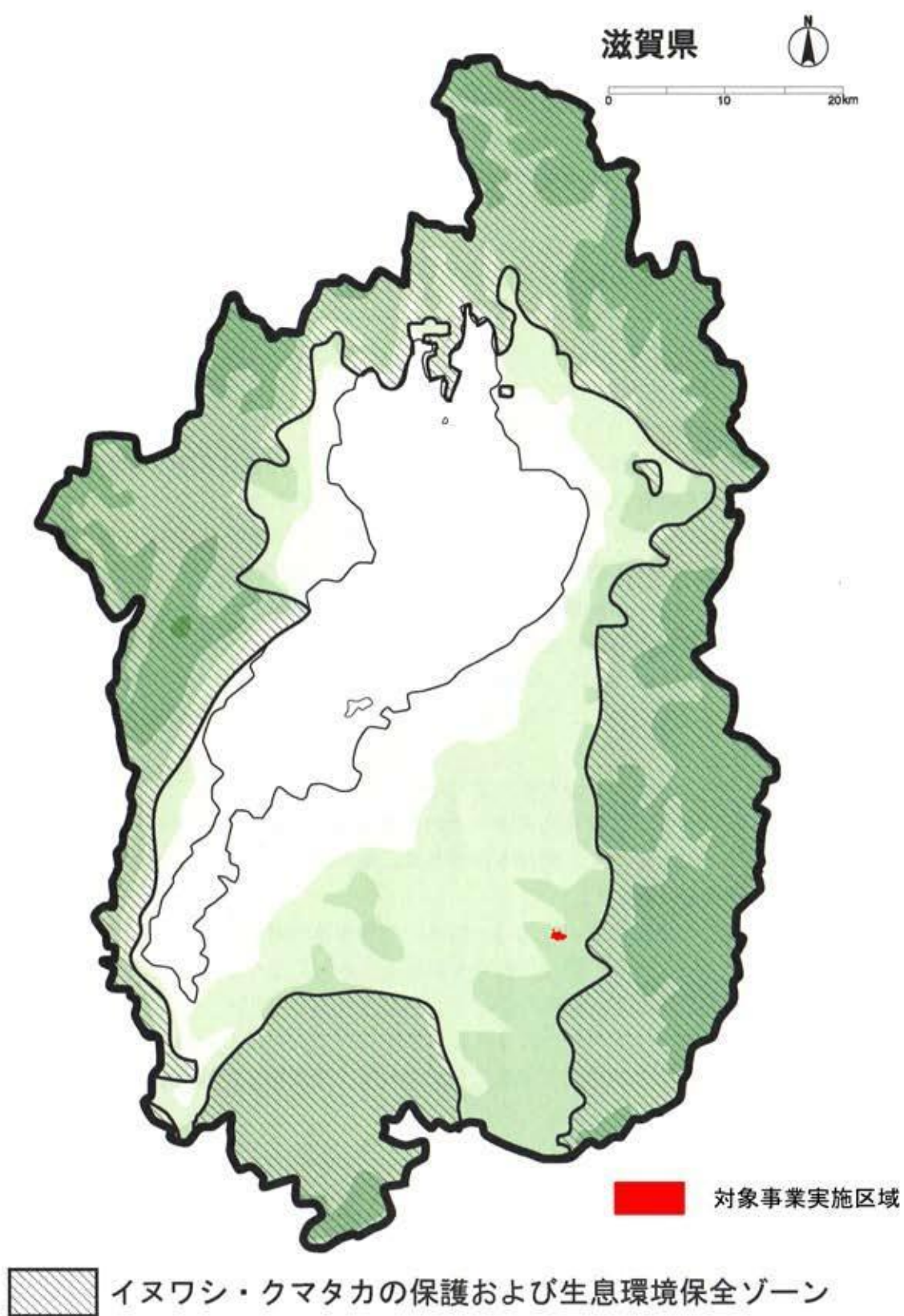


図4-1-24 イヌワシ・クマタカ保護地域と対象事業実施区域の関係

出典：滋賀県「滋賀県イヌワシ・クマタカ保護指針」（平成14年7月）

(13) 陸生植物の状況

日野町「近江日野の歴史 第1巻 付図 日野町現存植生図」(2005)によると、対象事業実施区域およびその周辺では図4-1-25に示す28の植生単位および土地利用が確認されており、表4-1-16の基準には表4-1-17に示す10の植生単位が該当する。また生物既存調査資料等によると対象事業実施区域を含む日野町とその周辺で168科1,738種の高等植物の生育が確認されており、このうち表4-1-16の基準には表4-1-18に示す75科241種が該当する。

表4-1-16 注目すべき植物群落・植物種の基準

1. (財)日本自然保護協会他「わが国における緊急な保護を必要とする植物群落の現状」(1989)の中で滋賀県において保護を必要とするとしてあげられている植物群落
2. 環境庁「第2回自然環境保全基礎調査要綱」(1978)に示された特定植物群落選定基準に該当する植物群落
3. 環境庁「第3回自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)特定植物群落調査報告書(追加調査・追跡調査)日本の重要な植物群落 近畿版1 滋賀県・京都府・大阪府」(1988)に掲載されている特定植物群落
4. 国、県指定の天然記念物

1. 滋賀県「滋賀県で大切にすべき野生生物(2020年版)」(2021)に記載されている種
2. 「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」(平成19年3月29日施行)に基づく指定希少野生動植物
3. レッドデータブック近畿研究会編「近畿地方の保護上重要な植物ーレッドデータブック近畿ー」(2001)記載の植物
4. 環境省「環境省レッドリスト2020の公表について」(2020)に記載されている維管束植物
5. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1993)において国内希少野生動植物種と規定された種
6. (財)日本自然保護協会他「我が国における保護上重要な植物種の現状」(1989)に記載されている滋賀県における保護上重要な植物種
7. 「文化財保護法」(1983)において天然記念物に指定された種(種指定のみ抜粋)

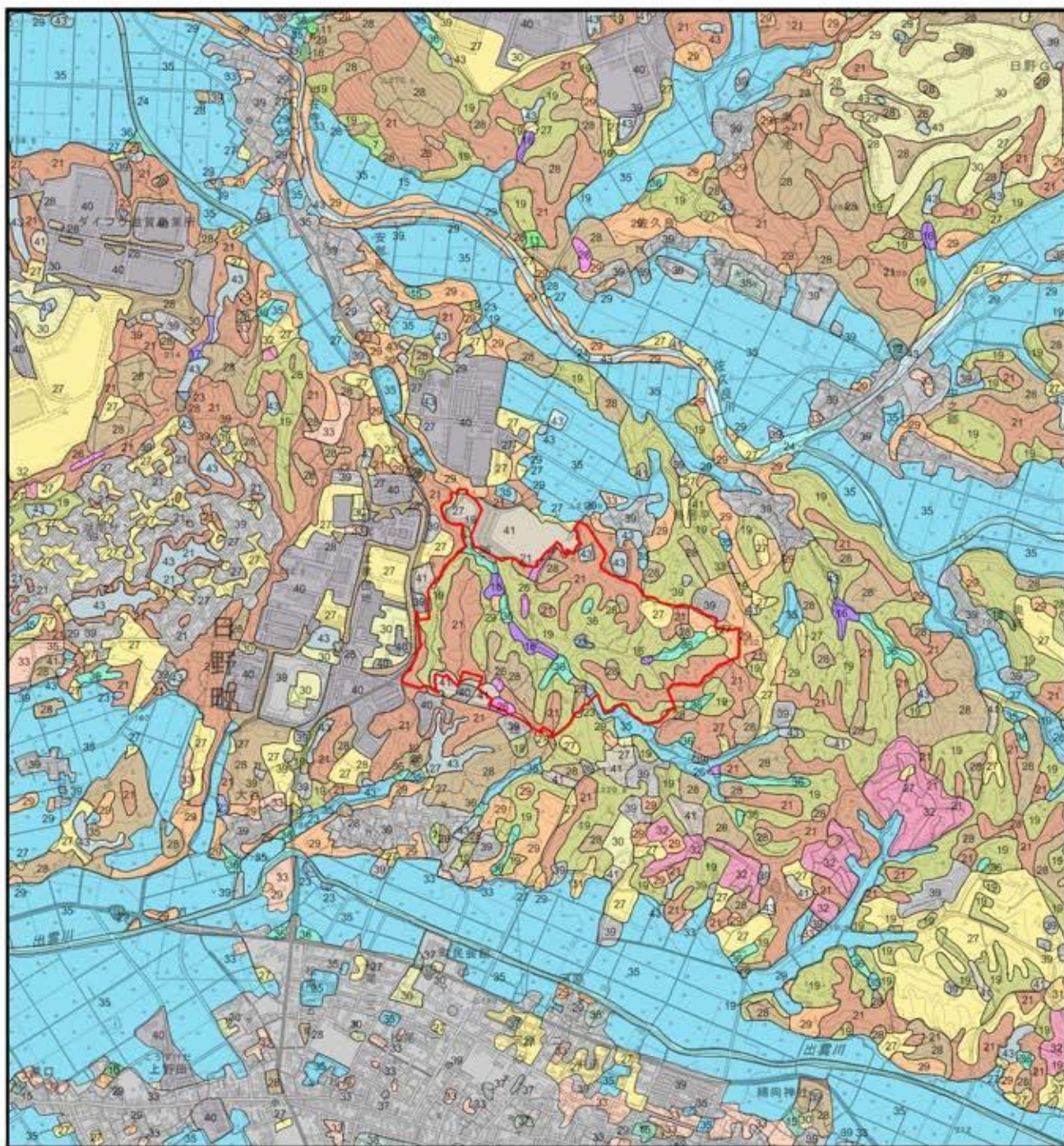
表4-1-17 注目すべき植物群落

植生帯	群落名	注目すべき群落の選定基準			
		植物群落RDB	特定植物群落選定基準	特定植物群落	文化財保護法
中間温帯	ウラジロガシ・ヒメアオキ群集・ケヤキ亜群集		A		
暖温帯	アラカシ群落		A		
	シイ・カナムモチ群集		A		
	ツクバネガシ群落		A		
	ケヤキ・ムクノギ群集		A		
	ヤナギ林		A, D		
	ハシノギ林		D		
	シイ・カシ二次林		A		
冷温帯・ 暖温帯共通	ヨシクラス		D		
	ツルヨシ群集		D		

特定植物群落選定基準

A 原生林もしくはそれに近い自然林

D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの



対象事業実施区域



出典：滋賀県日野町「近江日野の歴史 第1巻 付図 日野町現存植生図」(2005)に一部加筆修正

表 4 - 1 - 1 8 注目すべき植物種

(1/4)

科名	和名	注目すべき種の選定基準					
		滋賀県RDB2020	滋賀県生き物条例	近畿版RDB2001	環境省レッドリスト2020	種の保全法	日本自然保護協会他RDB
ヒカゲノカズラ科	アズヒカズラ	絶滅危惧種		A			
	ヤチスギラン	分布上重要種		A			
ミズニラ科	ミズニラ	絶滅危惧種		C	準絶滅危惧(NT)		危急(滋賀:現状不明)
ハナヤスリ科	コヒロハハナヤスリ	希少種					
	ハマハナヤスリ	希少種		B			
	コハナヤスリ			C			
コケシノブ科	コケシノブ	その他重要種		準			
コバノイシカグマ科	フジシダ	希少種					
ミズワラビ科	ミズワラビ			準			
チャセンシダ科	カミカモシダ			B			
	クモノズシダ	分布上重要種					
	イトラノオ	希少種					
シシガシラ科	コモデシダ	分布上重要種					
オシダ科	メヤブソテツ			準			
	ヒロハヤブソテツ	その他重要種					
	ギフベコシダ	分布上重要種					
	タニヘゴ	その他重要種		C			
	カタイノデ	その他重要種					
メシダ科	フクロシダ	分布上重要種					
ウラボシ科	クリハラシ	その他重要種					
	ヒロードシダ	希少種					
サンショウモ科	サンショウモ	絶滅危惧増大種		C	絶滅危惧II類(VU)		
アカウキクサ科	アカウキクサ	要注目種		A	絶滅危惧B類(BN)		
	オオアカウキクサ	希少種		準	絶滅危惧B類(BN)		
カバノキ科	サクラバハノキ	希少種		C	準絶滅危惧(NT)		危急(滋賀:危急)
	アサダ	希少種		準			
ヤドリギ科	ヒノキバヤドリギ	希少種					
タデ科	ウナギツカミ			DD			
	オオネバリタデ	要注目種					
	ネバリタデ	要注目種					
ナデシコ科	ワデガイソウ	分布上重要種		外			
モクレン科	コブシ			C			
キンポウゲ科	ミスミソウ	その他重要種		準	準絶滅危惧(NT)		
	トリガタハンショウヅル	その他重要種					
	トウゴクサバノオ	分布上重要種					
	オキナグサ	絶滅危惧種	指定希少野生動植物種	A	絶滅危惧II類(VU)		危急(滋賀:絶滅寸前)
	オトコゼリ	絶滅危惧種		A			
	セツブンソウ	希少種		A	準絶滅危惧(NT)		危急(滋賀:危急)
	シギンカラマツ	分布上重要種		準			
メギ科	ヘビノボラズ			C			
	オオバメギ	希少種					
スイレネ科	ジュンサイ	その他重要種					
	コウホネ	希少種					
	ヒメコウホネ	要注目種		C	絶滅危惧II類(VU)		危急(滋賀:危急)
	ヒツジグサ	希少種					
ウマノスズクサ科	フタバアオイ						危急
	ミヤコアオイ						危急
	ヒメカンアオイ						危急
ボタン科	ヤマシャクヤク	希少種		C	準絶滅危惧(NT)		
オトギリソウ科	トモエソウ	絶滅危惧増大種					
	ミヤコオトギリ	要注目種					
	アゼオトギリ	絶滅危惧種		A	絶滅危惧B類(BN)		危急(滋賀:危急)
モウセンゴケ科	イシモチソウ	その他重要種		C	準絶滅危惧(NT)		危急
	コモウセンゴケ			準			
	トウカイコモウセンゴケ	その他重要種		C			
マンサク科	マルバノキ	分布上重要種		A			
ベンケイソウ科	ツメレンゲ	要注目種		準	準絶滅危惧(NT)		危急
ユキノシタ科	ウメバチソウ	その他重要種					
	タコノアシ			C	準絶滅危惧(NT)		危急(滋賀:危急)
	ヤシャビシヤク	絶滅危惧種		準	準絶滅危惧(NT)		
バラ科	イワキンバイ	希少種		準			
	ユキヤナギ			準			

表 4 - 1 - 1 8 注目すべき植物種

(2/4)

科名	和名	注目すべき種の選定基準					
		滋賀県RDB2020	滋賀県生き物条例	近畿版RDB2001	環境省レッドリスト2020	種の保全法	日本自然保護協会他RDB
マメ科	モメンヅル	絶滅危惧種		A			
	タヌキマメ	絶滅危惧増大種		C			
	サイカヂ			準			
	イヌハギ	絶滅危惧種		A	絶滅危惧II類(VU)		
	マキエハギ	希少種		C			
ヒメハギ科	ヒナノキンチャク	絶滅危惧種		A	絶滅危惧IB類(BN)		
	ヒナノカンザシ	その他重要種		B			
ドクウツギ科	ドクウツギ	分布上重要種					
カエデ科	メグスリノキ			A			
ニシキギ科	イワウメヅル	要注目種		B			
ジンチョウゲ科	コショウノキ	分布上重要種					
	カラスシキミ	希少種		準			
	コガンピ	分布上重要種					
スミレ科	エイザンスミレ	その他重要種					
	ナガバタデッポスミレ	その他重要種					
	ヒナスミレ	希少種					
ミソハギ科	ミズマツバ	その他重要種		C	絶滅危惧II類(VU)		
ヒシ科	ヒメビシ	絶滅危惧種		A	絶滅危惧II類(VU)		
アカバナ科	トダイアカバナ	要注目種		B	絶滅危惧II類(VU)		危急(滋賀:危急)
アリトウグサ科	タヂモ	希少種		C	準絶滅危惧(NT)		
	フサモ	要注目種		A			
セリ科	ミシマサイコ			A	絶滅危惧II類(VU)		
	ヒメヂドメ			外			
	カワラボウフウ	絶滅危惧種					
	イブキボウフウ	希少種		A			
	カノツメリウ			準			
イチヤクソウ科	ウメカサソウ	希少種					
ツツジ科	オオコメツツジ	分布上重要種		B			
ヤブコウジ科	カラタチバナ	その他重要種					
ハイノキ科	クロミノニシゴリ	その他重要種		A			
マデニ科	アイナエ	希少種		C			
リンドウ科	イスセンブリ	絶滅危惧増大種		C	絶滅危惧II類(VU)		危急(滋賀:現状不明)
ガガイモ科	スズサイコ	希少種		C	準絶滅危惧(NT)		
アカネ科	イナモリソウ	希少種					
	オオキヌタソウ	分布上重要種		準			
ヒルガオ科	マメダオシ	要注目種			絶滅危惧IA類(CR)		
ムラサキ科	ムラサキ	要注目種		A			危急
クマツヅラ科	コムラサキ	その他重要種		C			
シソ科	カワミドリ	その他重要種					
	マネキグサ	希少種		準	準絶滅危惧(NT)		
	ウスギナツノタムラソウ			外			
	ヒメナミキ	希少種		C			
	イガタツナミノウ			準			
	デフノタツナミノウ			外			
	ミヤマナミキ	分布上重要種		準			
ゴマノハグサ科	シソクサ	その他重要種		C			
	クヂナシグサ	その他重要種					
	シオガマギク	その他重要種					
	コシオガマ	希少種					
	サツキヒナノウスツボ	分布上重要種		C			
	ヒギヨモギ	絶滅危惧種		C			
	オオヒギヨモギ	希少種		準	絶滅危惧II類(VU)		危急
	クワガタソウ	絶滅危惧増大種		準			
	イヌノフグリ	希少種		準	絶滅危惧II類(VU)		
タヌキモ科	カワヂシャ			準	準絶滅危惧(NT)		
	ノタヌキモ	絶滅危惧増大種			絶滅危惧II類(VU)		
	タヌキモ	要注目種		A	準絶滅危惧(NT)		
	イヌタヌキモ	希少種			準絶滅危惧(NT)		
	ムラサキミカキグサ	その他重要種		C	準絶滅危惧(NT)		
オオバコ科	トウオオバコ			DD			
マツムシソウ科	ナベナ	絶滅危惧増大種					
	マツムシソウ	希少種		A			

表 4 - 1 - 1 8 注目すべき植物種

(3/4)

科名	和名	注目すべき種の選定基準					
		滋賀県RDB2020	滋賀県生き物条例	近畿版RDB2001	環境省レッドリスト2020	種の保全法	日本自然保護協会他RDB
キキョウ科	キキョウ	その他重要種		C	絶滅危惧II類(VU)		
キク科	カワラハハコ			B			
	ヒメヨモギ			C			
	イワヨモギ				絶滅危惧II類(VU)		
	ヒメシオン	その他重要種		A			
	サワシロギク	その他重要種		C			
	オケラ	希少種		C			
	ウスゲタマブキ	希少種					
	バンジンガンクビソウ	絶滅危惧種					
	ヒメアザミ	分布上重要種					
	ワタムギアザミ	希少種		C	絶滅危惧II類(VU)		
	ホソバムカシヨモギ	要注目種			絶滅危惧II類(VU)		
	フジバカマ	その他重要種		A	準絶滅危惧(NT)		絶滅危惧(滋賀:絶滅危惧)
	アキノハハコグサ	絶滅危惧種		A	絶滅危惧IB類(BN)		
	スイラン	その他重要種					
	オグルマ	その他重要種		C			
	ノニカナ	希少種					
	ミヤコアザミ	絶滅危惧種		A			
	オオダイトウヒレン	絶滅危惧種		A			
	キクアザミ	絶滅危惧種		A			
	オカオグルマ	希少種		C			
	キオン	分布上重要種					
	オナモミ	要注目種		絶滅	絶滅危惧II類(VU)		
オモダカ科	ホソバヘラオモダカ			A	絶滅危惧IA類(CR)		
	アギナシ	希少種		A	準絶滅危惧(NT)		
トデカガミ科	マルミスブタ	絶滅危機増大種		A	絶滅危惧II類(VU)		
	スブタ	絶滅危惧種		A	絶滅危惧II類(VU)		
	ヤナギスブタ	希少種					
	ミズオオバコ	その他重要種			絶滅危惧II類(VU)		
	セキシウモ	絶滅危機増大種					
ヒルムシロ科	コバ・ヒルムシロ			A	絶滅危惧II類(VU)		危急(滋賀:危急)
	ヒルムシロ	その他重要種					
イバラモ科	ホッソモ	その他重要種					
	ヒロハトリゲモ	絶滅危惧種		A			
	イトトリゲモ	その他重要種		A	準絶滅危惧(NT)		危急(滋賀:現状不明)
ユリ科	ニラ			A			
	ノカンソウ	希少種					
	ミズギボウシ			C			
	キンコウカ	希少種		C			
ヒガンバナ科	ナツズイセン			C			
ミズアオイ科	ミズアオイ	絶滅危惧種		A	準絶滅危惧(NT)		危急(滋賀:危急)
アヤメ科	ヒオウギ	その他重要種		外			
	ノハナショウブ	その他重要種		C			
	カキツバタ	その他重要種		C	準絶滅危惧(NT)		
ヒナノシヤクジョウ科	ヒナノシヤクジョウ	その他重要種		B			
ホシクサ科	ホシクサ	希少種		C			
イネ科	ヒメコヌカグサ	その他重要種		C	準絶滅危惧(NT)		絶滅危惧
	セトガヤ	希少種					
	イワタケソウ	絶滅危機増大種		C			
	ホッソガヤ	希少種					
	ヒナザサ	その他重要種		B	準絶滅危惧(NT)		
	ウンヌケモドキ	絶滅危機増大種		C	準絶滅危惧(NT)		
	ウキガヤ	その他重要種		A			
	コウボウ	絶滅危機増大種		C			
	エゾノサヤヌカグサ	希少種					
	ミノボロ	要注目種		C			
	スズメノコビエ	希少種		C			
	ウキシバ	希少種		C			
	ウシクサ	その他重要種					
	メガルカヤ	その他重要種					
サトイモ科	ヒロハデンナンショウ	その他重要種		C			
	アシウデンナンショウ	分布上重要種		C			

表 4 - 1 - 1 8 注目すべき植物種

(4/4)

科名	和名	注目すべき種の選定基準					
		滋賀県RDB2020	滋賀県生き物条例	近畿版RDB2001	環境省レッドリスト2020	種の保全法	日本自然保護協会他RDB
ミクリ科	ミクリ	その他重要種		A	準絶滅危惧(NT)		危急(滋賀:危急)
	ヤマミクリ	希少種		C	準絶滅危惧(NT)		危急(滋賀:危急)
	ナガエミクリ			準	準絶滅危惧(NT)		危急(滋賀:危急)
ガマ科	コガマ	その他重要種		C			
カヤツリゲサ科	イトハナビテンツキ	その他重要種					
	ケタガネソウ	その他重要種					
	オオタマツリスゲ	希少種					
	ヒナスゲ			B			
	コハリスゲ			C			
	ヌカスゲ	要注目種					
	マメスゲ	その他重要種		C			
	ヤブスゲ	要注目種		A			
	サトヤマハリスゲ	その他重要種					
	ヒメアオガヤツリ	その他重要種					
	アゼテンツキ	希少種		A			
	アオテンツキ	その他重要種					
	オオイヌノハナビゲ	その他重要種		C			
	ノグサ	希少種					
	ヒメホタルイ	その他重要種					
	マツカサススキ	その他重要種		C			
	タイワンヤマイ	その他重要種					
	ゴシンジュガヤ	希少種		C			
ラン科	ヒナラン	絶滅危惧種	指定希少野生動植物種	B	絶滅危惧B類(BN)		危急
	エビネ	その他重要種		外	準絶滅危惧(NT)		危急(滋賀:危急)
	ナツエビネ	その他重要種		A	絶滅危惧II類(VU)		
	ギンラン	希少種					
	キンラン	希少種		C	絶滅危惧II類(VU)		
	モイワラン	絶滅危惧種			絶滅危惧IA類(CR)		
	トケラン	希少種		準	絶滅危惧II類(VU)		
	クマガイソウ	絶滅危惧種	指定希少野生動植物種	C	絶滅危惧II類(VU)		危急(滋賀:危急)
	セッコク	絶滅危惧種	指定希少野生動植物種	C			
	サワラン	絶滅危惧種	指定希少野生動植物種	A			
	オニノヤガラ	希少種		準			
	シロテンマ				絶滅危惧IA類(CR)		
	クロヤツシロラン	その他重要種		DD			危急
	アキザギヤツシロラン	希少種					
	ノビネデドリ	絶滅危惧種		C			
	ムカゴトンボ	要注目種		A	絶滅危惧B類(BN)		
	サギソウ	希少種		C	準絶滅危惧(NT)		危急(滋賀:現状不明)
	ミズトンボ	希少種		C	絶滅危惧II類(VU)		
	ムカゴソウ	要注目種		A	絶滅危惧B類(BN)		
	セイタカスズムシソウ	絶滅危惧種		A			
	ジガバチソウ	希少種		C			
	クモキリソウ	その他重要種					
	アオフタバラン	希少種		準			
	ウデョウラン	絶滅危惧種	指定希少野生動植物種	C	絶滅危惧II類(VU)		危急(滋賀:危急)
	ツレサギソウ	絶滅危惧種		B			
	ヤマサギソウ	希少種		A			
	コバノトンボソウ	その他重要種		C			
	トキソウ	絶滅危惧増大種		C	準絶滅危惧(NT)		
	ヤマトキソウ	絶滅危惧増大種		C			
	カヤラン	希少種					
	ヒツボクロ	絶滅危惧増大種		準			
	トンボソウ	希少種		準			
	ショウキラン	絶滅危惧増大種		準			
75科	241種	207種	6種	162種	69種	0種	30種

環境省 自然環境局 生物多様性センター「巨樹・巨木林データベース」によると、対象事業実施区域およびその周辺では表４－１－１９および図４－１－２６に示す６箇所14本の巨樹・巨木が登録されている。

対象事業実施区域内では巨樹・巨木は確認されていない。

表４－１－１９ 対象事業実施区域周辺の巨樹・巨木

図中 番号	町名	社寺	樹種	胸高直径 (cm)	樹齡	樹高 (m)	呼称
1	村井	綿向神社	スギ	433	300年以上	25	野神さん
			スギ	347	不明	25	
			スギ	305	不明	25	
			スギ	340	不明	25	
			タブノキ	332	不明	25	
2	金英町	大聖寺	タブノキ	327	300年以上	7	
3	大谷	椎植神社	タブノキ	461	100-199年	23	
4	中之郷	長寸神社	スギ	305	不明	28	
			スギ	349	不明	29	
			スギ	350	不明	25	
5	北脇	諸木神社	スギ	392	300年以上	27	
			スギ	339	300年以上	31	
6	里口	八幡神社	ケヤキ	300	100-199年	26	
			カヤ	395	100-199年	26	

(14) 水生生物の状況

生物既存調査資料等によると、魚類については8目17科47種、底生動物については6門8綱23目87科203種の生息が対象事業実施区域を含む日野町とその周辺の水域で確認されている。

このうち表4-1-20の基準には、魚類では表4-1-21に示す8目14科32種が、底生動物では表4-1-22に示す2門4綱10目14科19種が該当する。

なお、オヤニラミについては京都府以西に自然分布しているが、滋賀県では観賞魚として人為的に持ち込まれたものが放流等で広がったものであり、動物食の傾向が強く、生態的影響が顕在化するおそれがあることから、指定外来種となっている。

表4-1-20 注目すべき水生生物の基準

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 滋賀県「滋賀県で大切にすべき野生生物(2020年版)」(2021)に記載されている種2. 「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」(平成19年3月29日施行)に基づく指定希少野生動植物3. 環境省「環境省レッドリスト2020の公表について」(2020)に記載されている昆虫類、淡水魚類、貝類4. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1993)において国内希少野生動植物種と規定された種5. 「文化財保護法」(1983)において天然記念物に指定された種(種指定のみ抜粋) |
|---|

表 4 - 1 - 2 1 注目すべき魚類

目名	科名	和名	注目すべき種の選定基準				
			滋賀県RDB2015	滋賀県いきもの条例	環境省レッドリスト2018	種の保存法	文化財保護法
ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ類	絶滅危機増大種		絶滅危惧II類 (VU)		
ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	要注目種		絶滅危惧IB類 (EN)		
コイ目	コイ科	ゲンゴロウブナ	希少種		絶滅危惧IB類 (EN)		
		ニゴロブナ	希少種		絶滅危惧IB類 (EN)		
		ギンブナ	要注目種		絶滅危惧IA類 (CR)		
		ヤリタナゴ	絶滅危機増大種		準絶滅危惧 (NT)		
		アブラボテ	絶滅危機増大種		準絶滅危惧 (NT)		
		カワバタモロコ	絶滅危惧種		絶滅危惧IB類 (EN)		
		ハス	希少種		絶滅危惧II類 (VU)		
		スラムツ	分布上重要種				
		アブラハヤ	要注目種				
		タカハヤ	要注目種				
		モツゴ	希少種				
		ムギツク	希少種				
		ズナガニゴイ	絶滅危機増大種				
		イトモロコ	絶滅危機増大種				
	ドジョウ科	ドジョウ	要注目種		準絶滅危惧 (NT)		
		アジメドジョウ	希少種		絶滅危惧II類 (VU)		
		シマドジョウ	要注目種				
		ホトケドジョウ	絶滅危機増大種		絶滅危惧IB類 (EN)		
ナマズ目	ギギ科	ギギ	絶滅危惧種				
	ナマズ科	ナマズ	要注目種				
	アカザ科	アカザ	希少種		絶滅危惧II類 (VU)		
サケ目	アユ科	アユ	分布上重要種				
	サケ科	ヤマトイワナ	絶滅危機増大種				
		サツキマス(アマゴ)	要注目種		準絶滅危惧 (NT)		
		ビワマス	要注目種		準絶滅危惧 (NT)		
ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	絶滅危機増大種		絶滅危惧II類 (VU)		
カサゴ目	カジカ科	カジカ(大卵型)	希少種		準絶滅危惧 (NT)		
スズキ目	ケツギョ科	オヤニラミ		指定外来種	絶滅危惧IB類 (EN)		
	ドンコ科	ドンコ	その他重要種				
	ハゼ科	カワヨシノボリ	要注目種				
8目	14科	32種	31種	1種	18種	0種	0種

表 4 - 1 - 2 2 注目すべき底生動物

門名	綱名	目名	科名	和名	注目すべき種の選定基準				
					滋賀県RDB2020	滋賀県いきもの条例	環境省レッドリスト2020	種の保存法	文化財保護法
軟体動物門	腹足綱	原始紐舌目	タニシ科	マルタニシ オオタニシ	希少種 要注目種		絶滅危惧II類 (VU) 準絶滅危惧 (NT)		
		盤足目	ミズツボ科	サガノミジンツボ	要注目種		情報不足 (DD)		
		基眼目	モノアラガイ科	コシダカヒメモノアラガイ モノアラガイ			情報不足 (DD) 準絶滅危惧 (NT)		
	二枚貝綱	イシガイ目	イシガイ科	オバエボシガイ トンガリササノハガイ マツカサガイ	絶滅危機増大種 絶滅危機増大種 絶滅危機増大種		絶滅危惧II類 (VU) 準絶滅危惧 (NT) 準絶滅危惧 (NT)		
		マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ	絶滅危機増大種		絶滅危惧II類 (VU)		
			マメシジミ科	マメシジミ	要注目種				
節足動物門	軟甲綱	エビ目	サワガニ科	サワガニ	要注目種				
	昆虫綱	トンボ目	サナエトンボ科	キイロサナエ フタスジサナエ	その他重要種 希少種		準絶滅危惧 (NT) 準絶滅危惧 (NT)		
		カメムシ目	コオイムシ科	コオイムシ			準絶滅危惧 (NT)		
			タイコウチ科	ミズカマキリ	要注目種				
		トビケラ目	アシエダトビケラ科	ビワアシエダトビケラ	絶滅危機増大種		準絶滅危惧 (NT)		
			フトヒゲトビケラ科	ヒトスジキツトビケラ	絶滅危機増大種				
		コウチュウ目	ゲンゴロウ科	キベリマゲンゴロウ	希少種		準絶滅危惧 (NT)		
			ミズスマシ科	オオミズスマシ	希少種		準絶滅危惧 (NT)		
2門	4綱	10目	14科	19種	15種	0種	15種	0種	0種

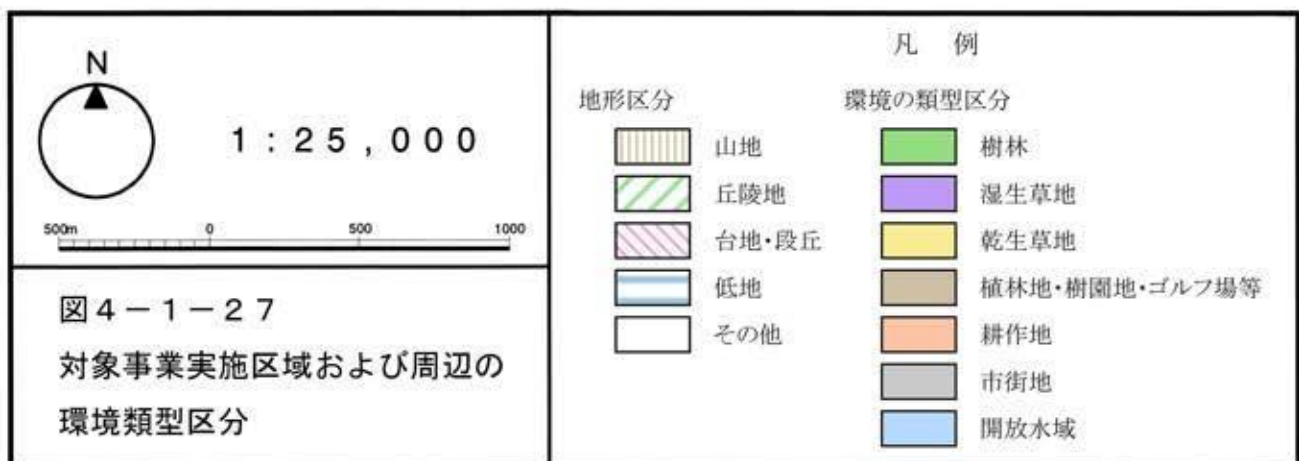
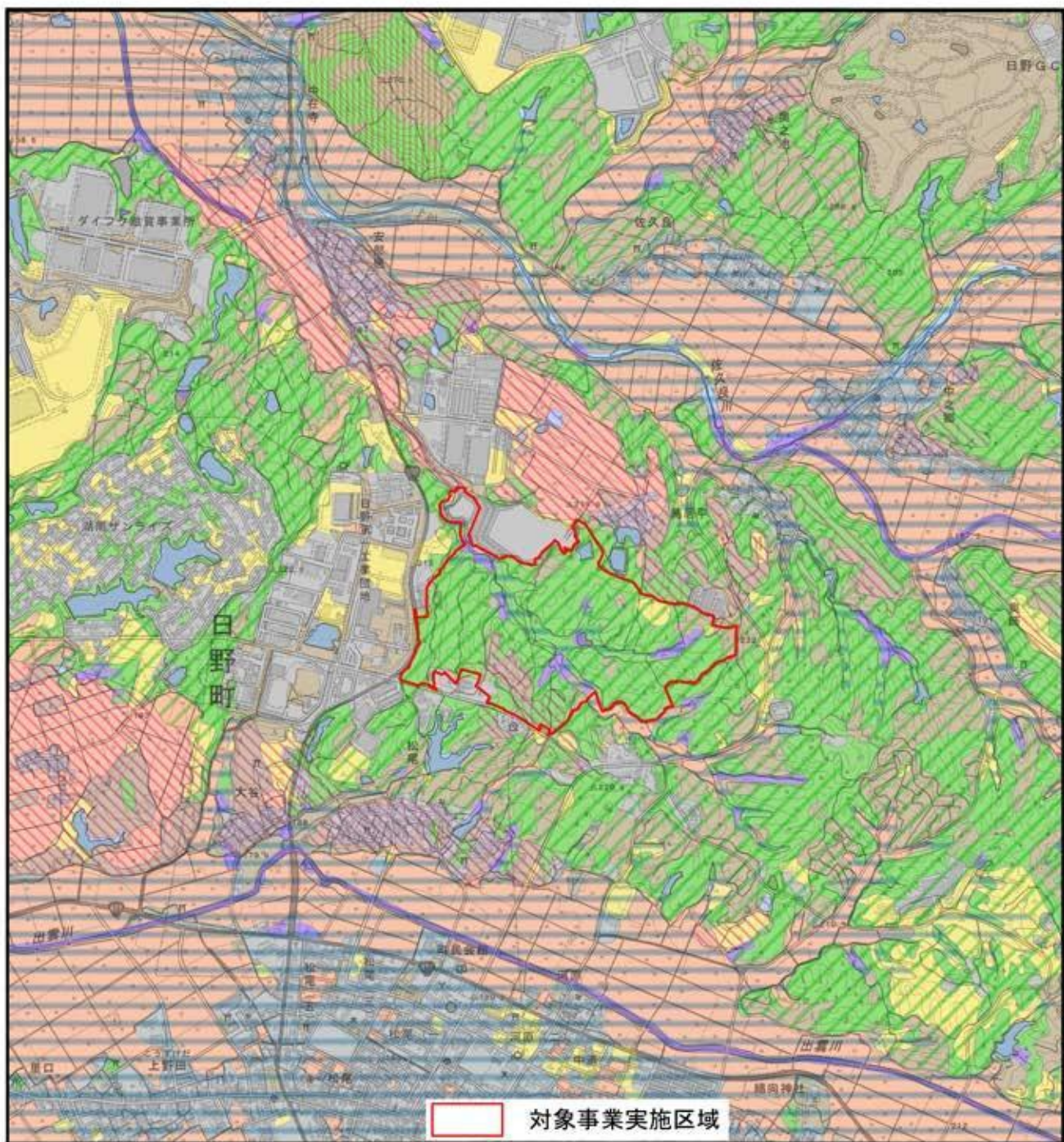
(15) 生態系の状況

対象事業実施区域およびその周辺における環境類型は、地形および植生、土地利用の状況を考慮し、表４－１－２３および図４－１－２７に示すように７類型に区分した。

対象事業実施区域は丘陵地形にあり、アカマツ林やコナラ林などの二次林で覆われていることから多くが樹林環境となっているが、一部に湿生草地や乾生草地も見られる。対象事業実施区域の西には人工改変地が広がっており、工場などの市街地環境となっている。また北側と南側には台地、丘陵地に耕作地環境が広がっている。東側は対象事業実施区域と同様の樹林環境が丘陵地に続いている。

表４－１－２３ 環境類型区分一覧

環境類型区分	主な地形	植生・土地利用
樹林	山地、丘陵地	ウラジログシャーヒメアオキ群集・ケヤキ亜群集、アラカシ群落、シイ・カナメモチ群集、ツクバネガシ群落、ケヤキ・ムクノキ群集、ハンノキ林(ハンノキ・セリ群集など)、ヤナギ林(タチヤナギ・アカメヤナギ群落など)、シイ・カシ二次林、クヌギ・コナラ群集、アカマツ・シロダモ群落、アカマツ・ネザサ群落、伐採跡地群落
湿生草地	低地	ヨシクラス、ツルヨシ群集、水田放棄雑草群落(セリ群落、ミゾソバ・アシボリ群落など)
乾生草地	丘陵地、その他	雑草群落(ススキ群回、クズ群落、ヨモギ群落、トダシバ群落など)
植林地・樹園地・ゴルフ場等	山地、丘陵地、その他	スギ・ヒノキ・アカマツ・クロマツ植林、竹林(モウソウチク、マダケなど)、ゴルフ場、シバ草地、牧草地・人工草地(カモガヤ、シナダレスズメガヤなど)、果樹園(カキ・ナシなど)
耕作地	台地・段丘、低地	畑地雑草群落(カラスビシャク・ニシキソウ群集)、水田雑草群落(ウリカワ・コナギ群集)
市街地	台地・段丘、低地	残存・植栽樹群の公園、墓地など、緑の多い住宅地、市街地、工場地、造成地・人工裸地
開放水域	低地	開放水域



対象事業実施区域およびその周辺における重要な自然環境のまとまりの場は、
表 4-1-24 および図 4-1-28 に示すとおりである。

重要な自然環境のまとまりの場としては、「計画段階配慮手続に係る技術ガイド」（平成25年3月、環境省計画段階配慮技術手法に関する検討会）で示された手法に基づき、「環境影響を受けやすい場」、「環境保全の観点から法令等により指定された場」、「法令等に指定されていないが地域により注目されている場」の観点から抽出した。

対象事業実施区域内には自然度の高い二次林のハンノキ林および自然植生の湿生草地であるヨシクラスが分布している。

表 4-1-24 重要な自然環境のまとまりの場

	抽出の基準	重要な自然環境のまとまりの場の抽出結果
環境影響を受けやすい場	・自然林、湿原、湧水、藻場、干潟、自然海岸等の人為的な改変をほとんど受けていない自然環境または野生生物の重要な生息・生育の場 ・運河、内湾等の閉鎖性水域等	【自然植生】 中間温帯 ・ウラジロガシ・ヒメアオキ群集・ケヤキ亜群集 暖温帯 ・アラカシ群落 ・シイ・カナメモチ群集 ・ツクバネガシ群落 ・ケヤキ・ムクノギ群集 ・ヤナギ林 冷温帯・暖温帯共通 ・ヨシクラス ・ツルヨシ群集
環境保全の観点から法令等により指定された場	・文化財保護法に基づき指定された天然保護区域 ・自然公園（国立公園、国定公園および都道府県立自然公園）の区域 ・原生自然環境保全地域、自然環境保全地域 ・緑地保全地区（都市緑地保全法） ・鳥獣保護区、ラムサール条約、KBAに基づく登録簿に掲載された湿地 ・保安林等の地域において重要な機能を有する自然環境等 ・生物多様性の観点から重要度の高い湿地	【保安林】 ・制限林を含む小班 ・水源森林区域
法令等に指定されていないが地域により注目されている場	・里地里山（二次林、人工林、農地、ため池、草原等）並びに河川沿いの氾濫原の湿地帯および河畔林等のうち、減少または劣化しつつある自然環境・都市に残存する樹林地および緑地（斜面林、杜寺林、屋敷林等）並びに水辺地等のうち、地域を特徴づける重要な自然環境 ・地域で認められている魚類の産卵等である浅海域等	【自然度の高い二次林】 ・ハンノキ林 ・シイ・カシ二次林 【巨樹・巨木林】 1. 綿向神社のスギ、タブノキ 2. 大聖寺のタブノキ 3. 権植神社のタブノキ 4. 長寸神社のスギ 5. 諸木神社のスギ 6. 八幡神社のケヤキ、カヤ

対象事業実施区域およびその周辺における動植物の生育・生息状況から食物連鎖の状況を模式図に表すと図４－１－２９に示すようになると考えられる。

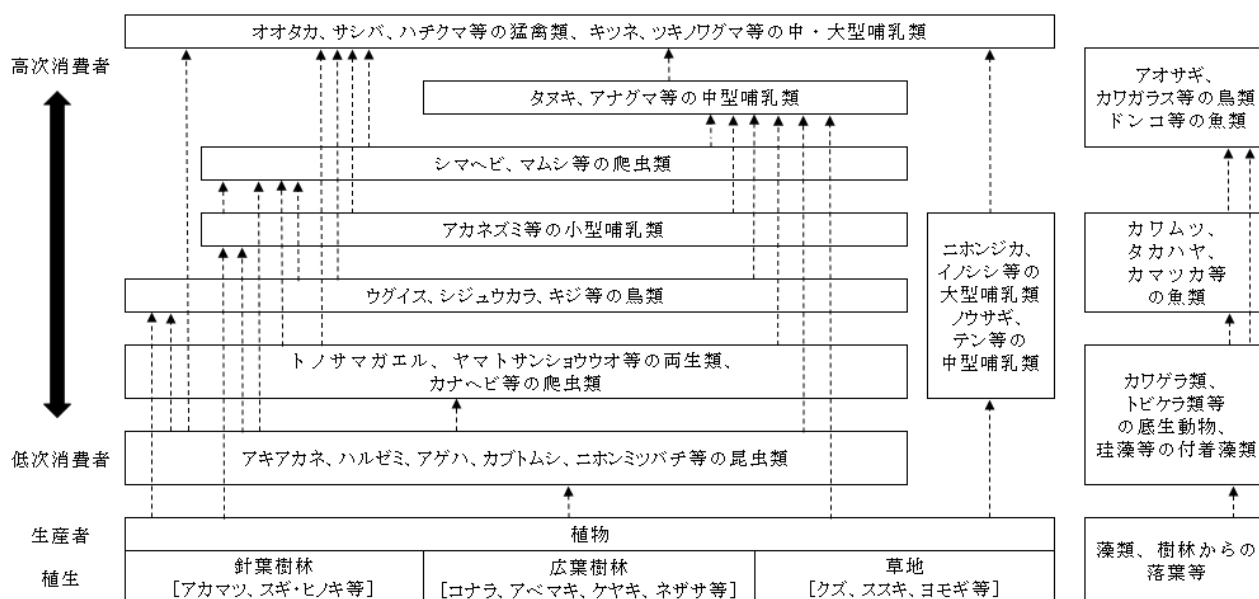


図４－１－２９ 食物連鎖模式図

(16) 景観の状況

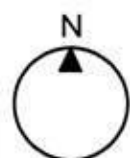
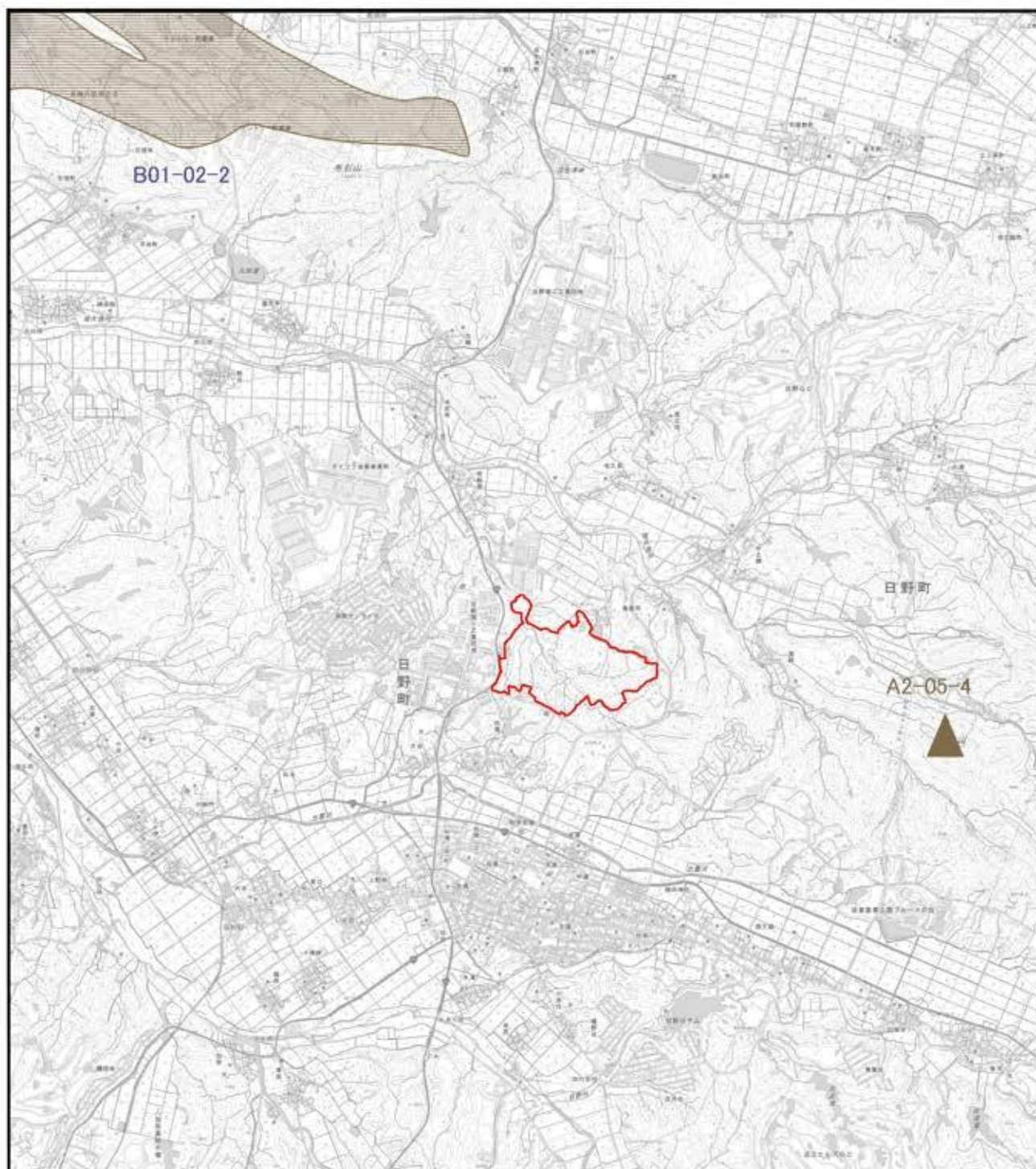
対象事業実施区域およびその周辺は丘陵地に位置しており、アカマツ林やコナラ林に覆われた里山景観となっているが、工業団地や住宅団地などの人工的な景観要素も増加している。

日野町における景観資源としては表４－１－２５および図４－１－３１に示すものがあるが、対象事業実施区域内には存在しない。

表４－１－２５ 対象事業実施区域周辺の景観資源

景観資源	番号	名称
特定植物群落	40	熊野のヒダリマキガヤ
	42	鎌掛のホンシャクナゲ群落
非火山性孤立峰	A2-05-4	石子山
河成段丘	B1-02-1	布引山
	B1-02-2	布引山
滝	B1-10-27	
	B1-10-30	熊野滝
湿原	B2-02-3	

対象事業実施区域は丘陵地の上部に位置しており、対象事業実施区域中央の谷へ向かって傾斜していること、周辺の段丘や丘陵地に囲まれていることなどから、周辺から眺望できる場所は対象事業実施区域に近い場所に限られ、重要な眺望地点は図４－１－３０に示すとおりである。



1 : 50,000

1,000m 0 1,000 2,000



対象事業実施区域

図4-1-31

対象事業実施区域周辺の
景観資源

出典：環境庁「第3回自然環境保全基礎調査 滋賀県自然環境情報図」(1989)

(17) 人と自然との触れ合いの活動の状況

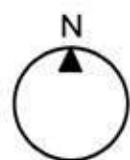
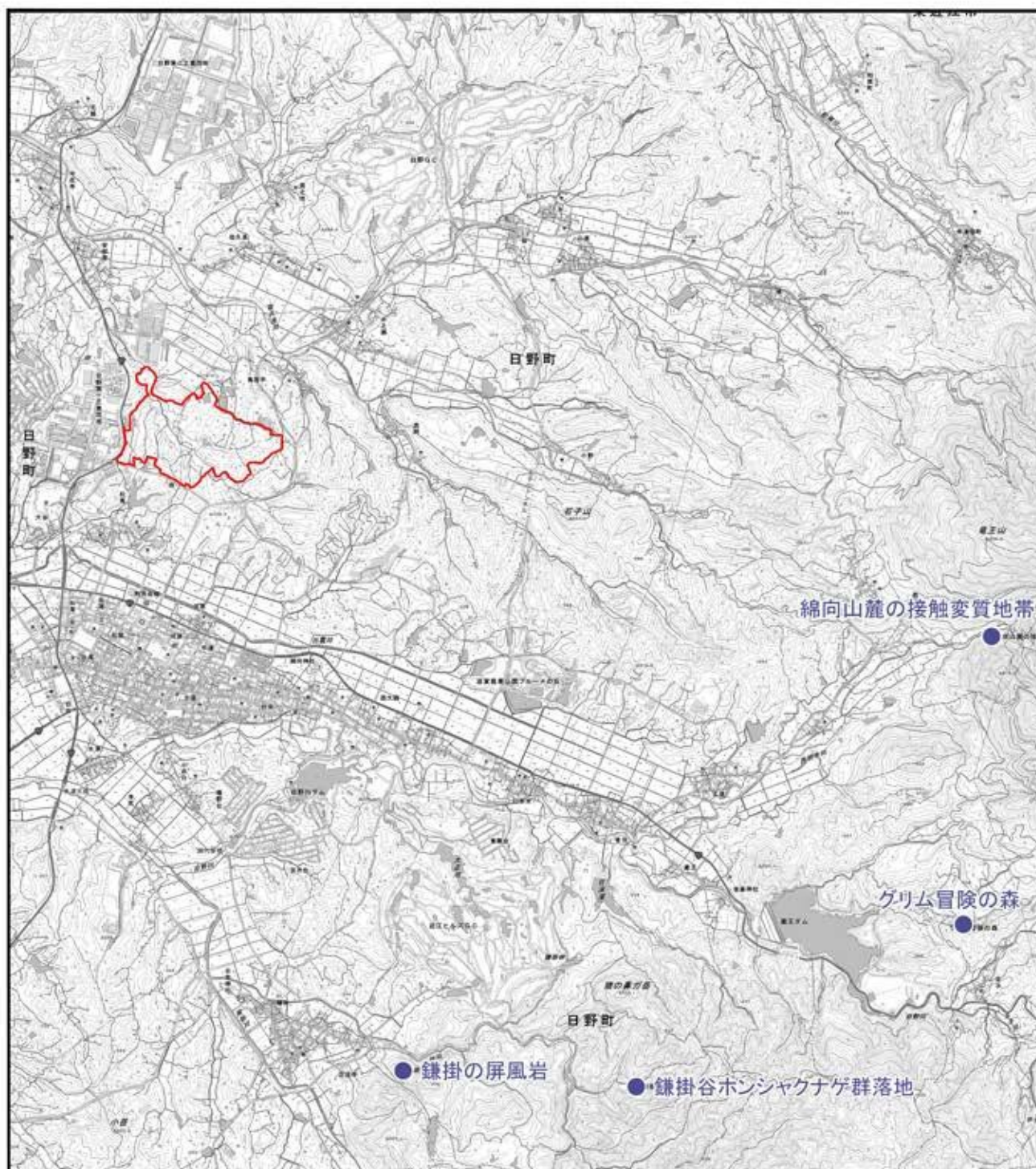
対象事業実施区域が位置する日野町における自然との触れ合い活動の場は

表 4－1－26 および図 4－1－32 に示すとおりである。

対象事業実施区域内には自然との触れ合い活動の場として利用されているものは存在しない。

表 4－1－26 対象事業実施区域周辺の自然との触れ合い活動の場

名 称	概 要
鎌掛谷ホンシャクナゲ群落地	国指定天然記念物。鎌掛谷の南側のアカマツ林に生育する。口の割谷から女木谷にかけて特に多く自生し、斜面約 4 万㎡に群生する。本来は高山植物であり、鈴鹿山系でも標高 800m から 1000m 付近の高所に見られるが、ここでは標高 350m 前後の低地に見られ非常に珍しい。
熊野のヒダリマキガヤ	国指定天然記念物。ヒダリマキガヤはカヤの突然変異で生じた変種で、普通のカヤは種子の外殻と内殻に直線状に筋が入ってるが、ヒダリマキガヤは左巻き（または右巻き）に筋が入っており、非常に珍しいので多くは天然記念物に指定されている。 熊野のヒダリマキガヤは 4 本発見されており、内 3 本が国の天然記念物に指定されている。1 号木は熊野神社から 100m ほど道路を奥に進んだ道路下にあり、3 号木は熊野神社の手前 20m ほどの谷に下る道の脇にある。2 号木は 1 号木と道路を挟んだ個人の宅地内にある。
綿向山麓の接触変質地帯	国指定天然記念物。美濃・丹波帯の石灰岩に花崗岩が貫入し、それによりスカルン鉱物（珪灰石、透輝石、ベスブ石、ザクロ石）が形成され、両者の接触部も観察される
鎌掛の屏風岩	国指定天然記念物。滝谷川左岸に位置し、美濃・丹波帯のチャートの露頭であり、層理面と直交する節理が交互にみられるため屏風状を呈するものとされている。
グリム冒険の森	グリム童話で知られるグリム兄弟が生涯を通じて旅したドイツのメルヘン街道に位置する地名などに似ていることから「グリム冒険の森」と名前がつけられている。 キャンプ場は、コテージ、オートキャンプサイト、区画のないフリーオートキャンプサイトがあり、四季折々の自然の中でキャンプを楽しむことができる。また自然を活かした木工教室やリース作りなど様々な体験ができる。
綿向山登山道	綿向山は標高 1,110m、鈴鹿山系の一峰で鈴鹿国定公園内にあり、歴史に古い神を祀る大衆の山である。四季おりおりに美しい景色の移り変わりを見せ、日野川の最源流に位置し、人々に有形無形の自然の恵みを与え続けている。登山道として表参道コース（初級）、北参道コース（中級）、水無山北尾根コース（中級）、竜王山～綿向山縦走コース（中級）の 4 コースがある。表参道 7 合目から頂上付近にかけては県内では少なくなったブナの原生林が群生し、見事な生態系をなしている。また綿向山で最初に発見されたのでその名が付けられたワタムキアザミをはじめ多くの植物が生育している。
熊野の滝	熊野滝は、日野川上流部の熊野谷に懸かる滝で、熊野神社からの遊歩道の終点にあり、周囲は切り立った崖に囲まれている。以前は落差 10m、V 字に切り込んだ岩の間から水が流れ出す直瀑であったが、2013 年 8 月の豪雨でせり出していた右岸が崩落し、高さ 8 m の段瀑になっている。



1 : 50,000

1,000m 0 1,000 2,000



対象事業実施区域

図4-1-32

対象事業実施区域周辺の人と
自然との触れ合い活動の場

出典：日野町観光地図

(18) 文化財の状況

滋賀県「平成28年度 滋賀県遺跡地図」によると、対象事業実施区域およびその周辺における埋蔵文化財の分布状況は表4-1-27および図4-1-33に示すとおりであり、対象事業実施区域内では埋蔵文化財は確認されていない。

また日野町教育委員会生涯学習課資料によると、対象事業実施区域およびその周辺における指定文化財は表4-1-28に示すとおりであり、対象事業実施区域内には指定文化財は存在しない。

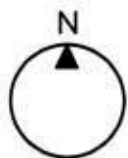
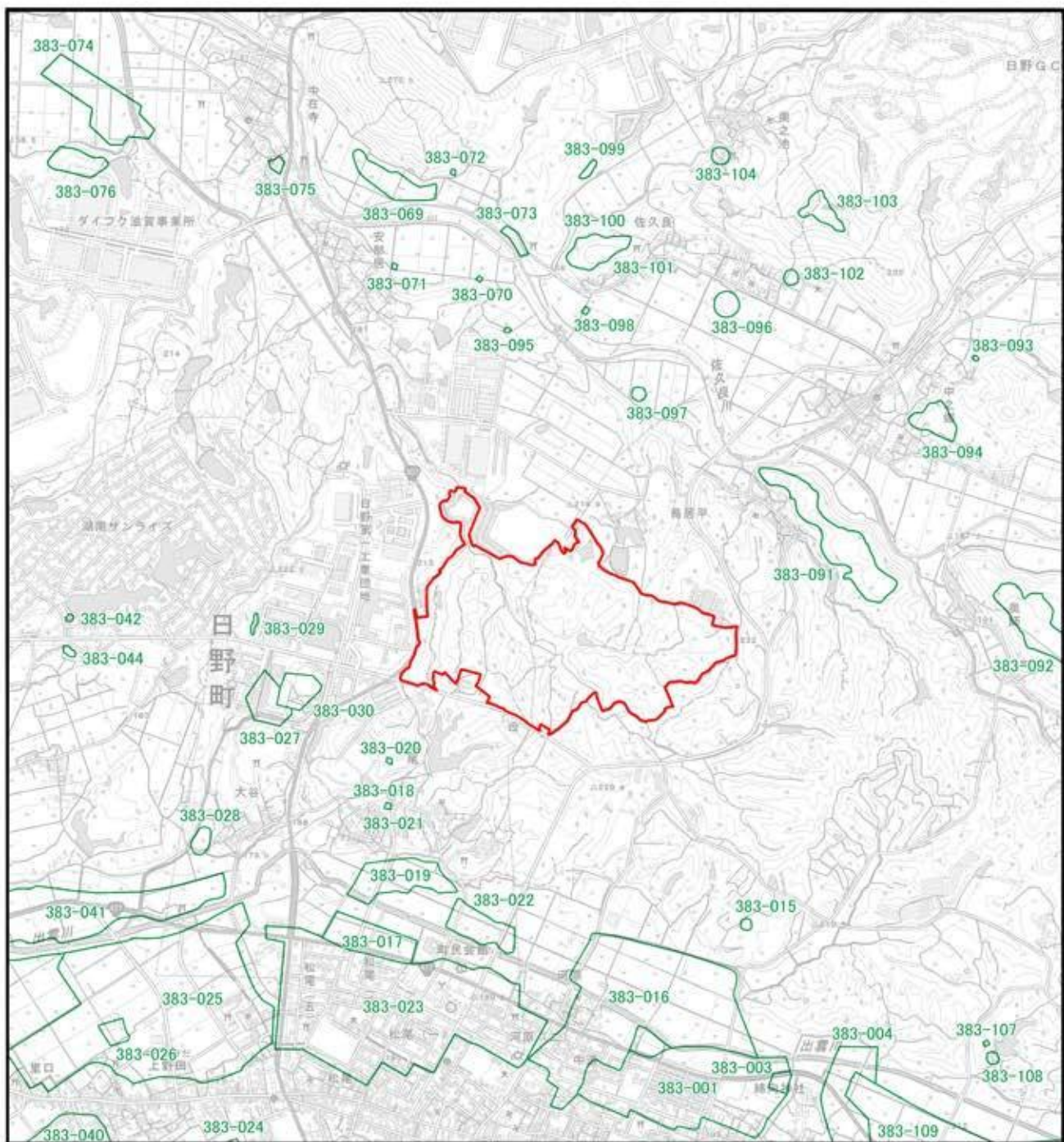
(19) 伝承文化の状況

対象事業実施区域のある日野町では、日枝神社の南山王祭、馬見岡綿向神社の春例祭の日野祭、ひばり野・五社神社の火ふり祭、熊野神社・野上神社の近江中山の芋競べ祭りなど多くの伝承文化がある。

表4-1-27 対象事業実施区域周辺の埋蔵文化財

番号	名称	種類	時代	所在地	現状
383-001	西中道遺跡	集落跡	奈良・室町	村井	水田、宅地
383-003	太田氏館遺跡	城館跡	中世	村井	水田
383-004	宮ノ後遺跡	集落跡	鎌倉	村井	水田
383-015	野間遺跡	散布地	奈良	河原	水田
383-016	五斗井遺跡	集落跡	平安～中世	河原	水田
383-017	五斗左遺跡	集落跡	鎌倉	松尾	水田
383-018	御霊谷西遺跡	散布地	中世	松尾	水田
383-019	松尾寺遺跡	社寺跡	中世	松尾	水田
383-020	鳥ヶ巣遺跡	その他墓跡	中世	松尾	山林
383-021	正明寺遺跡	社寺跡	中世	松尾	宅地
383-022	浄土寺遺跡	集落跡	中世	松尾	水田
383-023	松尾遺跡	集落跡	古墳～近世	松尾	宅地、水田
383-024	野田代遺跡	集落跡	中世	上野田	水田
383-025	北代遺跡	集落跡、古墳	白鳳～奈良	上野田	水田
383-026	上野田館遺跡	城館跡	中世	上野田	宅地、水田
383-027	稲荷山遺跡	城館跡	中世	大谷	その他
383-028	西出遺跡	散布地	その他	大谷	水田、雑地
383-029	大谷窯跡	生産遺跡	奈良	大谷	その他
383-030	大谷古墓	その他墓跡	鎌倉・室町	大谷	その他
383-040	十禪師遺跡	集落跡	古墳～鎌倉	十禪師	宅地、水田
383-041	上代遺跡	集落跡	奈良～中世	山本	水田
383-042	堀切遺跡	生産遺跡	その他	山本	その他
383-044	月ヶ岡遺跡	散布地	奈良	山本	山林、水田
383-069	下屋敷遺跡	散布地	中世	安部居	水田
383-070	上江遺跡	散布地	奈良	安部居	水田
383-071	里中遺跡	散布地	中世	安部居	水田
383-072	西芳寺遺跡	社寺跡	中世	安部居	山林
383-073	クルヘギ遺跡	集落跡	鎌倉～室町	阿部居	山林、水田
383-074	堀越遺跡	集落跡	奈良・平安	中在寺	水田
383-075	小山代遺跡	散布地	中世	中在寺	畑地、その他
383-076	大澤遺跡	生産遺跡	その他	中在寺	その他
383-091	鳥居平城跡	城館跡	室町	鳥居平	山林
383-092	四ツ谷城跡	城館跡	室町	中之郷	その他
383-093	銭堀山遺跡	その他	鎌倉	中之郷	山林
383-094	善通教寺遺跡	社寺跡	その他	中之郷	畑地
383-095	古枝遺跡	散布地	中世	佐久良	水田
383-096	寺井遺跡	散布地	中世	佐久良	水田
383-097	前山遺跡	散布地	中世	佐久良	水田
383-098	中島遺跡	散布地	鎌倉	佐久良	水田
383-099	森添窯跡	生産遺跡	その他	佐久良	山林
383-100	佐久良城跡	城館跡	室町	佐久良	山林
383-101	城山古墳群	古墳群	古墳	佐久良	山林
383-102	寺倉氏館遺跡	城館跡	中世	佐久良	水田、その他
383-103	長寸城跡	城館跡	室町	佐久良	山林
383-104	池殿屋敷遺跡	城館跡	中世	奥之池	山林
383-107	薬王寺溜遺跡	散布地	旧石器	西大路	山林
383-108	薬王寺遺跡	社寺跡	中世	西大路	水田
383-109	中甲津遺跡	集落跡	鎌倉	西大路	水田

出典：滋賀県「平成28年度 滋賀県遺跡地図」



1 : 25 , 000

500m 0 500 1000



対象事業実施区域

図 4 - 1 - 33

対象事業実施区域周辺の
埋蔵文化財分布状況

出典：平成28年度 滋賀県遺跡地図

表 4－1－28 対象事業実施区域周辺の指定文化財

区分	名 称	員数	年代	所在地	種 別	指定等年月日	所有者又は管理者
国 指 定 文 化 財	木造十一面観音立像	1 軀	平安	松尾	有形(彫刻)	M44.8.9	長福寺
	木造千手観音及脇侍不動明王・毘沙門天立像	3 軀	室町	松尾	有形(彫刻)	M44.8.9	正明寺
	木造聖観音立像	1 軀	平安	大谷	有形(彫刻)	M44.8.9	金剛寺
	正明寺本堂	1 棟	江戸	松尾	有形(建造物)	S5.5.23	正明寺
	石造燈籠	1 基	鎌倉	村井	認定(美術工芸品)	S17.12.16	馬見岡綿向神社
	石造燈籠	1 基	鎌倉	北脇	認定(美術工芸品)	S17.12.16	諸木神社
県 指 定 文 化 財	木造大日如来坐像	1 軀	鎌倉	松尾	有形(彫刻)	S49.3.11	正明寺
	日野曳山祭	—	—	村井	無形民俗	S60.3.29	馬見岡綿向神社 日野祭保存会
	馬見岡綿向神社本殿	1 棟	江戸	村井	有形(建造物)	H10.6.19	馬見岡綿向神社
	日野のホイノボリ	—	—	—	選択無形民俗	H12.3.10	—
	正明寺 経蔵	1 棟	江戸	松尾	有形(建造物)	H17.4.20	正明寺
	鉄眼版一切経(初刷禁裏献上本)	2157 冊	江戸	松尾	有形(書跡)	H17.4.20	正明寺
	鰐口	1 口	鎌倉	安部居	有形(工芸品)	H19.6.1	安部居区
	馬見岡綿向神社祭礼渡御図絵馬	1 点	江戸	村井	有形民俗	H29.11.17	馬見岡綿向神社
町 指 定 文 化 財	石造宝篋印塔	1 基	鎌倉	中在寺	有形(建造物)	S37.10.1	津島神社
	石造宝塔	1 基	南北朝	安部居	有形(建造物)	S37.10.1	念法寺
	木造聖観世音菩薩立像	1 軀	平安	佐久良	有形(彫刻)	S51.4.26	仲明寺
	木造阿弥陀如来坐像	1 軀	平安	松尾	有形(彫刻)	S51.4.26	長福寺
	石造板碑	1 基	鎌倉	村井	有形(建造物)	S51.4.26	杜信之
	名号板碑	1 基	南北朝	上野田	有形(建造物)	S51.4.26	正覚寺
	山崎宮鰐口	1 口	室町	中之郷	有形(工芸品)	S51.4.26	長寸神社
	絹本着色阿弥陀三尊来迎図	1 幅	南北朝	中之郷	有形(絵画)	S51.4.26	中之郷区

資料: 教育委員会 生涯学習課

4－2．社会的状況

(1) 人口の状況

対象事業実施区域の位置する日野町における人口と世帯数の推移を表4－2－1に示す。

世帯数は増加傾向にあり、人口は減少傾向にある。

表4－2－1 日野町の人口等の推移

各年10月1日

	総数	男	女	世帯数
平成23年	22,477	11,020	11,457	7,609
平成24年	22,729	11,134	11,595	7,836
平成25年	22,449	11,030	11,419	7,609
平成26年	22,236	10,919	11,317	7,868
平成27年	22,156	10,893	11,263	7,918
平成28年	21,884	10,799	11,085	7,948
平成29年	21,724	10,753	10,971	8,047
平成30年	21,528	10,668	10,860	8,132
令和元年	21,518	10,721	10,797	8,341
令和2年	21,322	10,666	10,656	8,394

資料：住民課（住民基本台帳）

(2) 産業の状況

① 産業全般

日野町の産業大分類による15歳以上就業者数変化を表4－2－2に、産業別事業所数の変化を表4－2－3に示す。これによると、製造業（第二次産業）の就業者数が最も多く、サービス業、卸・小売業・飲食店、農業がこれに続いている。また、第一次産業就業者と建設業（第三次産業）の就業者数は減少傾向にある。

事業所数は卸売り・小売業が最も多く、建設業がこれに続いている。

表 4 - 2 - 2 日野町の産業大分類による15歳以上就業者数変化

		平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
就業者合計		11,709	11,887	11,545	11,232
第1次産業	農業	646	893	561	532
	林業	9	10	27	23
	漁業	1	1	2	
第2次産業	鉱業	7	1	4	6
	建設業	1,089	947	731	660
	製造業	4,075	4,054	4,291	3,940
第3次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	58	31	34	29
	情報通信業		44	64	52
	運輸業	689	629	377	651
	卸売・小売業	1,901	1,672	1,428	1,346
	金融・保険業	185	164	165	154
	不動産業	15	28	59	57
	学術研究、専門技術サービス業				164
	飲食業・宿泊業		276	362	372
	生活関連サービス業・娯楽業				378
	医療・福祉		839	980	1,106
	教育・学習支援		388	361	366
	複合サービス業		213	119	140
	サービス業	2,681	1,326	1,175	606
	公務		311	307	256
分類不能の産業	その他	353	60	498	394

資料：国勢調査

表 4 - 2 - 3 日野町の産業別事業所数の変化

	平成3年	平成8年	平成13年	平成18年	平成21年	平成26年
総数	1,087	1,131	1,073	1,035	1,042	1,008
農林水産業	4	4	4	8	10	11
鉱業・採石業・砂利採取業	1	1	1	-	1	1
建設業	207	216	180	178	181	172
製造業	145	154	156	138	144	147
電気・ガス・熱供給・水道業	1	1	1	1	2	2
情報通信業	29	35	37	1	2	1
運輸業・郵便業				30	32	30
卸売・小売業	381	368	334	260	233	209
金融・保険業	5	8	8	9	11	8
不動産業・物品賃貸業	9	12	14	16	24	20
学術研究、専門技術サービス業					29	26
飲食サービス業・宿泊業				49	66	65
生活関連サービス業・娯楽業					73	72
教育・学習支援				57	53	50
医療・福祉				47	42	57
複合サービス業				19	13	13
サービス業(他に分類されないもの)	291	316	324	209	115	112
公務	14	16	14	13	11	12

資料：経済センサス基礎調査（H21、H26）、事業所・企業統計調査（H3～H18）

② 工業

日野町における工業の推移を表４－２－４に、製造品出荷額を表４－２－５に示す。これによると平成27年度の事業所数は87件、従業者数は4,574人、製造品出荷額は約2,680億円である。

対象事業実施区域周辺の工場等分布状況は、図４－２－１に示すとおりである。対象事業実施区域の西には国道307号を挟んで日野第一工業団地があり、平成29年10月現在で8社の工場が操業している。また、対象事業実施区域の北約2.5kmには日野第二工業団地があり、平成29年10月現在で32社の工場が操業している。その他、日野町内では11社の工場が操業している。

表４－２－４ 日野町の工業の推移

	平成23年		平成24年		平成25年		平成26年		平成27年		平成28年	
	事業所	従業者	事業所	従業者	事業所	従業者	事業所	従業者	事業所	従業者	事業所	従業者
総数	85	4,027	80	4,360	86	5,235	86	5,178	87	4,574	85	5,086
食料品	4	84	4	108	4	110	4	117	5	114	5	127
飲料・飼料	2	11	2	12	2	12	2	12	2	10	1	6
繊維工業	3	98	2	93	2	98	2	102	2	125	2	117
木材・木製品	3	86	4	92	4	92	3	87	1	78	3	100
家具・装備品	5	75	4	67	4	69	4	66	4	47	4	60
パルプ・紙	6	358	6	365	5	318	5	327	5	333	5	366
印刷	－	－	1	260	1	354	1	261	1	273	1	271
化学工業	13	608	11	541	12	583	12	597	12	696	12	649
石油・石炭	1	9	1	10	2	14	2	17	1	15	2	17
プラスチック	7	155	7	155	8	190	8	157	8	178	9	184
ゴム製品	－	－	1	5	1	6	1	5	－	－	1	5
皮革	3	20	2	16	2	15	2	16	2	15	2	17
窯業・土石	2	17	1	12	1	17	1	14	2	31	1	27
鉄鋼業	1	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
非鉄金属	1	158	2	226	3	201	1	115	2	222	1	120
金属製品	13	360	12	379	16	429	19	470	17	511	19	568
汎用機械	5	1,579	5	1,583	4	2,384	4	2,383	4	1,441	4	1,981
生産用機械	5	131	7	193	7	190	7	184	8	219	5	180
業務用機械	1	7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
電気機械	6	86	4	85	4	99	4	93	4	83	5	117
情報通信機械	1	109	1	99	1	97	1	94	1	99	1	102
電子・デバイス	1	40	2	46	2	45	2	49	2	52	1	60
輸送機械	2	31	1	13	1	12	1	12	3	26	1	12
その他工業	－	－	－	－	－	－	－	－	1	6	－	－

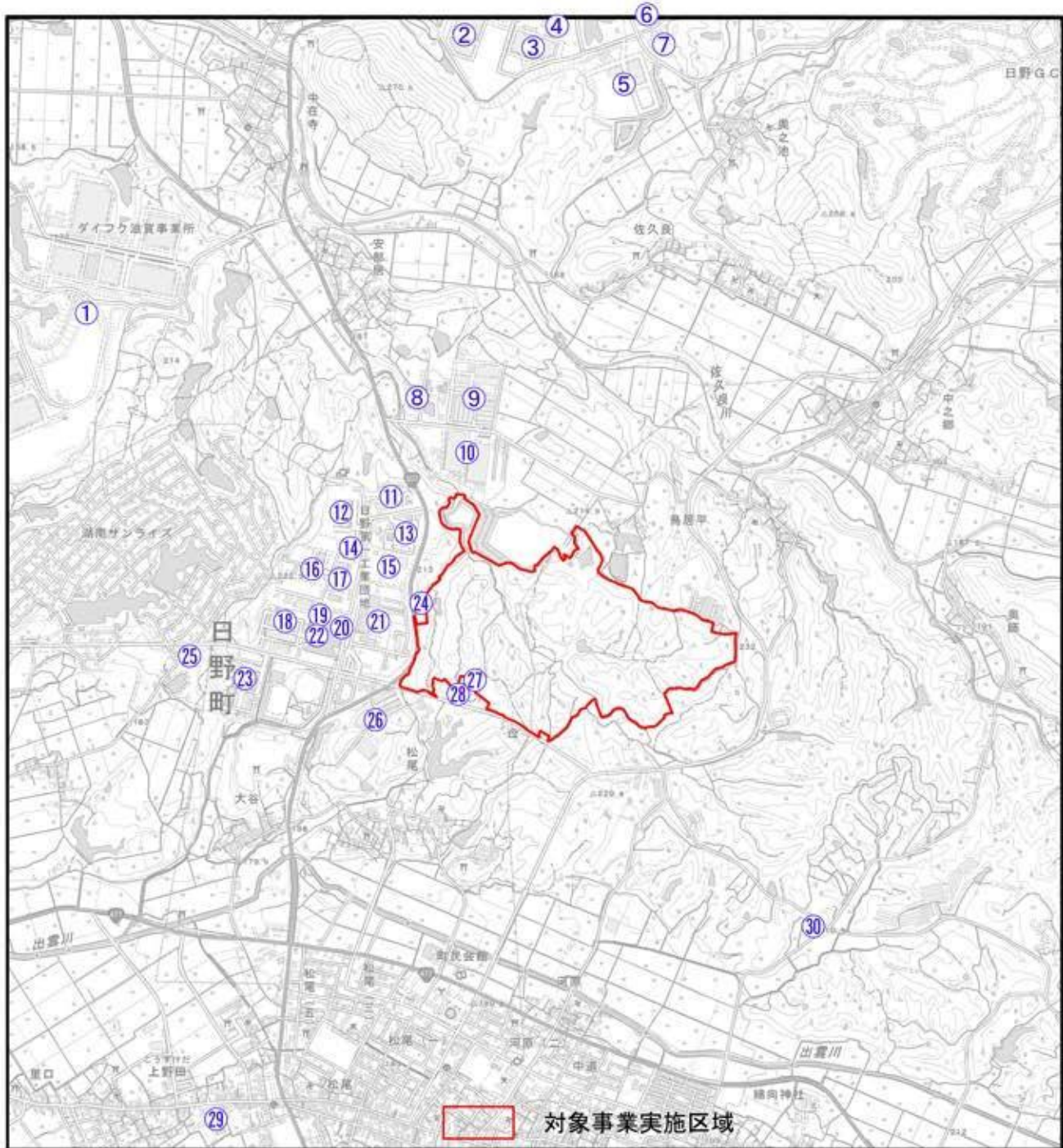
資料：工業統計調査、平成27年データのみ経済センサス活動調査

表 4－2－5 日野町の製造品出荷額の推移

単位：万円

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
総数	19,446,669	22,477,370	21,620,060	23,186,452	26,825,777	29,359,114
食料品	3,001,893	1,411,316	1,407,495	1,429,673	1,439,888	x
飲料・飼料	x	x	x	x	x	x
繊維工業	910,625	x	x	x	x	x
木材・木製品	138,097	155,289	153,071	x	x	160,423
家具・装備品	x	x	x	x	x	68,375
パルプ・紙	1,036,719	992,643	866,240	972,210	651,128	926,456
印刷	－	x	x	x	x	x
化学工業	2,526,144	2,129,440	2,480,171	2,470,973	4,848,531	2,460,244
石油・石炭	x	x	x	x	x	x
プラスチック	594,181	588,501	593,162	886,525	831,623	760,909
ゴム製品	－	x	x	x	－	x
皮革	x	x	x	x	x	x
窯業・土石	x	x	x	x	x	x
鉄鋼業	x	－	－	－	－	－
非鉄金属	x	x	x	x	x	x
金属製品	1,222,241	1,391,913	1,397,410	1,590,958	1,793,376	1,807,162
汎用機械	8,548,957	12,762,472	x	x	13,347,987	18,869,969
生産用機械	248,555	460,264	464,054	493,033	696,597	494,102
業務用機械	x	－	－	x	－	－
電気機械	x	83,260	91,239	121,592	x	132,264
情報通信機械	x	x	x	x	x	x
電子・デバイス	x	x	x	x	x	x
輸送機械	x	x	x	x	38,960	x
その他工業	－	－	－	－	－	－

資料：工業統計調査、平成27年データのみ経済センサス活動調査



③ 商業

日野町における商店数等を表４－２－６に示す。これによると、対象事業実施区域のある日野町の平成26年度における商店数は163軒（従業者数794人、年間販売額約154億円）となっている。商店数、年間販売額ともにその他小売業の占める割合が高い。

また対象事業実施区域周辺では、国道307号の松尾交差点付近に大規模小売店舗が立地している。

表４－２－６ 日野町の商業の状況

	商店数	従業員数	商品販売額 (万円)	その他の 収入の額 (万円)	売場面積 (㎡)	一店当たり 従業員数
平成6年	320	1,177	2,173,877		15,310	3.7
平成9年	315	1,330	2,124,039		17,727	4.4
平成11年		1,465	2,222,830		20,462	4.7
平成14年	279	1,475	2,071,354	76,126	16,226	5.3
平成16年	260	1,202	1,971,600	40,382	15,688	4.6
平成19年	238	1,252	1,913,446	68,932	17,150	5.3
平成24年	178	927	1,795,182	73,548	13,923	5.2
平成26年	163	794	1,537,456	40,854	13,597	4.9
卸売業計	29	115	459,320	6,881	－	4.0
各種商品卸売業	－	－	－	－	－	－
繊維・衣服等卸売業	－	－	－	－	－	－
飲食料品卸売業	4	18	28,747	27	－	4.5
建築材料・鉱物金属材料卸売業	7	28	105,406	x	－	4.0
機械器具卸売業	8	31	126,551	x	－	3.9
その他の卸売業	10	38	198,616	6,032	－	3.8
小売業計	134	679	1,078,136	33,973	13,597	5.1
各種商品小売業	－	－	－	－	－	－
繊維・衣服・身の回り品小売業	14	45	36,900	12	2,045	3.2
飲食料品小売業	43	360	370,772	11,956	5,825	8.4
機械器具小売業	24	80	147,203	20,078	568	3.3
その他の小売業	50	190	522,847	1,927	5,159	3.8
無店舗小売業	3	4	414	－	－	1.3

資料：商業統計調査（H6～H26）

④ 農林水産業

日野町の農家数および経営耕地面積を表４－２－７に示す。これによると、平成27年度における第二種兼業農家の占める割合は約63%であり、耕地面積はそのほとんどが田である。

地域の特産物としては、筍の瓶詰や牛乳・牛肉等の畜産物が挙げられる。

表 4－2－7 日野町の農家数と経営耕地面積の推移

	農家総数	専業農家		兼業農家				自給的農家		経営耕地面積(a)		
		戸数	構成比	第1種兼業農家		第2種兼業農家		戸数	構成比	田	畑	樹園地
				戸数	構成比	戸数	構成比					
昭和45年	3,107	228	7.3	1,294	41.6	1,585	51.0	－	－			
昭和50年	2,869	115	4.0	466	16.2	2,288	79.7	－	－			
昭和55年	2,672	134	5.0	254	9.5	2,284	85.5	－	－			
昭和60年	2,406	110	4.6	133	5.5	2,163	89.9	－	－			
平成2年	2,098	98	4.7	45	2.1	1,955	93.2	－	－	184,664	10,018	2,375
平成7年	1,851	72	3.9	92	5.0	1,687	91.1	－	－	180,189	9,260	2,073
平成12年	1,671	94	5.6	59	3.5	1,321	79.1	197	11.8	173,369	7,556	2,061
平成17年	1,513	141	9.3	36	2.4	1,118	73.9	218	14.4	168,967	6,103	1,371
平成22年	1,309	130	9.9	37	2.8	911	69.6	231	17.6	166,588	5,134	1,107
平成27年	1,112	144	12.9	66	5.9	700	62.9	202	18.2	160,376	5,087	1,127

資料：世界農林業センサス

(3) 土地利用の状況

日野町の種目別土地利用面積を表 4－2－8 に、土地利用の状況を図 4－2－2 に示す。

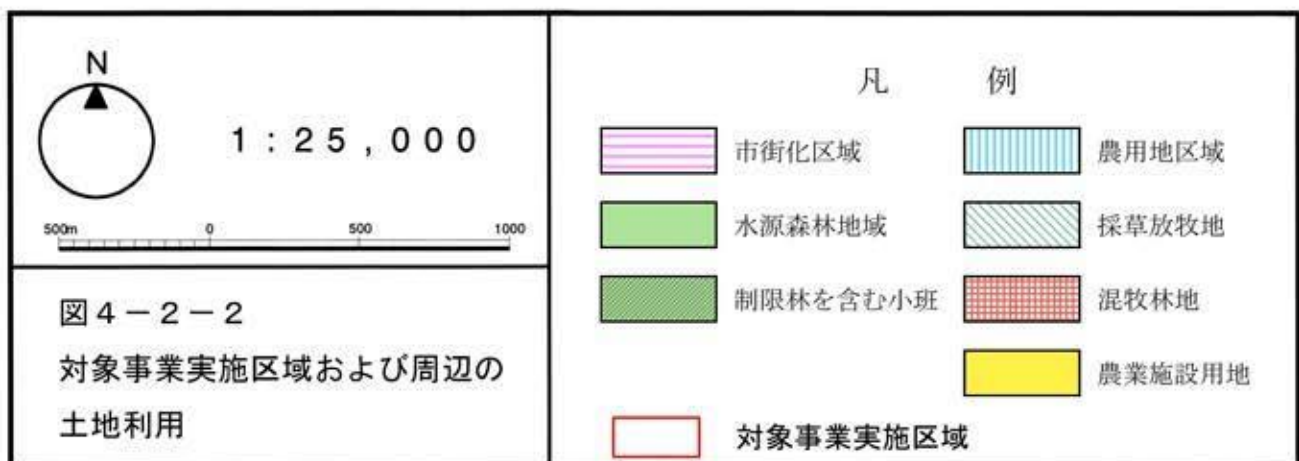
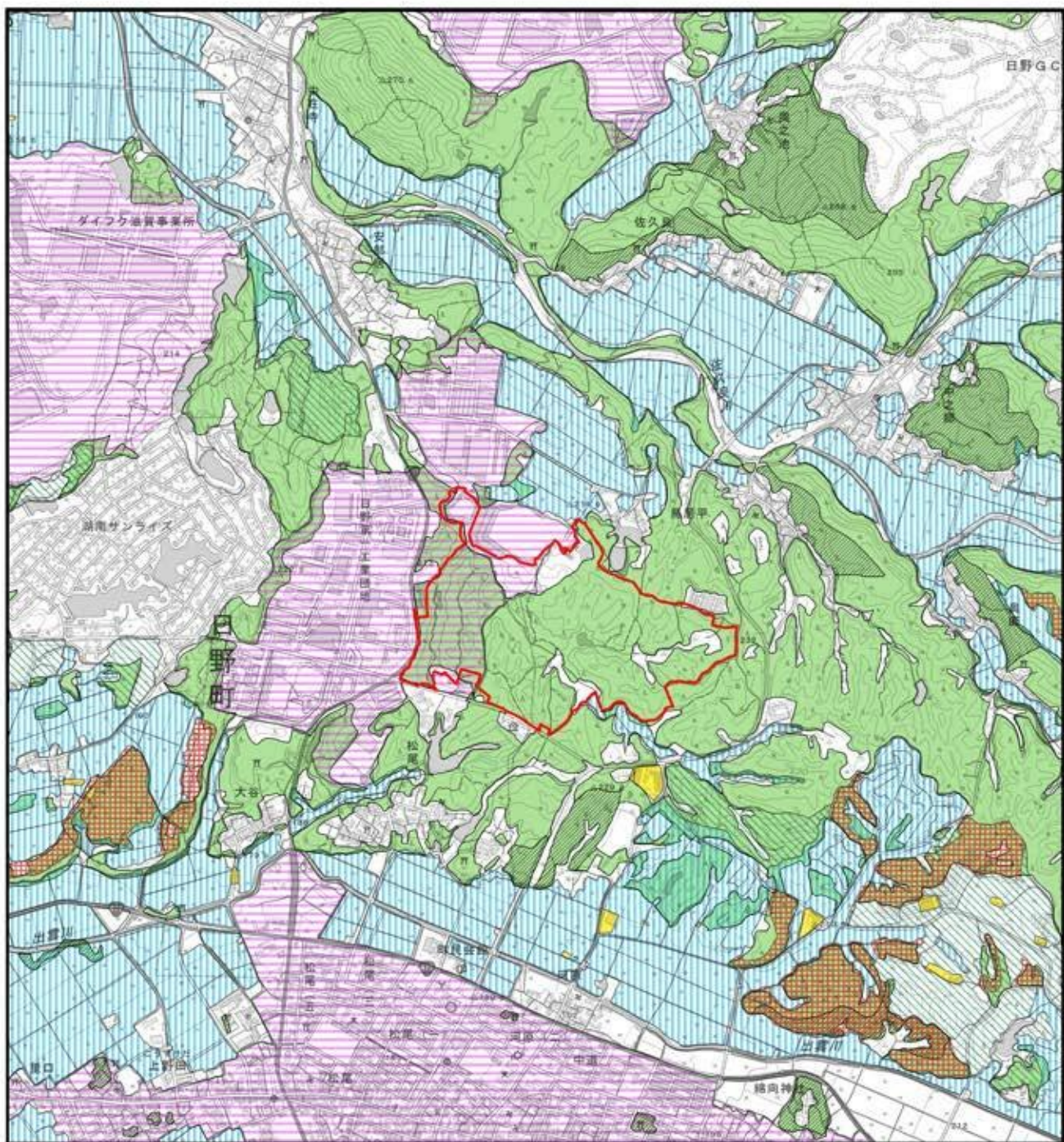
これによると、日野町では水田、山林、その他の占める割合が高くなっている。また対象事業実施区域およびその周辺の土地利用も、主として山林、水田、工業用地である。

表 4－2－8 日野町の種目別土地利用面積の推移

単位：ha

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
総数	11,763	11,763	11,763	11,760	11,760	11,760	11,759
田	2,258	2,253	2,248	2,246	2,240	2,237	2,232
畑	310	310	309	308	308	307	305
宅地	672	675	676	684	685	688	688
池沼	1	1	1	1	1	1	1
山林	3,391	3,387	3,372	3,377	3,382	3,380	3,376
原野	133	133	134	134	131	131	129
雑種地	689	687	691	686	685	688	696
その他	4,309	4,317	4,332	4,324	4,328	4,328	4,332

資料：税務課（固定資産概要調書）



出典：滋賀県日野町都市計画区域図(10,000分の1)、日野町農林振興課資料

滋賀県琵琶湖環境部森林政策課ホームページ 森林計画図(10,000分の1)の縦覧について、水源森林地域概要図 日野町

(4) 河川および湖沼の利用の状況ならびに地下水の利用の状況

① 上水道

日野町の上水道は、平子・熊野簡易水道対象事業実施区域および甲賀市水道対象事業実施区域を除いて、滋賀県企業庁水道用水供給事業（湖南水道用水供給事業）によりまかなわれており、琵琶湖を水源とする馬渕浄水場から供給されている。佐久良川を水源とする簡易水道はない。上水の給水量は平成28年度実績で2,591,310m³/年である。

② 工業用水

平成26年度工業統計調査結果によると、日野町における従業員30人以上の事業所の工業用水量は1,445m³/日であり、水源は上水道と井戸水が同程度の量となっている。

③ 農業用水

対象事業実施区域周辺における農業用水の取水位置は図4-2-3に示すとおりである。

対象事業実施区域周辺の農業用水はほとんどが県営かんがい排水事業日野川地区によりまかなわれているが、対象事業実施区域北西の国道307号沿いの一部の水田では野川から取水が行われている。

④ その他

「漁業権漁業漁場一覧」（滋賀県水産課）によると、対象事業実施区域の排水先の佐久良川には漁業権は設定されていないが、佐久良川の合流する日野川河口付近の琵琶湖においては、漁業法に規定する第二種共同漁業権に基づく小型定置網漁業（近江八幡漁業協同組合）が営まれているほか、アユ、シジミ類、フナ類、ウナギ等を対象とした各種の漁業が操業されている。

(5) 交通の状況

対象事業実施区域周辺地域の道路網等は、図4-2-4に示すとおりである。日野町における主要な道路として国道307号が対象事業実施区域の西に接しており、国道421号を経て八日市インターチェンジで名神高速道路に接続している。国道307号には対象事業実施区域の南を通る町道 石原・鳥居平線または対象事業実施区域の北を通る町道 鳥居平・安部居線により接続している。国道307号の現況交通量は、平成27年度道路交通センサスによると昼間12時間で13,019台となっている。

日野町では住民の日常生活交通手段を確保するため、6路線の町営バス（コミュニティバス）の運行に対して補助が行われており、対象事業実施区域近傍では町道 石原・鳥居平線を湖南サンライズ線が通っている。最寄りの停車場は白寿荘停留所である。

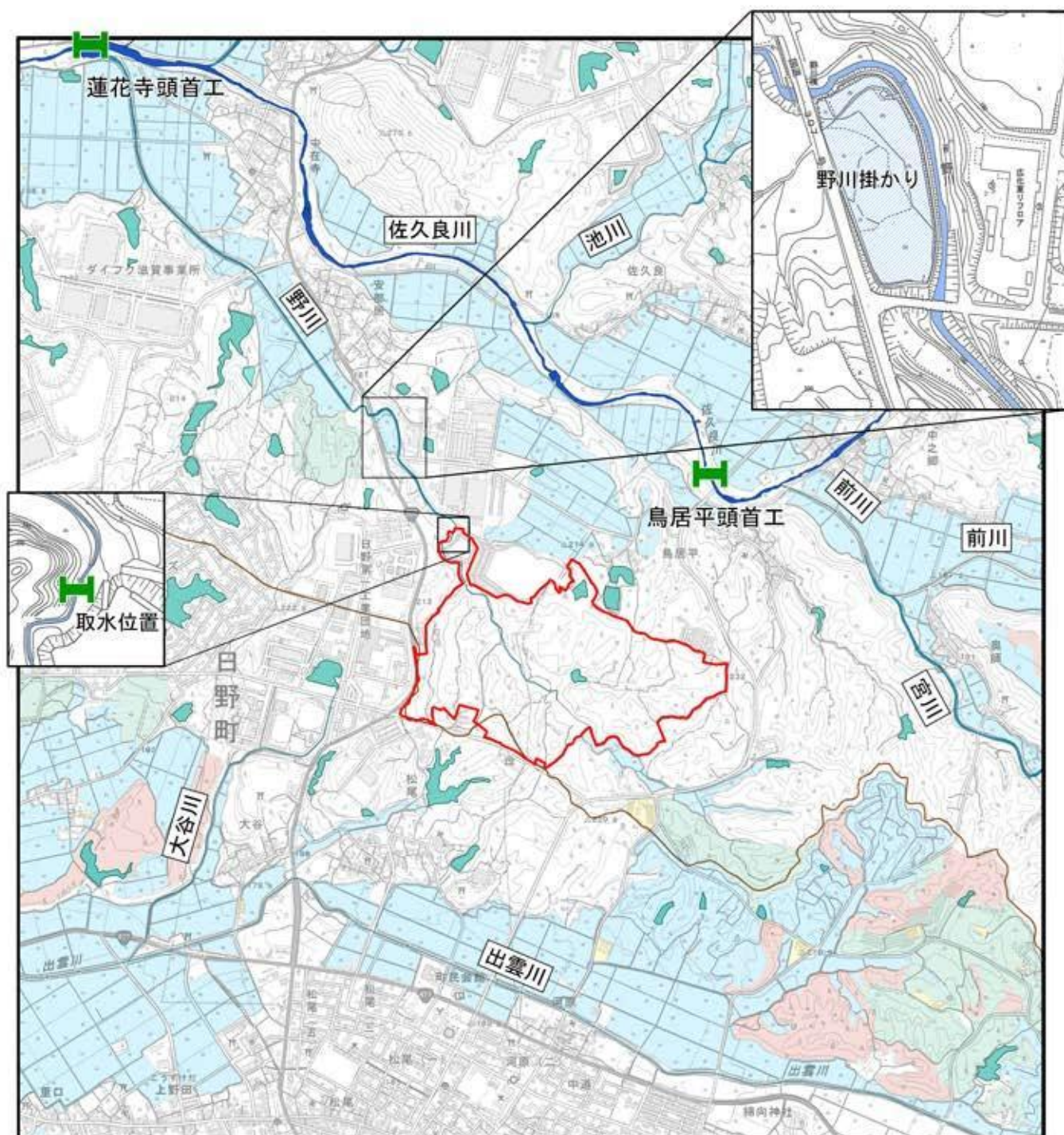
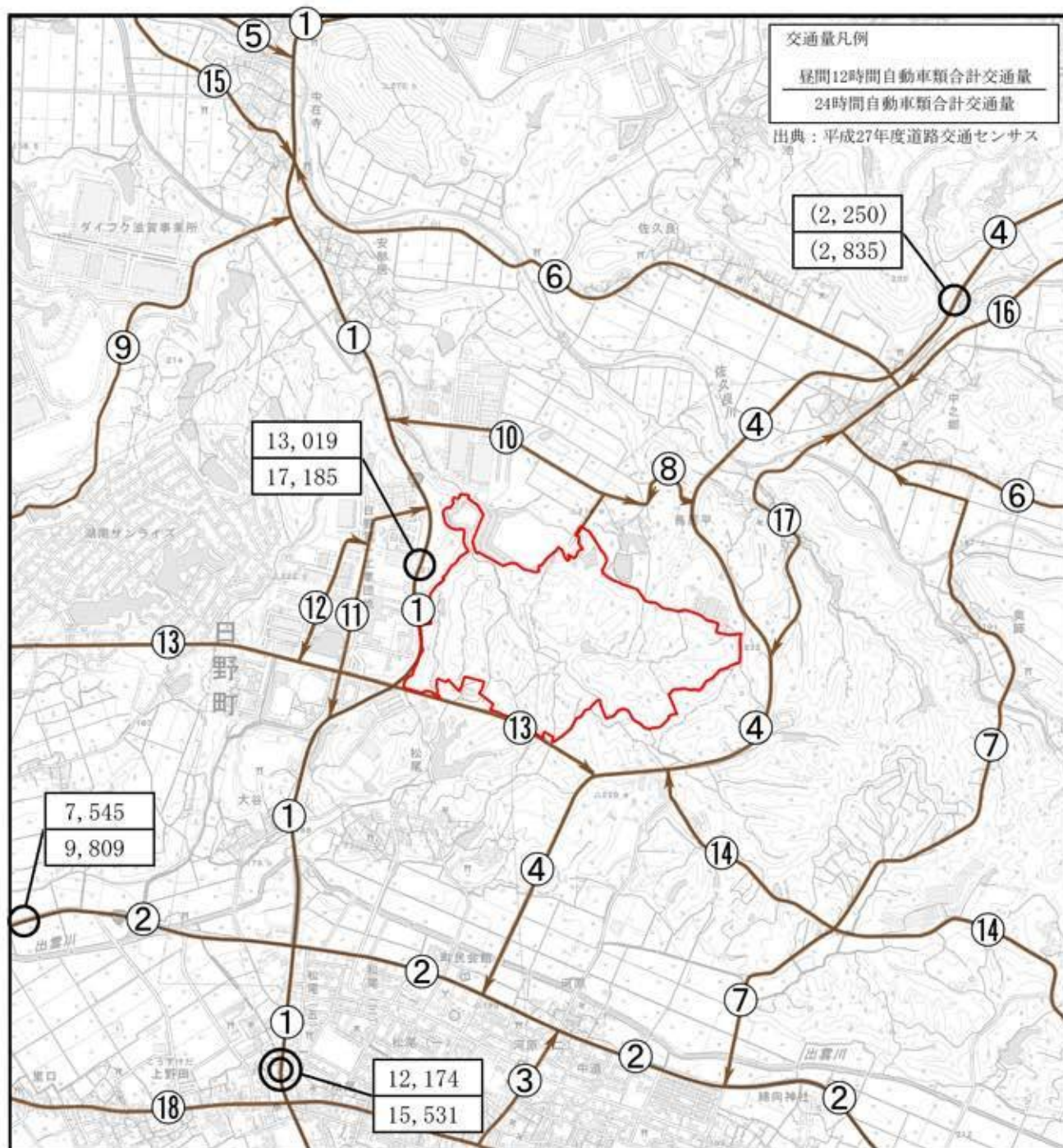


図 4 - 2 - 3

対象事業実施区域周辺の取水位置図



出典：滋賀県日野町道路台帳、道路交通センサス

(6) 学校、病院その他環境の保全についての配慮が特に必要な施設の配置の状況

対象事業実施区域周辺の公共施設の位置を図4-2-5に示す。

日野町の医療施設数は平成30年6月現在で、総合病院1箇所、一般医院および診療所8箇所、歯科医院7箇所である。総合病院としては対象事業実施区域から南南西に1.5km程度離れた上野田地区に日野記念病院があり、松尾地区にも4箇所の診療所があるが、対象事業実施区域近傍には医療施設はない。

また、教育施設としてはこども園1、幼稚園4、小学校5、中学校1および高等学校1（県立全日制）の12施設があり、保育園は4（内分園1）施設がある。対象事業実施区域周辺では桜谷小学校が佐久良地区にある。

福祉については、特別養護老人ホーム白寿荘が対象事業実施区域の南東側に隣接しているほか、救護施設ひのたに園、介護老人保健施設リスタあすなろ等の施設が対象事業実施区域の周辺に立地している。

(7) 住宅の配置の概況

対象事業実施区域周辺の人口分布は図4-2-6に示すとおりである。

これによると、対象事業実施区域周辺の主な集落は、鳥居平（対象事業実施区域の北東、45世帯）、山本（対象事業実施区域の北東、52世帯）、安部居（対象事業実施区域の北西、93世帯）、湖南サンライズ（対象事業実施区域の西、856世帯）、大谷（対象事業実施区域の南西、31世帯）、松尾（対象事業実施区域の南、705世帯）等が近傍に位置している。

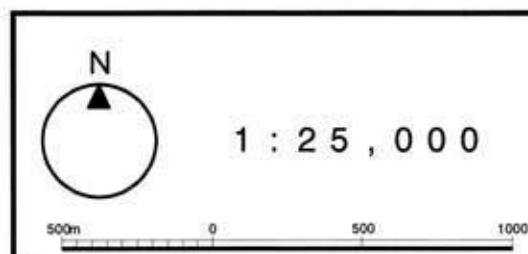
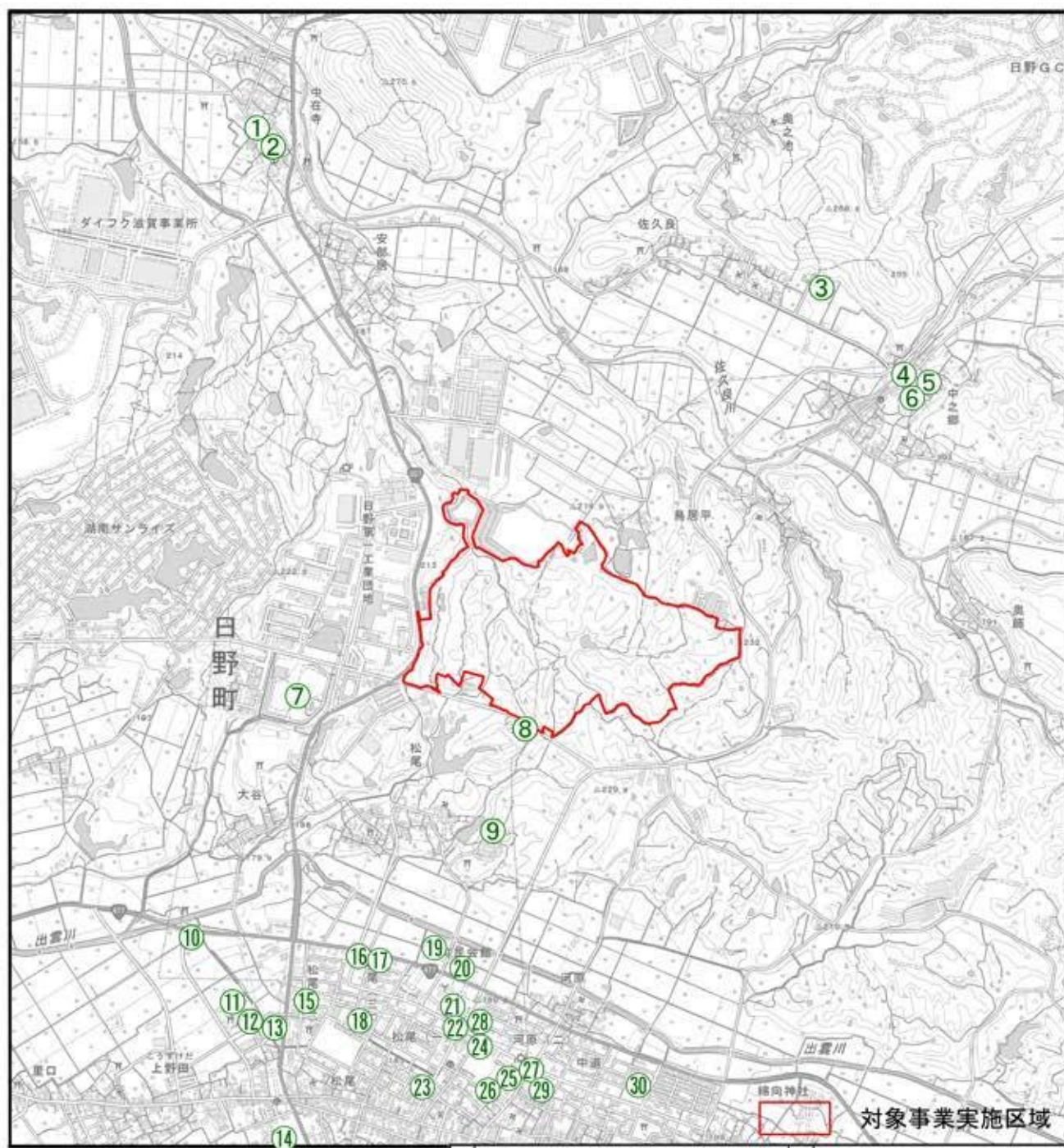
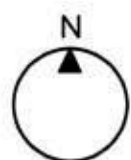
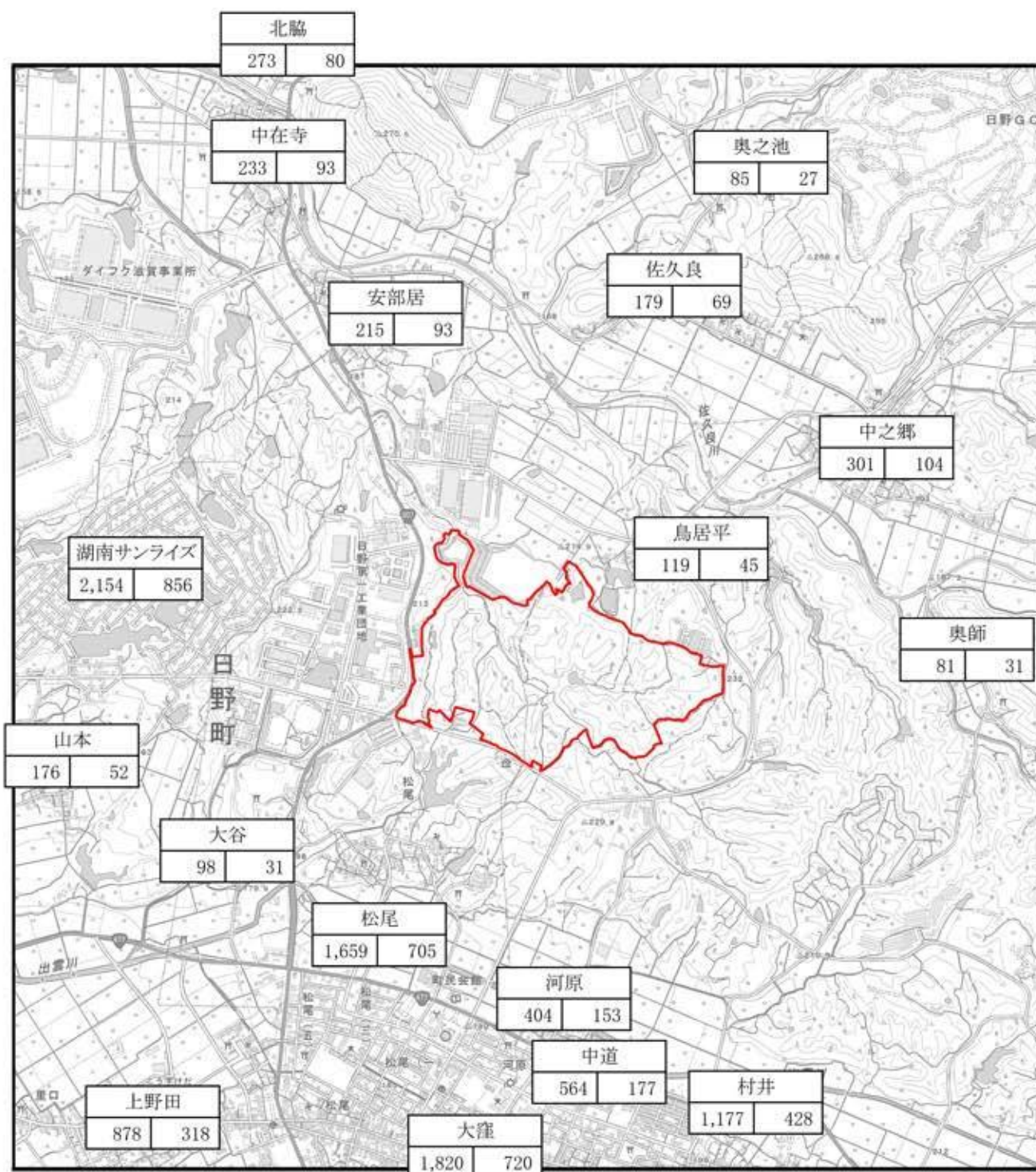


図 4-2-5

対象事業実施区域周辺の学校、
病院等公共施設の分布状況

施設名	施設名
1 林医院	19 日野町民会館わむきホール虹
2 東近江警察署 桜谷警察官駐在所	20 日野町立図書館
3 日野町立桜谷小学校	日野町役場
4 桜谷学童保育所「さくらんぼ」	日野町立中央公民館
5 日野町消防団第2分団詰所	日野町保健センター
6 日野町立児童交流施設つどいのひろば「ほけっと」	21 日野町少年センター
7 日野町立東桜谷公民館	日野町勤労福祉会館
8 大谷公園	日野町林業センター
9 特別養護老人ホーム白寿荘	日野町商工会館
10 救護施設ひのたに園	22 日野町早期療育施設「くれよん」
11 東近江行政組合日野消防署	23 あいさく小児科
12 介護老人保健施設リスタあすなろ	24 日野町立日野幼稚園
13 医療法人協会日野記念病院	25 日野町立日野小学校
14 よこた眼科クリニック	26 日野学童保育所「ヒノキオA・ヒノキオB」
15 慈賀県立日野高等学校	27 日野町消防団第1分団(日野)詰所
16 しらいけメディカルクリニック	28 園診療所
17 東近江警察署 日野警部交番	29 日野町立日野公民館
18 どひ整形外科クリニック	30 日野町立保育所あおぞら園
19 日野町立日野中学校	

出典：日野町「ポケット統計HINO2017」、Googleマップ



1 : 25 , 000

500m 0 500 1000

対象事業実施区域

行政区等名称

人口 世帯数

図 4 - 2 - 6

対象事業実施区域周辺の
住宅分布状況

出典：日野町ホームページ

(8) 下水道の状況

対象事業実施区域および周辺における下水道整備の状況を図 4-2-7 に示す。

これによると、現時点では対象事業実施区域の西側については下水道法による計画区域となっており、対象事業実施区域の西側の日野第一工業団地については下水道が整備されている。また公共下水道と並行して農村下水道が整備されており、対象事業実施区域周辺では佐久良・奥之池地区、東桜谷地区で供用が開始されている。

日野町上下水道課の地方公営企業決算額調査によると、平成28年度における日野町全体の下水道の整備状況は、公共下水道、農村下水道併せて行政区域内人口に対して普及率が98.2%であり、水洗化率は公共下水道処理区域内では79.6%、農村下水道処理区域内では98.3%となっている。

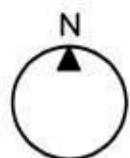
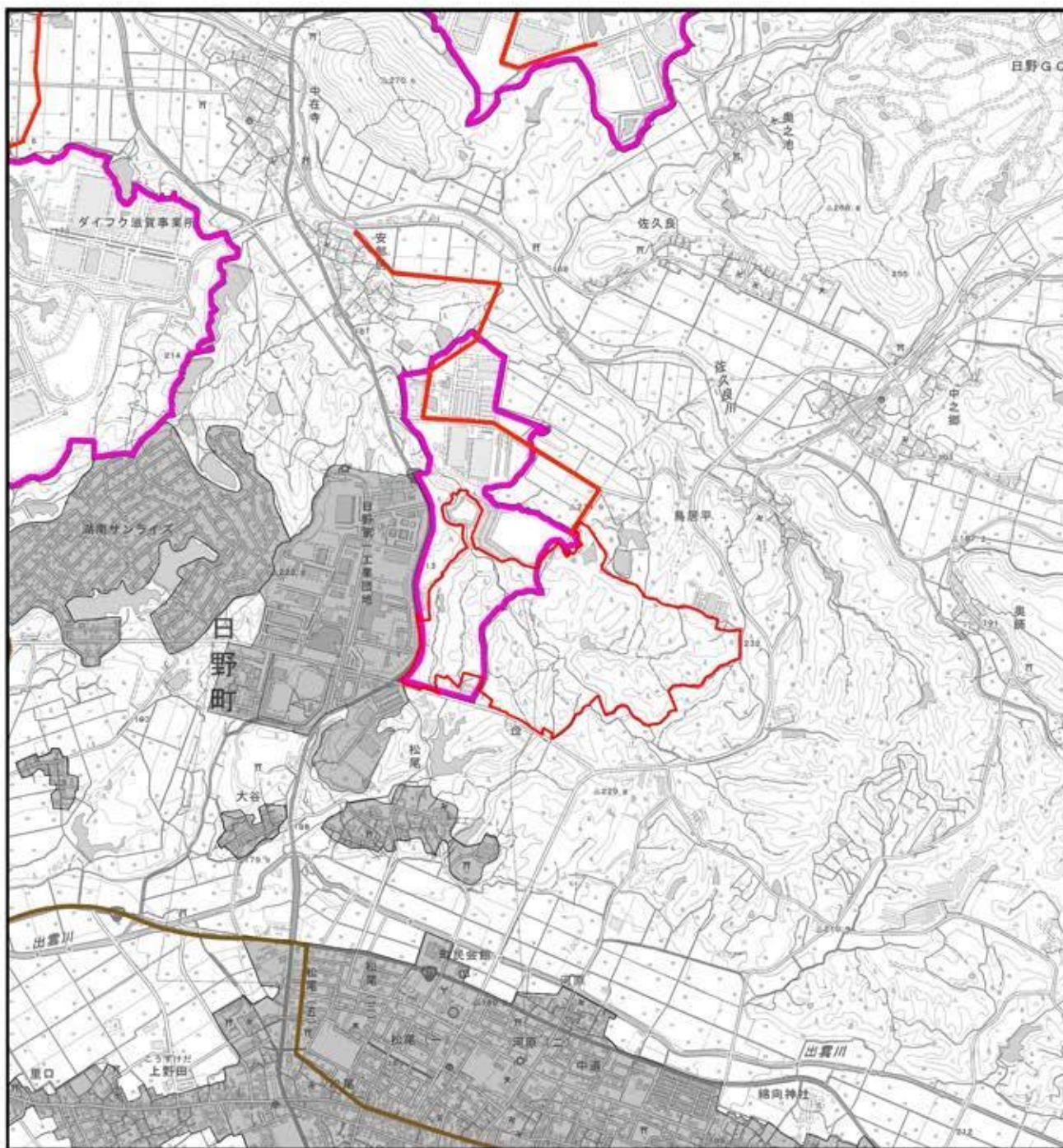
(9) し尿処理施設の状況

日野町で水洗化されていない住居のし尿および浄化槽汚泥の処理は、八日市布引ライフ組合衛生センター（所在地：東近江市柴原南町1590番地）で行われており、同施設の処理能力は浄化槽汚泥を含めて255kℓ/日である。

(10) ごみ処理施設の状況

日野町におけるゴミ処理は、可燃ゴミについては対象事業実施区域の北約3kmに位置する中部清掃組合日野清掃センタークリーンわたむき（所在地：日野町北脇1番地1）で処理されており、同センターの処理能力は180t/日である。また、不燃ゴミは中部清掃組合能登川清掃センターで処理されており、同センターの処理能力は50t/日である。

対象事業実施区域周辺における産業廃棄物処理施設の分布は図 4-2-8 に示すとおりであり、対象事業実施区域西の日野第一工業団地に2事業所が、対象事業実施区域北の日野第二工業団地に2事業所が立地している。



1 : 25 , 000

500m 0 500 1000

図 4 - 2 - 7

対象事業実施区域および周辺の
公共下水道整備状況

凡 例



下水道法による計画区域



既設区域



対象事業実施区域

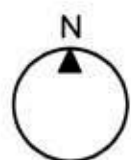
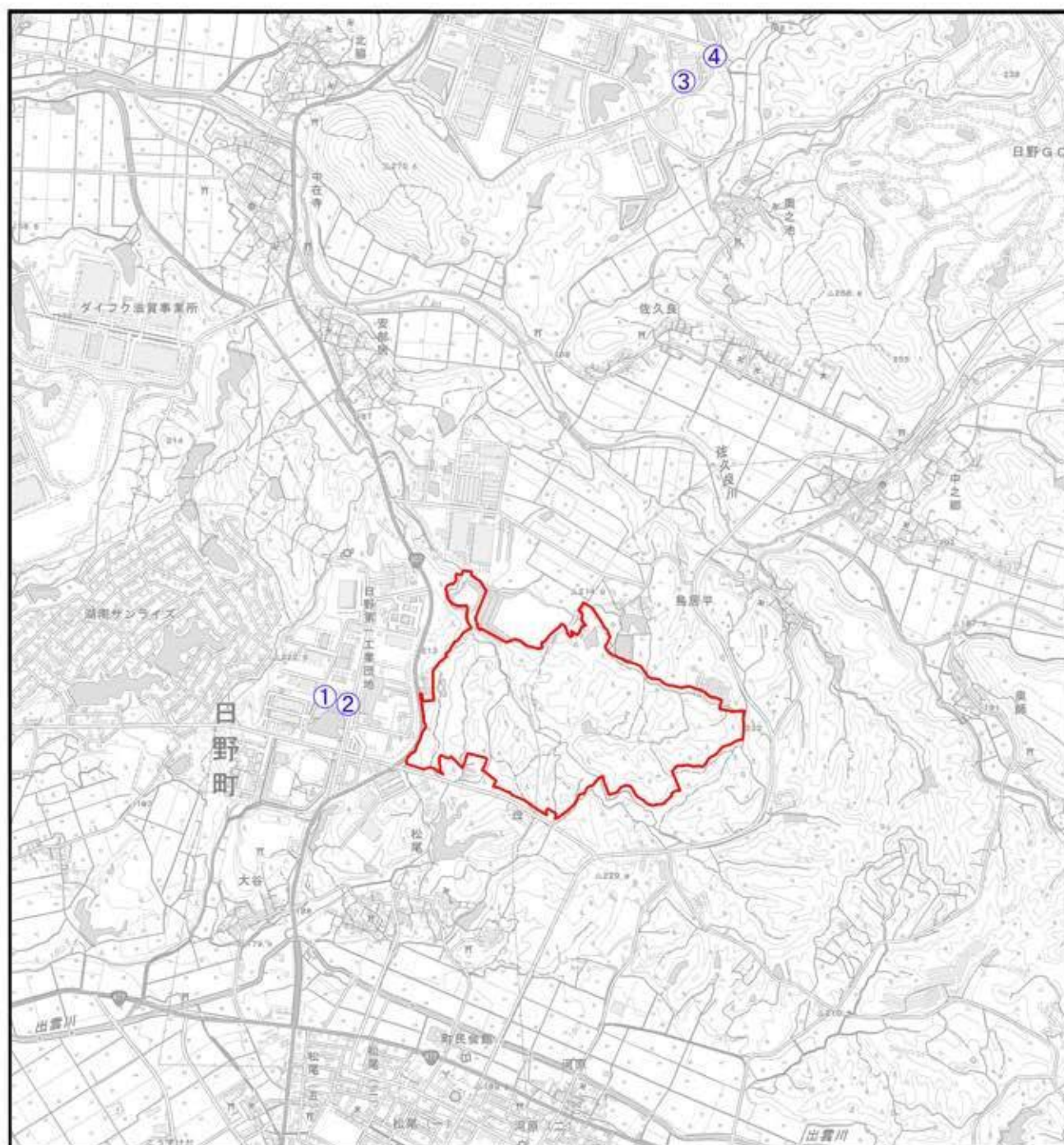


計画幹線



既設幹線

出典：滋賀県日野町ホームページ



1 : 25 , 000

500m 0 500 1000

図 4 - 2 - 8
対象事業実施区域周辺の
廃棄物処理施設



対象事業実施区域

事業所名	
1	(株)セイノーマテリアル滋賀工場
2	(株)ヒロセトータルエコロジー
3	(株)サニックス日野工場
4	(株)ベルディア

(11) 法令、条例等の規定により環境の保全を目的として指定された地域

対象事業実施区域およびその周辺における環境関係法令による指定の状況を

図 4－2－9 に示す。 基準等は以下のとおりである。

① 環境基準（公害対策基本法：滋賀県告示による地域指定）

A 水質汚濁

- ・ 人の健康の保護に関する環境基準：全公共用水域
- ・ 生活環境の保全に関する環境基準：日野川（A 類型）

B 大気汚染

- ・ 大気汚染に係る環境基準：「工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域または場所」を除く地域

C 騒音

- ・ 騒音に係る環境基準：対象事業実施区域周辺 B 類型、C 類型、除外地域

② 公害防止に係る規制地域

A 大気汚染（大気汚染防止法，滋賀県公害防止条例）

- ・ 硫黄酸化物 K 値規制基準（8 次規制） K 値：17.5

B 騒音（騒音規制法）

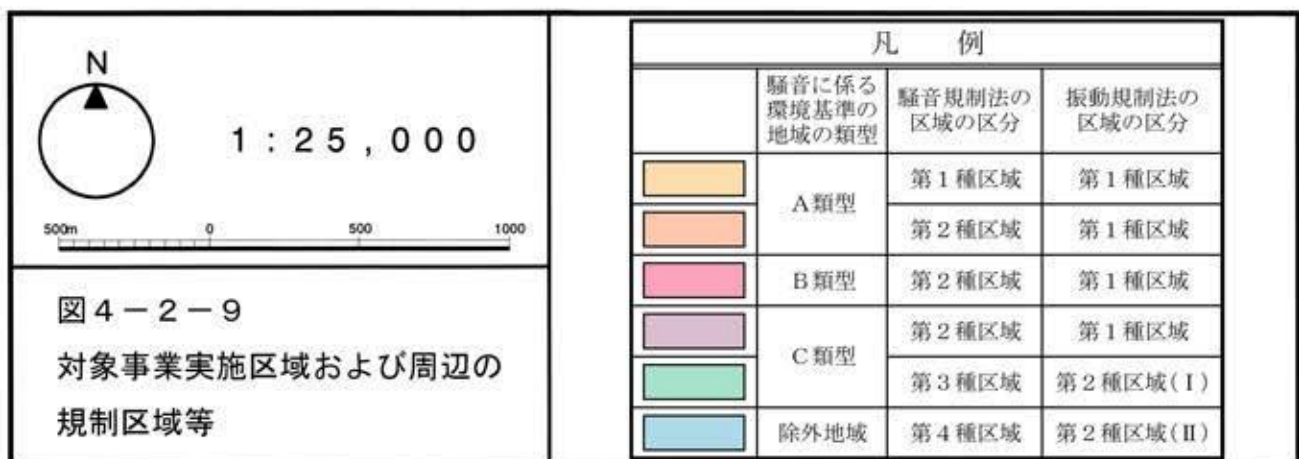
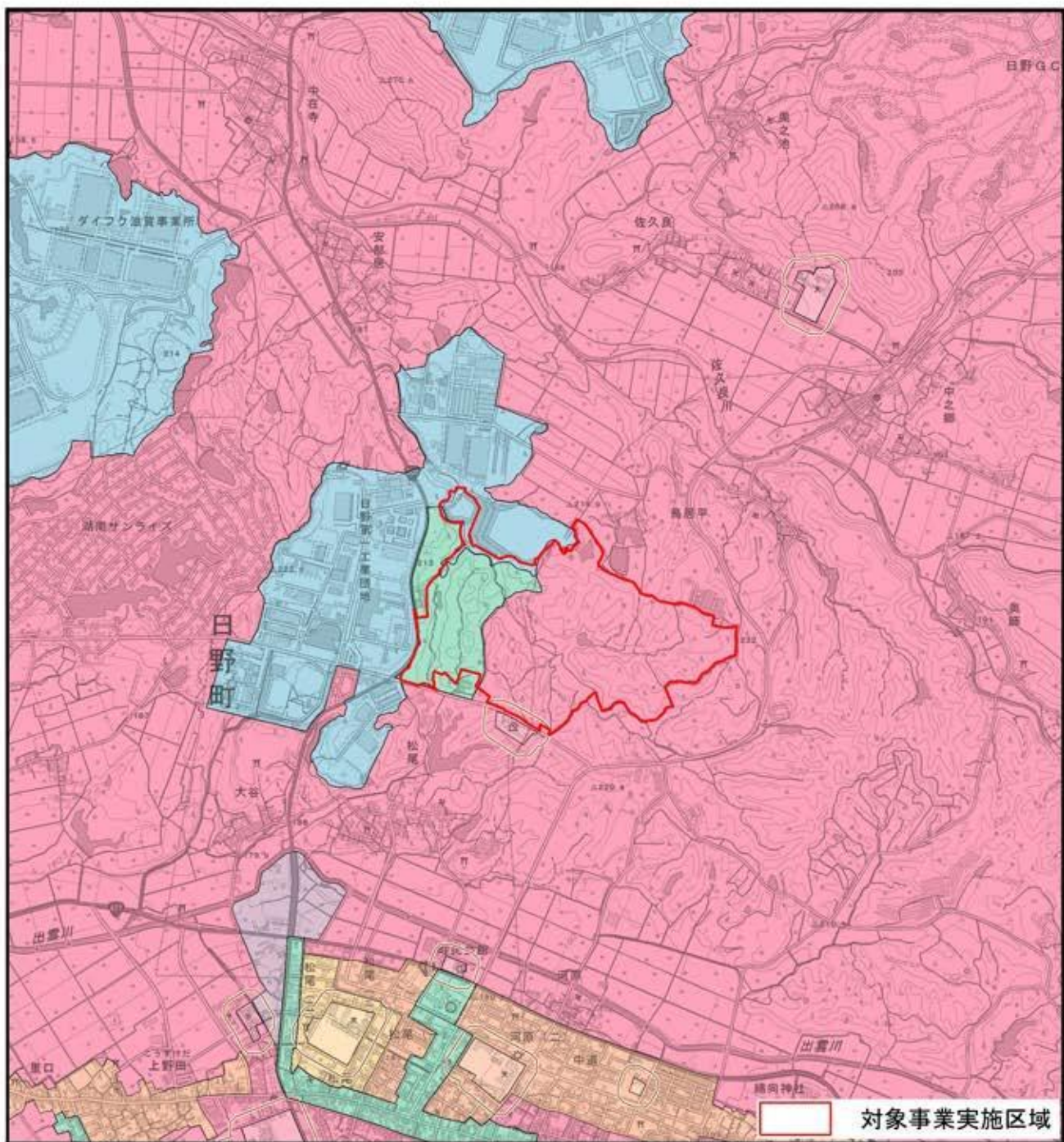
- ・ 特定工場等において発生する騒音の規制基準：第 2 種区域、第 3 種区域、第 4 種区域
- ・ 特定建設作業に伴って発生する騒音の規制基準：第 1 号区域、第 2 号区域
- ・ 道路交通騒音に係る要請限度：a 区域、b 区域

C 振動（振動規制法）

- ・ 特定工場等において発生する振動の規制基準：第 1 種区域、第 2 種区域（Ⅰ）、
第 2 種区域（Ⅱ）
- ・ 特定建設作業に関する振動の基準：第 1 号区域、第 2 号区域
- ・ 道路交通振動の要請限度：第 1 種区域、第 2 種区域

D 悪臭（悪臭規制法，滋賀県公害防止条例）

- ・ 日野町全域



出典：平成26年2月28日滋賀県告示第89号、平成11年4月1日滋賀県告示184号、185号、平成11年4月1日滋賀県告示第187号、188号

③ 公害関係の苦情の状況

日野町における公害関係の苦情の状況は表４－２－９に示すとおりである。

苦情の内容としては、水質汚濁については河川の水色の変化、騒音・振動については工場の機械音等、悪臭については工場や畜産関係、肥料のにおい等であり、典型７公害以外では、野焼きや不法投棄に関する苦情が多くを占めている。

表４－２－９ 日野町における公害関係の苦情の状況

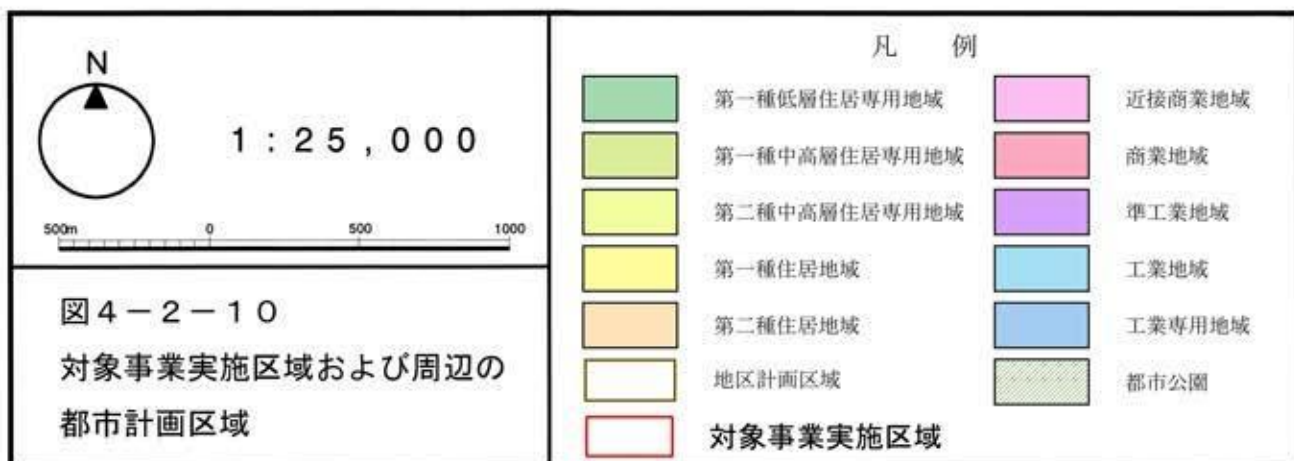
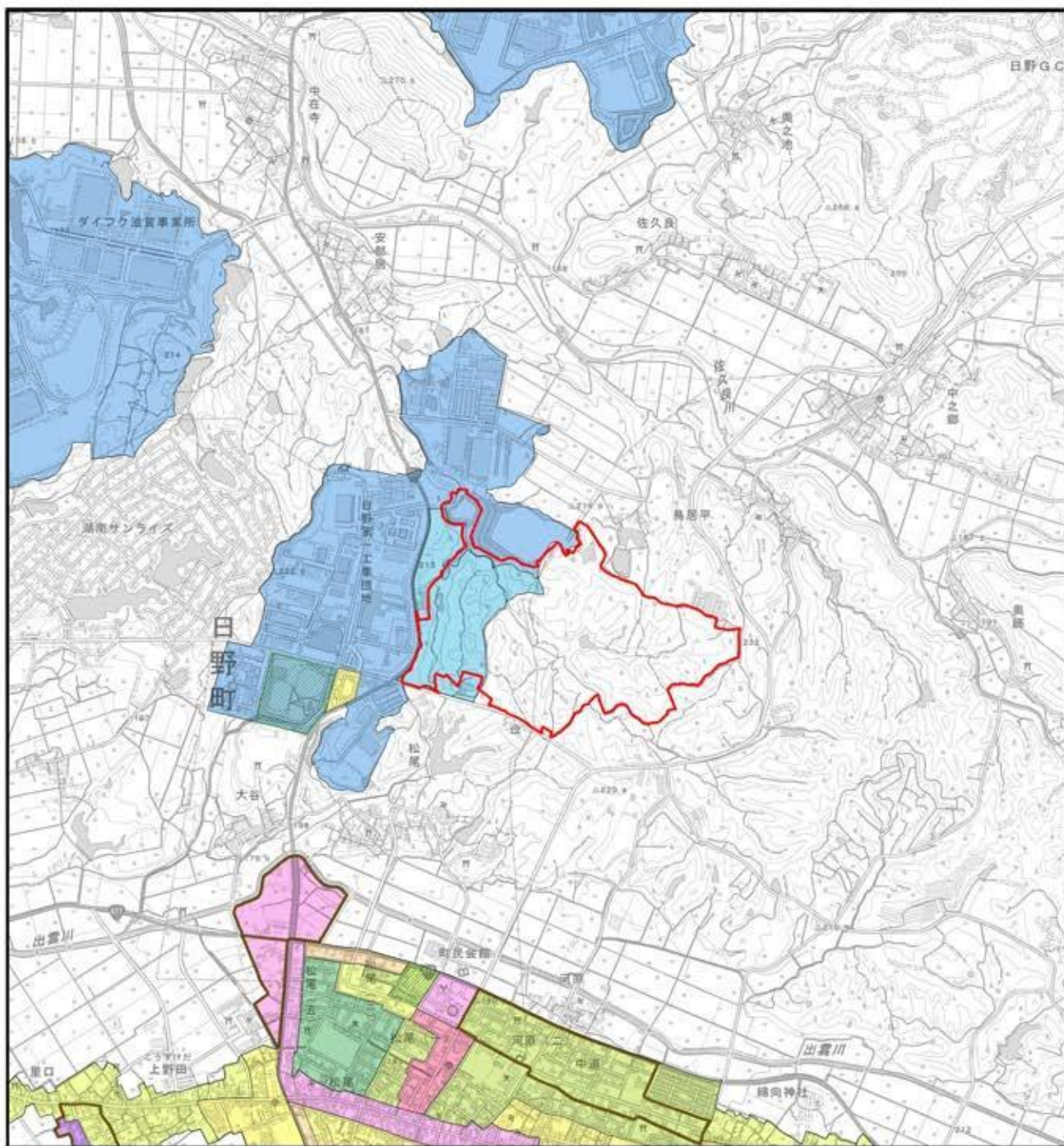
	苦情 処理 件数	新規直接 受理件数	典 型 ７ 公 害								典型 7 公害 以外の苦情
			計	大気 汚染	水質 汚濁	土壌 汚染	騒音	振動	地盤 沈下	悪臭	
平成22年度	7	7	2	0	0	0	1	0	0	1	5
平成23年度	17	17	4	0	0	0	0	0	0	4	13
平成24年度	37	37	6	0	2	0	0	0	0	4	31
平成25年度	8	8	5	0	0	0	0	0	0	5	3
平成26年度	3	3	3	0	1	0	2	0	0	0	0
平成27年度	4	4	1	0	0	0	1	0	0	0	3
平成28年度	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
平成29年度	12	12	3	0	0	0	0	0	0	3	9
平成30年度	22	22	16	3	4	2	4	0	1	2	6
令和元年度	16	16	12	0	2	0	0	0	0	10	4

(12) その他の対象および当該対象に係る規制の内容

① 都市計画区域

対象事業実施区域およびその周辺の都市計画区域を図４－２－１０に示す。

対象事業実施区域の西側は、都市計画区域の工業専用地域および工業地域に指定されており、対象事業実施区域の東側は市街化調整区域となっている。対象事業実施区域西側の日野第一工業団地は工業専用地域となっている。



出典：滋賀県日野町都市計画区域図(10,000分の1)

② 防災・保全等

対象事業実施区域およびその周辺における防災・保全等規制図は図４－２－１１に示すとおりである。これによると、対象事業実施区域はいずれにも該当しない。

- ・土石流危険溪流：奥之池地先、鳥居平地先、河原地先
- ・地滑り防止区域：安部居地先
- ・急傾斜地：鳥居平地先、奥師地先等

③ 自然公園等の指定状況

日野町内の自然公園区域は鎌掛地先に鈴鹿国定公園の特別保護地区、第１種特別地域、第２種特別地域、第３種特別地域があり、西明寺地先、熊野地先に鈴鹿国定公園の第１種特別地域、第２種特別地域、第３種特別地域がある。対象事業実施区域およびその周辺には自然公園等は存在しない。

④ 鳥獣保護区等の指定状況

対象事業実施区域およびその周辺における鳥獣保護区域等は図４－２－１２に示すとおりであり、日野町市街が特定猟具使用禁止区域(銃器)に指定されている。

⑤ 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律等の指定状況

対象事業実施区域およびその周辺には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく生息地等保護区はない。

⑥ ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例の指定状況

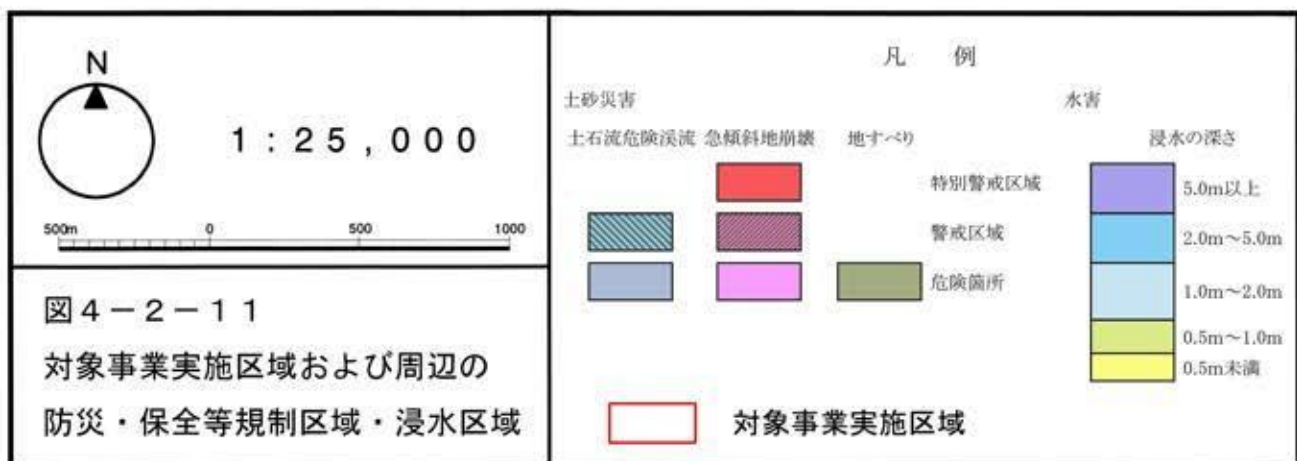
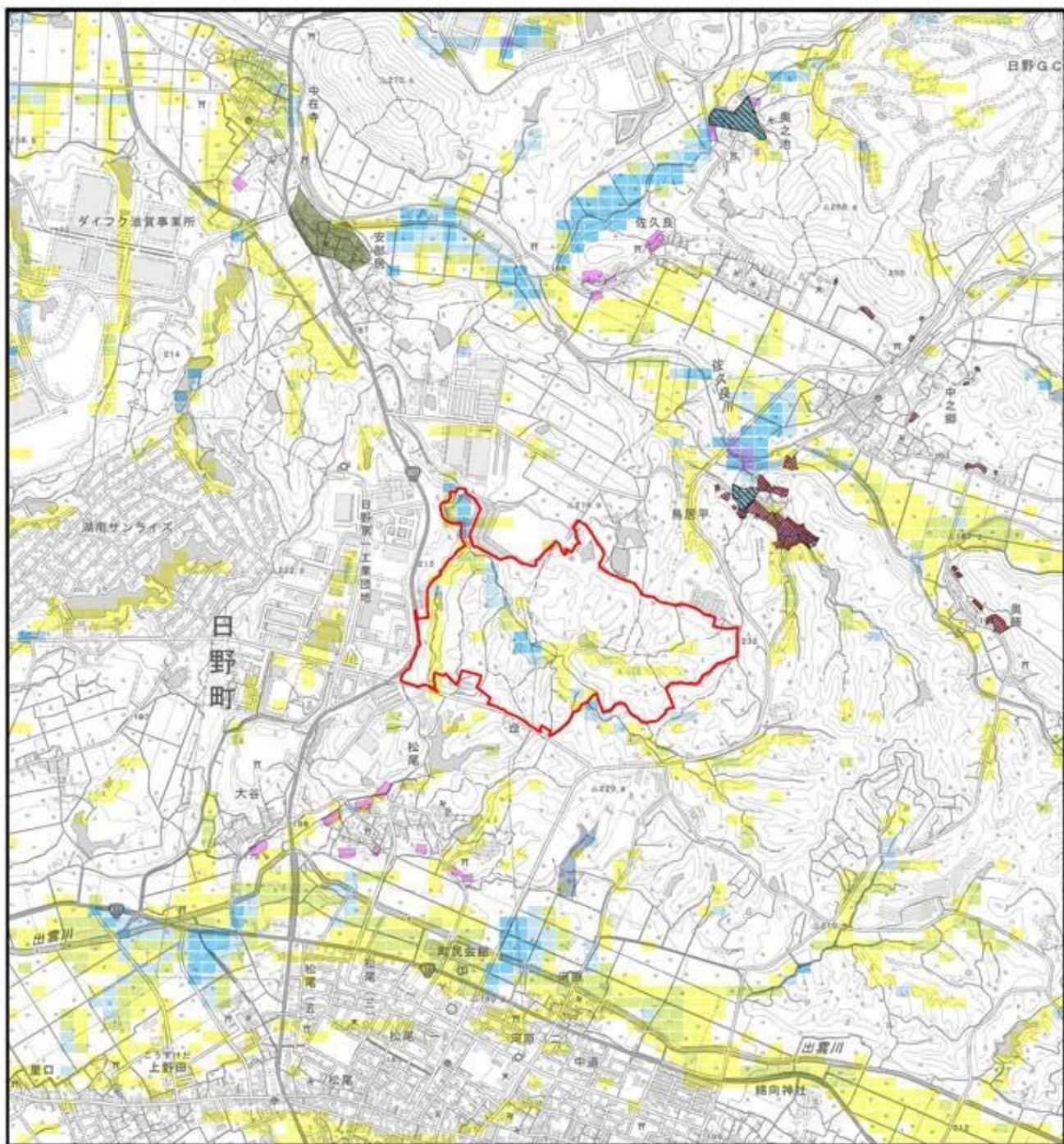
対象事業実施区域およびその周辺には「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」に基づく生息・生育地保護区の指定はない。

⑦ 保安林等の指定状況

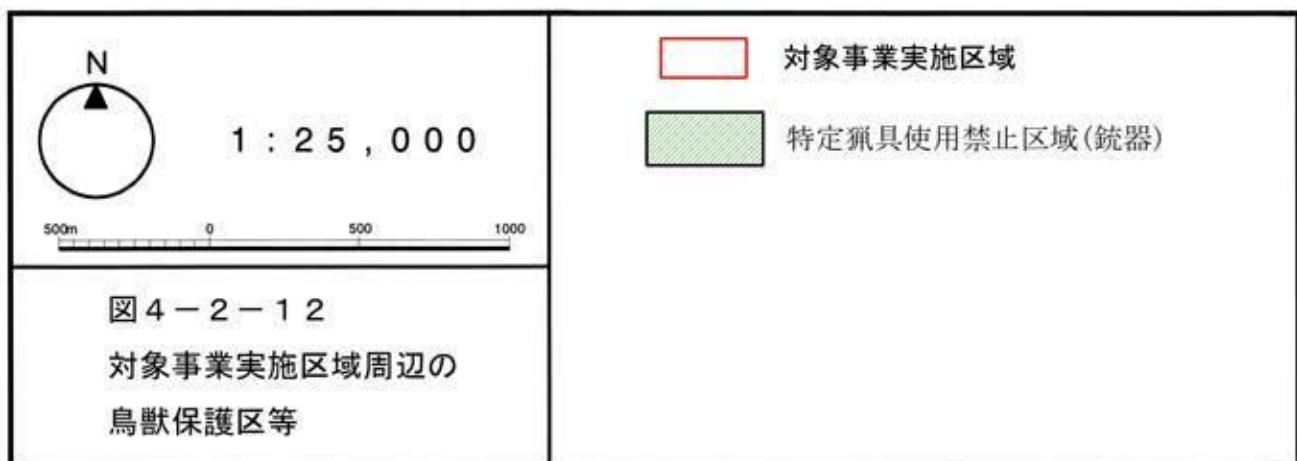
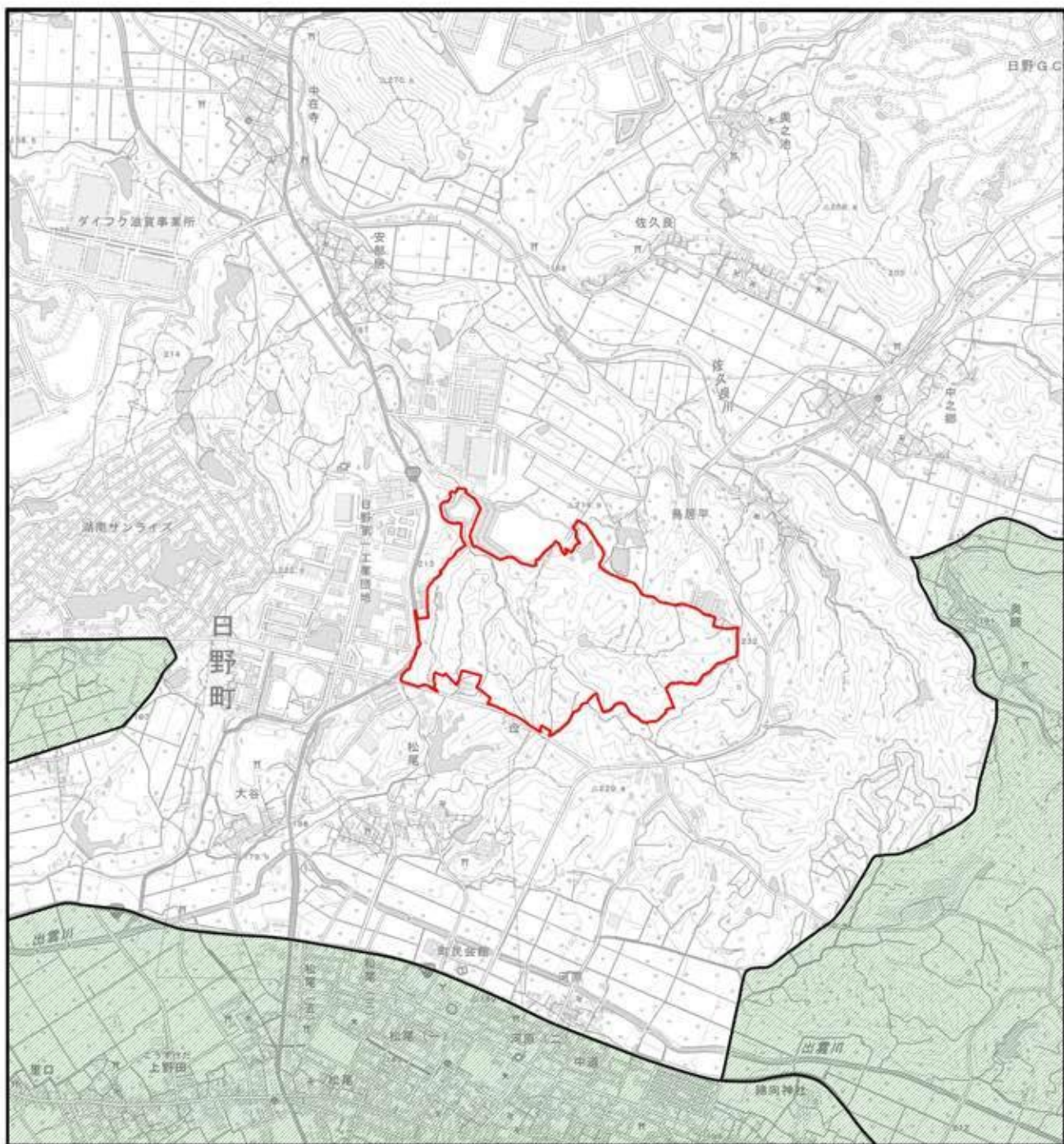
対象事業実施区域およびその周辺における、水源森林地域および制限林を含む小班の指定状況は図４－２－１３に示すとおりであり、対象事業実施区域は水源森林地域となっている。

⑧ 農業振興地域等の指定状況

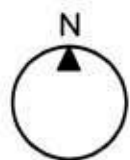
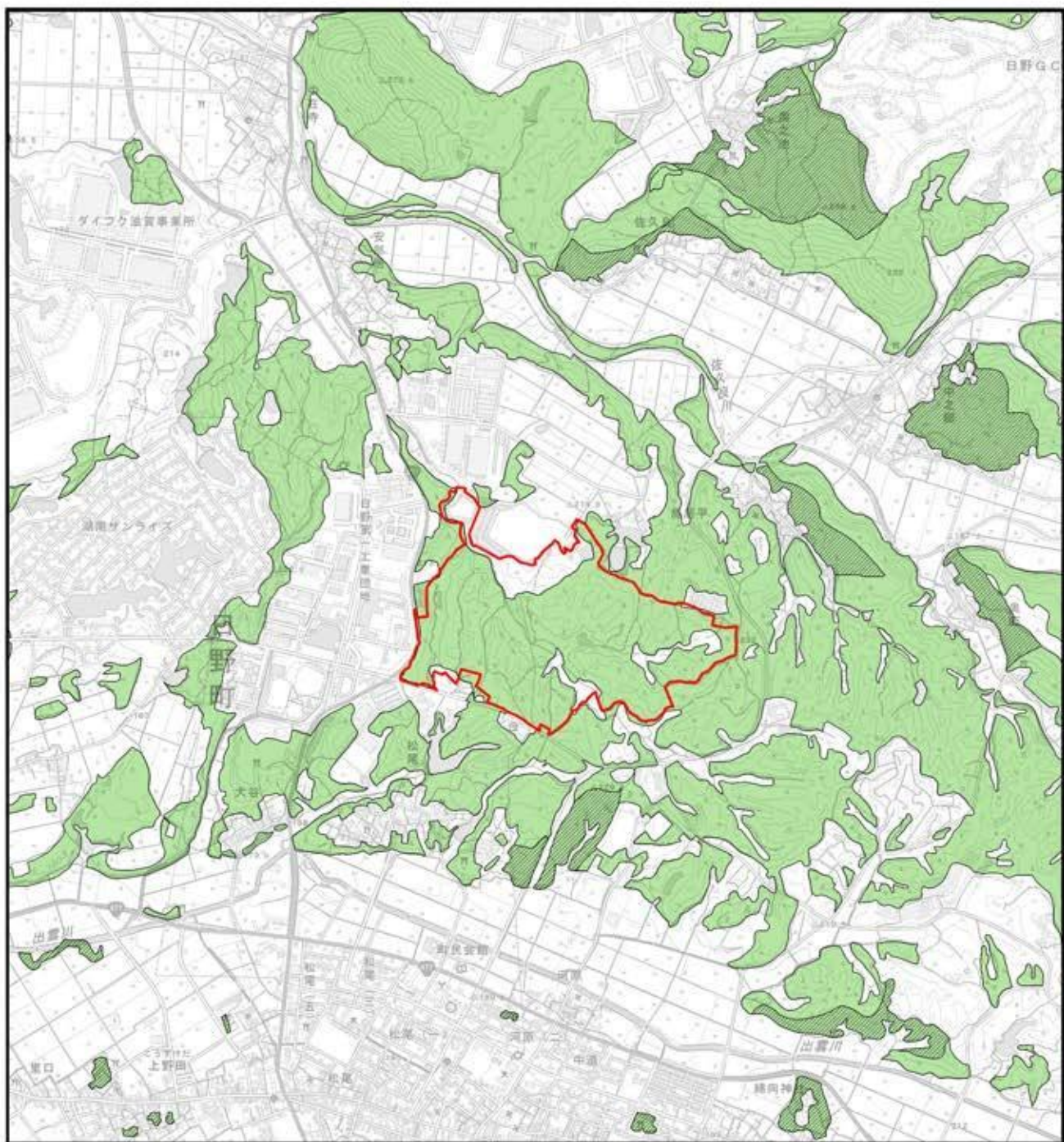
対象事業実施区域およびその周辺における農業振興地域等の指定状況は図４－２－１４に示すとおりであり、対象事業実施区域はいずれにも該当しない。



出典：日野町土砂災害ハザードマップに対する避難地図、日野町洪水ハザードマップ



出典：滋賀県「平成29年度狩猟者必携」、滋賀県ホームページ「ふるさと滋賀の自然とのふれあいコーナー」



1 : 25 , 000

500m 0 500 1000

対象事業実施区域

凡 例



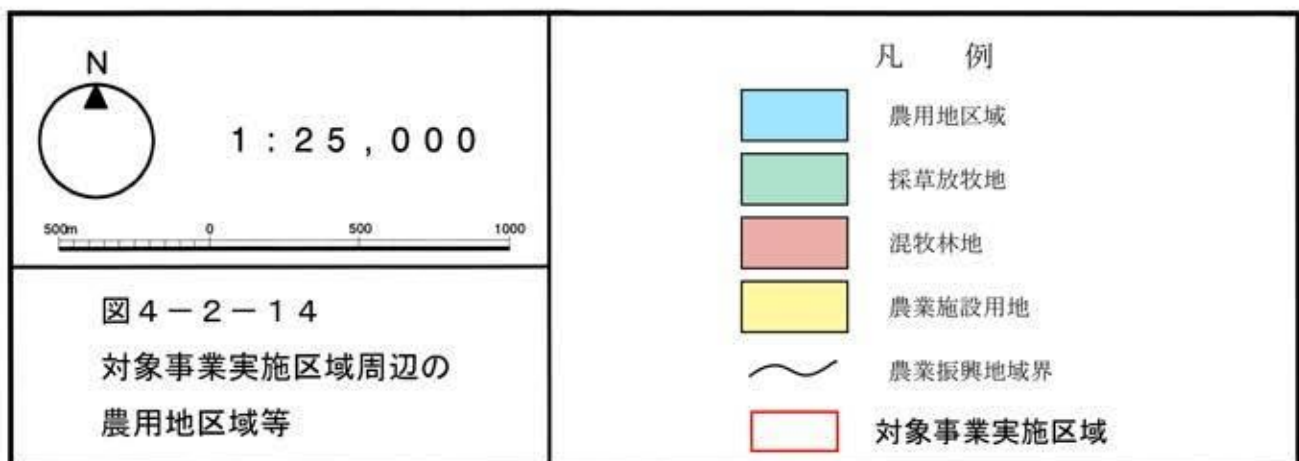
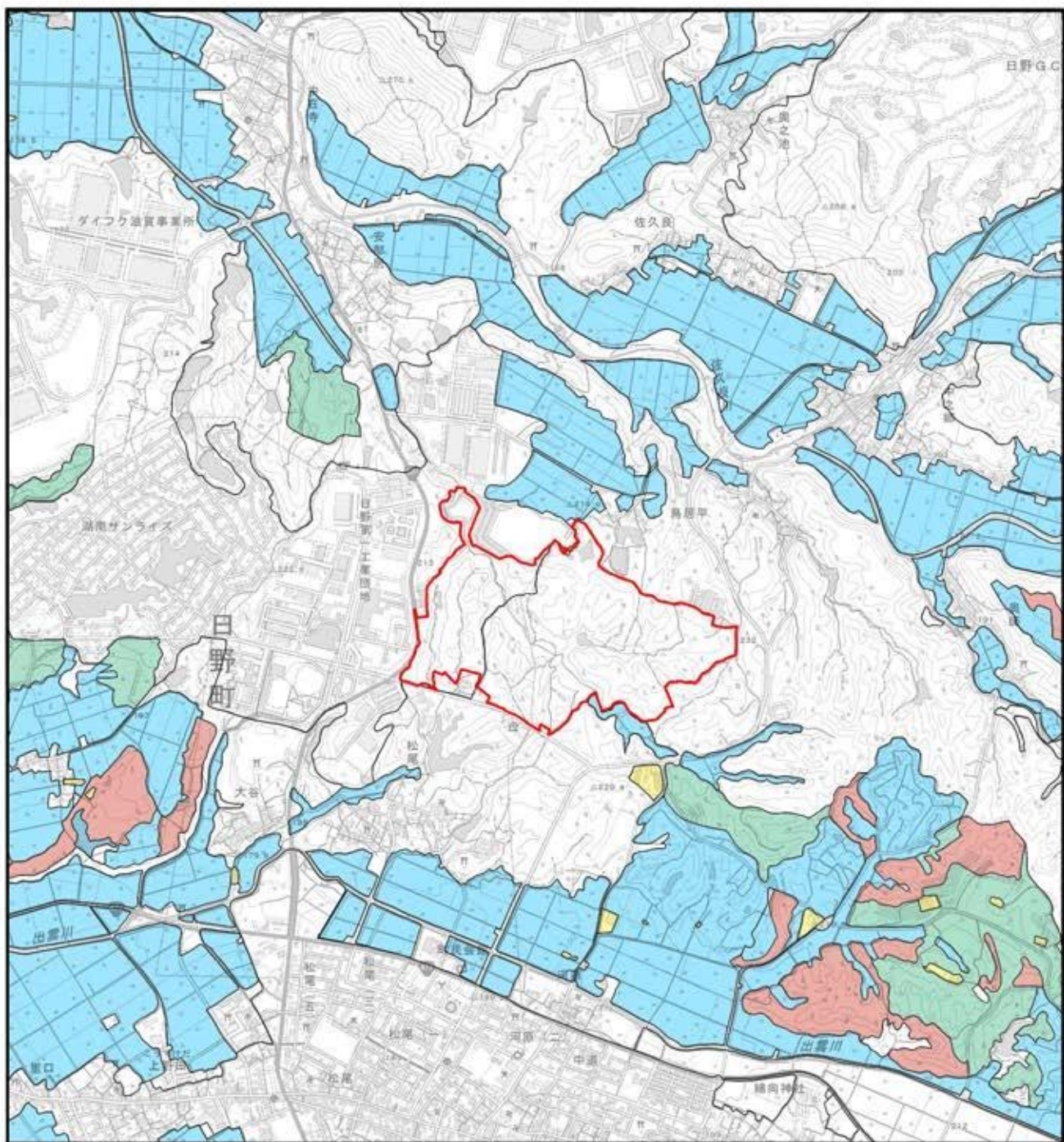
水源森林地域

制限林を含む小班

図 4 - 2 - 13

対象事業実施区域および周辺の
水源森林地域および保安林の分布

出典：滋賀県琵琶湖環境部森林政策課ホームページ 森林計画図(10,000分の1)の縦覧について、水源森林地域概要図 日野町



出典：日野町農林振興課資料